

木樹脂デッキⅡ 施工説明書

- この度は、当社製品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この施工説明書をよくお読みの上、作業を行ってください。
- 本説明書に示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたっては必ずお守りください。
- 施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
- この説明書は施工後必ず施主様へお渡しください。

注意事項

施工にあたっては次の点をご注意ください。

◎設置場所・位置について

- ガス給湯器などの熱や排気ガスが製品に直接当たる、またはこもるような場所に設置しないでください。熱による塗装劣化・剥離（はくり）、また排気ガスによる腐食の原因になります。

◎施工時の注意事項

- モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
- モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
- アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。
- 埋め込み柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。

- モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようご注意ください。
- 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- 輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
- 基礎施工は、地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。また、寒冷地はその地域にあった基礎工事を行ってください。
- 地盤が軟弱な場合は、柱の埋込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
- 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
- 改造・変更をしないでください。

この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。		「必ず行っていただくこと」を示す。

注意

- デッキを大引に固定する皿ビスの頭が必ずデッキ面以下となるように施工してください。また、ビス部分に樹脂のささくれ等が発生した場合、必ずヤスリできれいになしてください。
- デッキ端部等でケガをしないように、軍手、安全靴を使用してください。
- 夏場の直射日光下では、表面温度が高温になることがありますので、素足で歩かないようにしてください。必ず、スリッパ等の履物を使用してください。
- デッキ上のフェンスパネルに乗ったり、揺すったりしないでください。
- デッキ上のフェンスパネルに雨具、洗濯物、布団等を載せないでください。
- 重い物や鋭利な物を引きずったり、工具などの固い物を落としたりしないでください。キズ、割れの原因となります。



使用上のご注意について

- デッキ上のフェンス・ハイパーテーションに鉢等をかける場合は、1枚当たり5kgを越えないようにしてください。
- 樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性をもっていますが、濃酸、濃アルカリ、また、シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は使用しないでください。
- デッキの近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると変形、割れを生じることがあります。
- 樹脂は、微小火源には着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。また、70℃以上になると変形しますので、近くで焚き火をしたり高温のものを近づけたりしないでください。

樹脂製品のお手入れ方法について

- 汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープなどの接着面でたたくようにしてください。
- 汚れが軽い場合：やわらかい布かスポンジで水ぶきした後に空ぶきしてください。
- 年に数回の水洗いと、空ぶきだけでも効果的です。ただし、工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
- 汚れが目立つ場合：中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし洗剤が残らないように水洗いしてから空ぶきしてください。

※「木樹脂」は当社の登録商標です。

もくじ

梱包明細	3	3-8-1デッキ材の切断.....	48
各部の名称	6	3-8-2デッキ材の取付け	49
納まり図	8	3-8-3点検口蓋の組立て	49
基本寸法一覧表	8	3-9 UD 手すり柱部の施工 (オプション)	51
デッキ縦張り標準納まり	8	3-10 テラス柱部の施工 (オプション)	51
デッキ横張り標準納まり	8	3-11 デッキ材 2 段納まりの場合 (オプション)	52
基本断面図	9	4. デッキフェンス施工前の確認	53
デッキフェンス H800/1000 通し笠木タイプ納まり	10	4-1 柱の種類	53
デッキフェンス H800/1000 間柱タイプ納まり	11	4-2 柱芯々の設置寸法	54
デッキフェンス H1800 間柱タイプ控え柱納まり	12	4-3 角度自在コーナー柱の調整方法	54
デッキフェンス H1800 間柱タイプ埋込柱納まり	13	4-4 ベースプレートの取付方向	55
デッキフェンス扉納まり	14	4-5 パネルの切詰め	55
デッキフェンス段差納まり	16	4-5-1 パネルの分解と切詰め	55
デッキ R 鼻隠し納まり	17	4-5-2 胴縁の切詰めとパネルの組立て	56
デッキ台形納まり	17	5. デッキフェンス通し笠木タイプの取付け	57
点検口納まり (オプション)	18	5-1 ベースプレートの取付け	57
鼻隠しキャップ納まり	19	5-2 柱の設置	57
鼻隠し多段納まり (オプション)	19	5-3 パネルの取付け	59
デッキ材 2 段納まり (オプション)	20	5-4 柱端部材の取付け	60
UD 手すり納まり (オプション)	21	5-5 デッキフェンス扉の取付け (※デッキフェンス扉納まりの場合)	61
木樹脂テラス納まり (オプション)	22	5-5-1 蝶番の取付け	61
束柱・大引位置図	23	5-5-2 戸先縦枠の取付け	62
デッキ縦張り	23	5-5-3 扉の吊込み	62
デッキ横張り	26	5-5-4 錠の取付け	63
施工前の確認	29	5-6 通し笠木の取付け	63
1. 束柱・大引・根がらみの設置	30	5-6-1 通し笠木の切詰め	63
1-1 根がらみの切詰め	30	5-6-2 通し笠木の取付け	65
1-2 大引・根がらみの取付け	30	5-7 笠木キャップの取付け	65
1-2-1 デッキ縦張りの場合	30	5-8 通し笠木小口キャップの取付け (※扉コーナー納まりの場合)	66
1-2-2 デッキ横張りの場合	31	6. デッキフェンス間柱タイプの取付け	67
1-2-3 大引・根がらみの連結	31	6-1 ベースプレート柱の設置	67
1-3 束柱の設置	32	6-2 埋込柱の設置	68
1-3-1 高さ調整柱の設置	32	6-2-1 デッキ材の切欠き加工	68
1-3-2 埋込式長束柱の設置	33	6-2-2 間柱の設置	69
1-4 扉吊元柱の設置 (※デッキフェンス扉納まりの場合)	33	6-2-3 角度自在コーナー柱の設置	70
1-4-1 設置位置の確認	33	6-3 パネルの取付け	70
1-4-2 扉吊元柱の切詰め	34	6-4 柱端部材の取付け	71
1-4-3 大引の切断と束柱の設置	34	6-5 柱キャップの取付け	71
1-4-4 扉吊元柱の設置	35	6-6 控え柱の設置	72
1-5 UD 手すり柱の設置 (オプション)	35	6-6-1 控え柱の組立て	72
1-6 テラス柱の設置 (オプション)	36	6-6-2 控え柱の設置	73
1-7 デッキ材 2 段納まりの場合 (オプション)	37	6-7 段差納まりの施工	74
1-7-1 大引 (2 段納まり用) の切詰め	37	6-7-1 パネル・柱端部材の取付け	74
1-7-2 束柱・大引の設置	37	6-7-2 通し笠木の切詰め	75
2. 床下補強材の取付け	39	6-7-3 通し笠木の取付け	75
2-1 床下補強材・床下補強アングル取付例	39	7. 鼻隠しの取付け	76
2-2 床下補強材の切詰め	39	7-1 鼻隠しの切詰め	76
2-3 床下補強材・床下補強アングルの取付け	40	7-2 鼻隠しの取付け	76
3. デッキ材の取付け	41	7-3 鼻隠しキャップの取付け	77
3-1 デッキ材の切詰め	42	7-4 鼻隠し多段納まりの施工 (オプション)	79
3-2 鼻隠し取付金具の取付け	42	8. オプション品の取付け	80
3-3 デッキ材の取付け	43	8-1 階段の取付け	80
3-4 デッキの連結	45	8-2 デッキ材スキマフサギ材の取付け	82
3-5 デッキ材のビス止め	45	8-3 束柱化粧カバーの取付け	83
3-6 扉吊元柱部の施工 (※デッキフェンス扉納まりの場合)	46	施工工事店様、販売店様へのご願い	84
3-7 デッキ R 鼻隠し納まり・台形納まりのデッキ切断	47		
3-8 点検口の施工 (オプション)	47		

お願い

●正しい施工を行うために、必ず実施してください。

- 施工前に本説明書をよくお読みになり、施工開始後に手直しの出ないよう、事前の調査・打ち合わせを十分に行ってください。
- 完成プラン・取付スペース・工程・搬入実施日・搬入場所・施工実施日など、綿密に確認してください。

梱包明細

- 施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
- 説明書に記載している部材・部品（ビス含）以外は使用しないでください。

表内の（ ）は個数を表しています。

梱包名称			サイズ	梱包内容
大引	0.5 間	2 本入り	L=910	大引 (2)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (4)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	L=910	大引 (3)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (6)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (12)]
	1.0 間	2 本入り	L=1820	大引 (2)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (4)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	L=1820	大引 (3)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (6)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (12)]
	1.5 間	2 本入り	L=2730	大引 (2)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (4)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	L=2730	大引 (3)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (6)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (12)]
	2.0 間	2 本入り	L=3640	大引 (2)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (4)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	L=3640	大引 (3)・セット部品 (1) [デッキ材取付金具 (端部用) (6)・φ 4 × 13 皿セルフドリリングビス (12)]
束柱	標準束柱 (高さ調整)	2 本入り	束柱 A:L=254 束柱 B:L=200	調整束柱 (2)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (8)・φ 5 × 16 セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	束柱 A:L=254 束柱 B:L=200	調整束柱 (3)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (12)・φ 5 × 16 セルフドリリングビス (12)]
	長束柱 (高さ調整)	2 本入り	束柱 A:L=454 束柱 B:L=200	調整束柱 (2)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (8)・φ 5 × 16 セルフドリリングビス (8)]
		3 本入り	束柱 A:L=454 束柱 B:L=200	調整束柱 (3)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (12)・φ 5 × 16 セルフドリリングビス (12)]
	長束柱 (埋込式)	2 本入り	L=704	長束柱 (2)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (8)]
		3 本入り	L=704	長束柱 (3)・ビスセット (1) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (12)]
根がらみ	0.5 間	2 本入り	L=910	根がらみ (2)・ビスセット (2) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (5)]
	1.0 間	2 本入り	L=1820	根がらみ (2)・ビスセット (2) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (7)]
	1.5 間	2 本入り	L=2730	根がらみ (2)・ビスセット (2) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (9)]
	2.0 間	2 本入り	L=3640	根がらみ (2)・ビスセット (2) [φ 5 × 16 トラスタッピン 3 種 (11)]
デッキ材	1.0 間	2 本入り	L=1820	デッキ材 (2)
		3 本入り	L=1820	デッキ材 (3)
	1.5 間	2 本入り	L=2730	デッキ材 (2)
		3 本入り	L=2730	デッキ材 (3)
	デッキ材取付部品セット			デッキ材取付金具 (70)・φ 4 × 13 ナベセルフドリリングビス (70) 施工説明書 [ME-1738] (1)
鼻隠し	1.0 間		L=1820	鼻隠し (1)・ビスセット (1) [φ 4 × 25 皿セルフドリリングビス (6)]
	1.5 間		L=2730	鼻隠し (1)・ビスセット (1) [φ 4 × 25 皿セルフドリリングビス (8)]
	鼻隠し 90° コーナーキャップ			鼻隠し 90° コーナーキャップ (1)・φ 4 × 12 皿セルフドリリングビス (4) 施工説明書 [ME-1523] (1)
	鼻隠し連結キャップ			鼻隠し連結キャップ (1)・φ 4 × 12 皿セルフドリリングビス (4) 施工説明書 [ME-1523] (1)
	鼻隠し 90° コーナーキャップ (入隅用)			鼻隠し 90° コーナーキャップ (入隅用) (1)・φ 4 × 12 皿タッピン 1 種 (4)
	鼻隠し自在コーナーキャップ			鼻隠し自在コーナーキャップ (1)・φ 4 × 12 皿タッピン 1 種 (4)・ φ 4 × 25 皿セルフドリリングビス (2)
	鼻隠し取付金具			鼻隠し取付金具 (2)・φ 4 × 13 ナベセルフドリリングビス (4)

梱包明細

表内の () は個数を表しています。

梱包名称		サイズ	梱包内容
デッキフェンス柱 (通し笠木タイプ)	間柱	H800	間柱 (1)・セット部品 (1) [ベースプレート (1)・ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)]
		H1000	間柱 (1)・セット部品 (1) [ベースプレート (1)・ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)]
	90° コーナー柱	H800	90° コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレート (1)・ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)・通し笠木 90° コーナーキャップ (1)・φ 4 x 60 皿タッピン 2 種ガイド付 (3)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)]
		H1000	90° コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレート (1)・ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)・通し笠木 90° コーナーキャップ (1)・φ 4 x 60 皿タッピン 2 種ガイド付 (3)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)]
	角度自在コーナー柱	H800	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (4)・通し笠木自在コーナーキャップ (1)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種ガイド付 (4)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)]
		H1000	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付 (4)・通し笠木自在コーナーキャップ (1)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種ガイド付 (4)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)]
	柱端部材	H800	柱端部材 (2)・ビスセット (1) [ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)]
		H1000	柱端部材 (2)・ビスセット (1) [ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)]
デッキフェンス柱 (間柱タイプ)	間柱	H800	間柱 (1)・セット部品 (1) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)]
		H1000	間柱 (1)・セット部品 (1) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)]
		H1800	間柱 (1)・セット部品 (1) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)]
		H1800 (埋込柱)	間柱 (1)・セット部品 (1) [デッキ材受け (1)・柱下部カバー (2)・φ 4 x 16 ナベセルフドリリングビス (6)・φ 5 x 50 皿セルフドリリングビス (4)]
	角度自在コーナー柱	H800	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・コーナー柱キャップ (2)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種 (4)]
		H1000	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・コーナー柱キャップ (2)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種 (4)]
		H1800	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [ベースプレートカバー (2)・フェンス固定ビス (4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・ワッシャー (6)・コーナー柱キャップ (2)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種 (4)]
		H1800 (埋込柱)	角度自在コーナー柱 (1)・セット部品 (2) [コーナー柱キャップ (2)・φ 4 x 20 皿タッピン 2 種 (4)・コーナー自在柱カバー (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (4)]
	柱端部材	H800	柱端部材 (2)・施工説明書 [ME-1338] (1)・セット部品 (2) [柱キャップ (1)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 4 x 35 皿セルフドリリングビス (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 30 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)]
		H1000	柱端部材 (2)・施工説明書 [ME-1338] (1)・セット部品 (2) [柱キャップ (1)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 4 x 35 皿セルフドリリングビス (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 30 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)]
		H1800	柱端部材 (2)・施工説明書 [ME-1338] (1)・セット部品 (2) [柱キャップ (1)・ワッシャー (6)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 4 x 35 皿セルフドリリングビス (2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (4)・φ 4 x 30 ナベタッピン 2 種ガイド付 (8)]
	H18 用控え柱		控え柱 (1)
	控え柱うで木		控え柱うで木 (2)・セット部品 (1) [ブラケット (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (16)・φ 4 x 30 ナベセルフドリリングビス (8)]

梱包明細

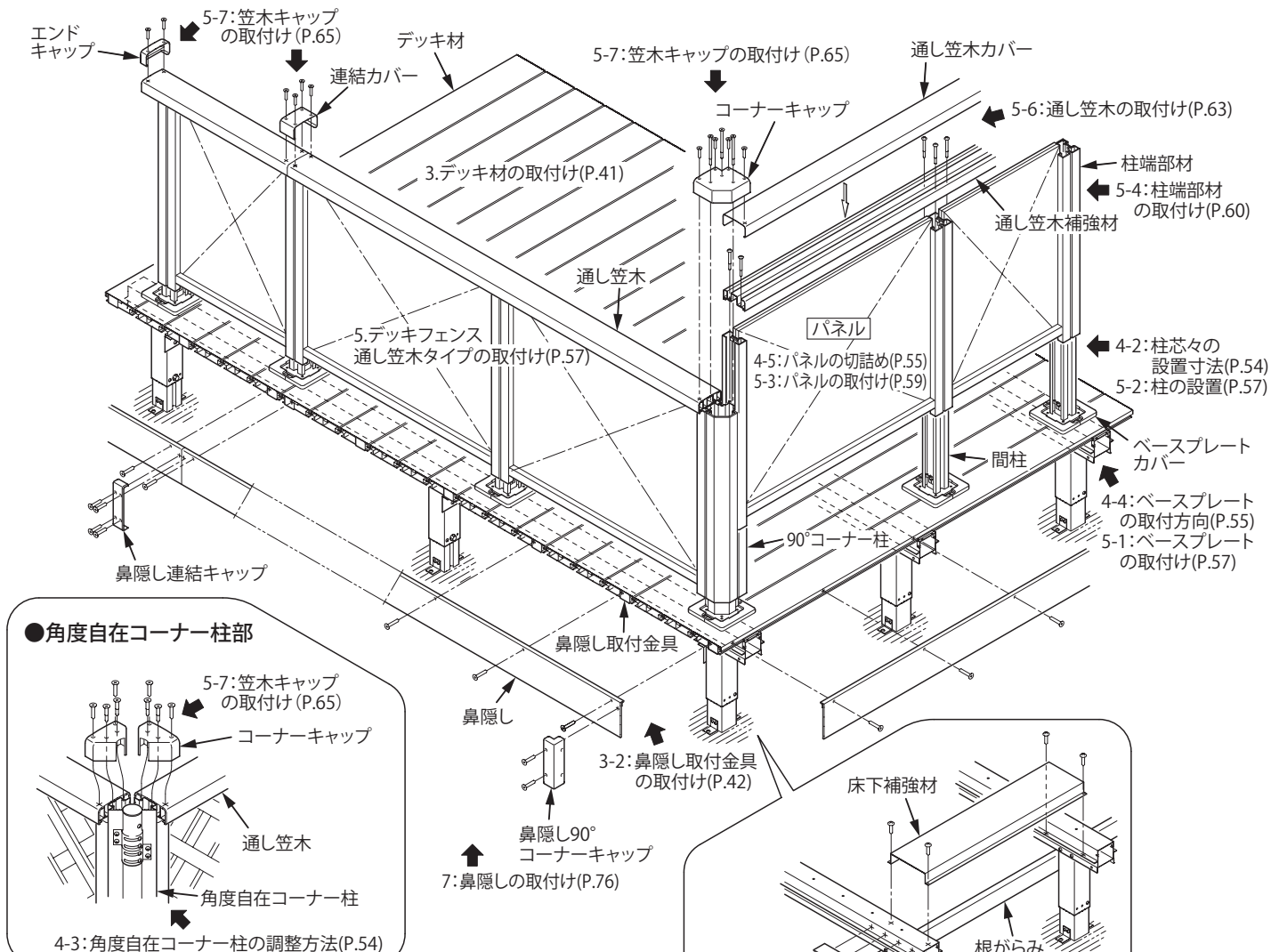
表内の () は個数を表しています。

梱包名称			サイズ	梱包内容
通し笠木	1 スパン用		L=1073	通し笠木 (1)
	2 スパン用		L=1983	通し笠木 (1)
	通し笠木用エンドキャップ			通し笠木用エンドキャップ (2)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)
	通し笠木用連結キャップ			通し笠木連結カバー (1)・φ 4 x 19 皿セルフドリリングビス (4)
パネル本体 (通し笠木タイプ)	0608		W564/H800	パネル本体 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 16 皿タッピン 3 種 (2)]
	0610		W564/H1000	パネル本体 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 16 皿タッピン 3 種 (2)]
	0908		W910/H800	パネル本体 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 16 皿タッピン 3 種 (2)]
	0910		W910/H1000	パネル本体 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 16 皿タッピン 3 種 (2)]
パネル本体 (間柱タイプ)	1208		W1200/H800	パネル本体 (1)・セット部品 (1) [柱キャップ (1)・ワッシャー (2)・φ 4 x 35 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)]
	1210		W1200/H1000	パネル本体 (1)・セット部品 (1) [柱キャップ (1)・ワッシャー (2)・φ 4 x 35 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)]
	0818		W1200/H1800	パネル本体 (1)・セット部品 (1) [柱キャップ (1)・ワッシャー (2)・φ 4 x 35 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (2)]
床下補強材	床下補強材	1 本入り	L=838	床下補強材 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (4)]
		2 本入り		床下補強材 (2)・ビスセット (1) [φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (8)]
		1 本入り	L=1680	床下補強材 (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (8)]
	床下補強アングル			床下補強アングル(2)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス(8)・φ 6 x 35 ナベタッピン1種(4)
デッキフェンス用 扉 (通し笠木タイプ)	扉本体		H800	扉本体 (1)
			H1000	扉本体 (1)
	扉吊元柱		H800	扉吊元柱 (1)・戸先縦枠 (1)・セット部品 (1) [蝶番 (2)・蝶番ブラケット (4)・内掛錠 (1)・南京錠受け (2) 吊元柱カバー (2)・ベースプレートカバー (2)・通し笠木小口キャップ (1)・デッキ材受け (2)・φ 4 x 14 皿小ネジ (20)・φ 4 x 16 ナベセルフドリリングビス(12)・φ 4 x 16 皿セルフドリリングビス(4)・φ 4 x 12 トラストタッピン 3 種 (20)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (1)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (9)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付(4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス(2)・φ 5 x 50 皿セルフドリリングビス (4)]
				扉吊元柱 (1)・戸先縦枠 (1)・セット部品 (1) [蝶番 (2)・蝶番ブラケット (4)・内掛錠 (1)・南京錠受け (2) 吊元柱カバー (2)・ベースプレートカバー (2)・通し笠木小口キャップ (1)・デッキ材受け (2)・φ 4 x 14 皿小ネジ (20)・φ 4 x 16 ナベセルフドリリングビス(12)・φ 4 x 16 皿セルフドリリングビス(4)・φ 4 x 12 トラストタッピン 3 種 (20)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (1)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (9)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付(4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス(2)・φ 5 x 50 皿セルフドリリングビス (4)]
			H1000	扉吊元柱 (1)・戸先縦枠 (1)・セット部品 (1) [蝶番 (2)・蝶番ブラケット (4)・内掛錠 (1)・南京錠受け (2) 吊元柱カバー (2)・ベースプレートカバー (2)・通し笠木小口キャップ (1)・デッキ材受け (2)・φ 4 x 14 皿小ネジ (20)・φ 4 x 16 ナベセルフドリリングビス(12)・φ 4 x 16 皿セルフドリリングビス(4)・φ 4 x 12 トラストタッピン 3 種 (20)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (1)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (9)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付(4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス(2)・φ 5 x 50 皿セルフドリリングビス (4)]
				扉吊元柱 (1)・戸先縦枠 (1)・セット部品 (1) [蝶番 (2)・蝶番ブラケット (4)・内掛錠 (1)・南京錠受け (2) 吊元柱カバー (2)・ベースプレートカバー (2)・通し笠木小口キャップ (1)・デッキ材受け (2)・φ 4 x 14 皿小ネジ (20)・φ 4 x 16 ナベセルフドリリングビス(12)・φ 4 x 16 皿セルフドリリングビス(4)・φ 4 x 12 トラストタッピン 3 種 (20)・ワッシャー (4)・φ 4 x 16 トラストタッピン 3 種 (1)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (9)・φ 4 x 40 ナベタッピン 2 種ガイド付(4)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス(2)・φ 5 x 50 皿セルフドリリングビス (4)]
オプション	階段材		1 段	階段材 (1)・補助柱 (2)・セット部品 (1) [側板ブラケット (2)・M8 x 20 六角ボルト (4)・M8 x 30 六角ボルト (4)・ワッシャー (8)・スプリングワッシャー (8)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)]
			2 段	階段材 (1)・補助柱 (2)・セット部品 (1) [側板ブラケット (2)・M8 x 20 六角ボルト (4)・M8 x 30 六角ボルト (4)・ワッシャー (8)・スプリングワッシャー (8)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)]
	点検口部品セット			取手付デッキ材 (2)・連結材 (2)・セット部品 (1) [クッション材 (8)・φ 4 x 45 ナベセルフドリリングビス (28)]
	束柱化粧カバーセット			カバー A (1)・カバー B (1)・ビスセット (1) [φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (2)]
	デッキ材スキマフサギ材		L=2720	デッキ材スキマフサギ材 (5)
	鼻隠し多段納まり用部品			補助柱 (2)・セット部品 (1) [バックアップライナー (12)・φ 4 x 30 皿セルフドリリングビス (6)]
	デッキ材 2 段納まり用部品			段床納まり用部品 (2)・デッキ材取付金具 (端部用) (2)・M6 ターンナット (2)・φ 4 x 13 ナベセルフドリリングビス (4)・φ 6 x 25 トラストタッピン 3 種 (2)・φ 5 x 16 トラストタッピン 3 種 (8)・φ 4 x 13 皿セルフドリリングビス (4)
	デッキ下メッシュパネル			メッシュパネル (1)
	デッキ下メッシュパネル部品			デッキ下パネル取付金具 (4)・中間継手 (2)・φ 4 x 13 ナベセルフドリリングビス (8)・φ 4 x 10 トラス小ネジ (2)
	デッキ材小口キャップ			デッキ材小口キャップ (10)・φ 4 x 19 ナベセルフドリリングビス (20)
	段差連結部品			段差連結部品 (1)・φ 4 x 25 ナベセルフドリリングビス (2)・φ 4 x 10 トラストタッピン 3 種 (2)
	テラス接続部品			接続カバー (2)・接続カバーキャップ (1)・セット部品 (1) [デッキ材受け (2) φ 5 x 70 皿セルフドリリングビス (4)・φ 5 x 35 皿セルフドリリングビス (5) 70 角柱カバー(1)・φ 4 x 16 セルフドリリングビス(6)]
	UD 手摺 (間柱)		H1000	間柱 (1)・セット部品 (2) [ブラケット受け材 (1)・M6 x 18 ボルト (2)・スプリングワッシャー (2)・ワッシャー (2)・コーナー自在柱カバー (2)・φ 4 x 19 セルフドリリングビス (4)]
	UD 手摺 (自在コーナー柱)		H1000	自在コーナー柱 (1)・セット部品 (1) [コーナー自在柱カバー (2)・φ 4 x 19 セルフドリリングビス (4)]

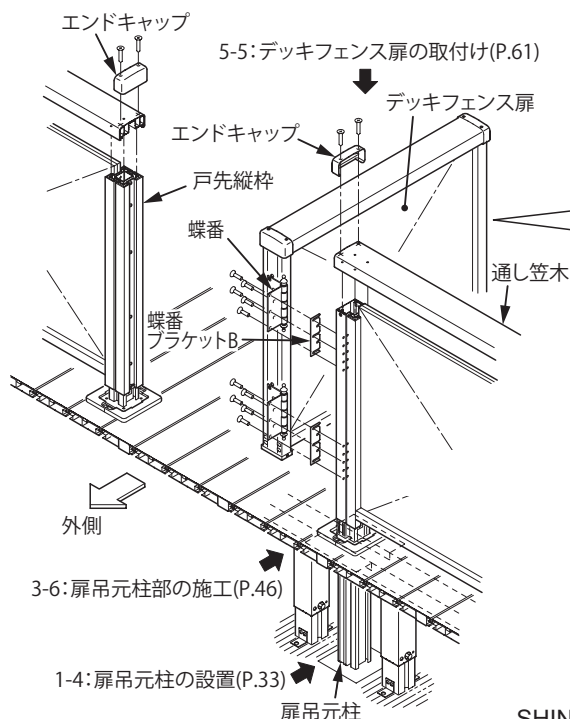
各部の名称

- 組立施工および調整の説明項目を示す。施工作業前に確認してください。
- ここでは、デッキフェンスを施工する場合を示す。
- ※ () 内は説明ページを示す。

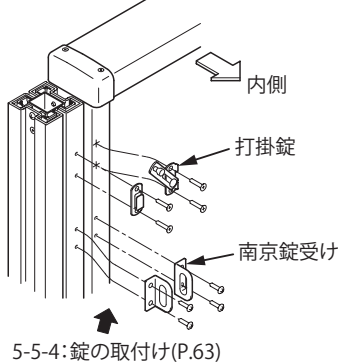
●デッキフェンス通し笠木タイプ施工の場合



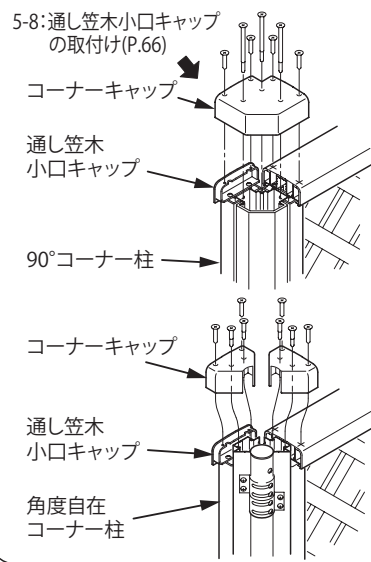
●デッキフェンス扉施工の場合



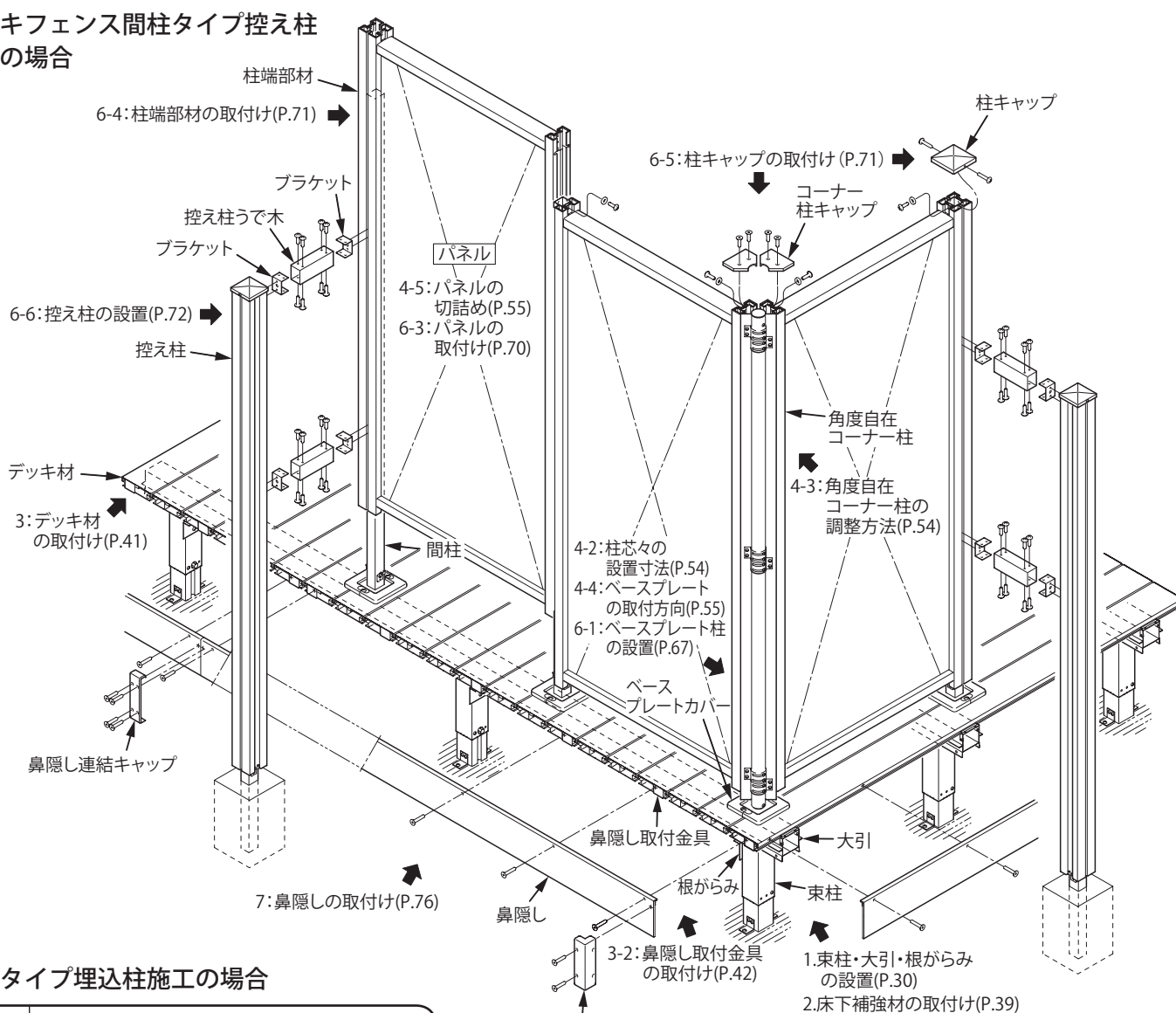
●内側から見る



●扉コーナー納まりの場合



●デッキフェンス間柱タイプ控え柱 施工の場合

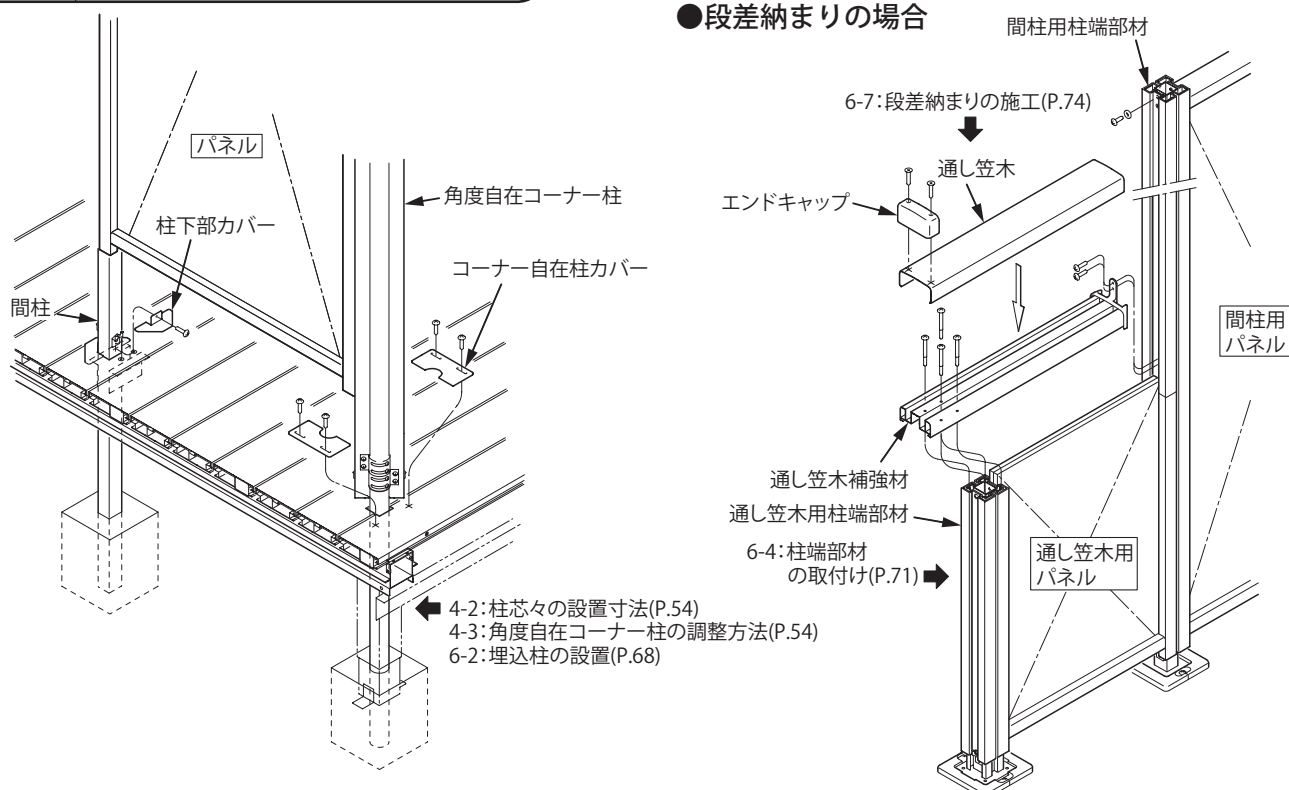


●間柱タイプ埋込柱施工の場合



埋込柱と大引が干渉しないよう、大引を 70mm ずらして設置します。

●段差納まりの場合



納まり図

- この納まり図は、間口 (W) :1.5 間、奥行 (D):6 尺の場合を示す。
- 間口：Nw、奥行：Nd に数字をあてはめて、規格サイズの寸法を算出してください。

基本寸法一覧表

●間口寸法

間口	W	間口	W
1.0 間	1820	2.5 間	4550
1.5 間	2730	3.0 間	5640
2.0 間	3640	3.5 間	6370
		4.0 間	7280

●奥行寸法

出巾	D
3 尺	910
6 尺	1820
9 尺	2730
12 尺	3640

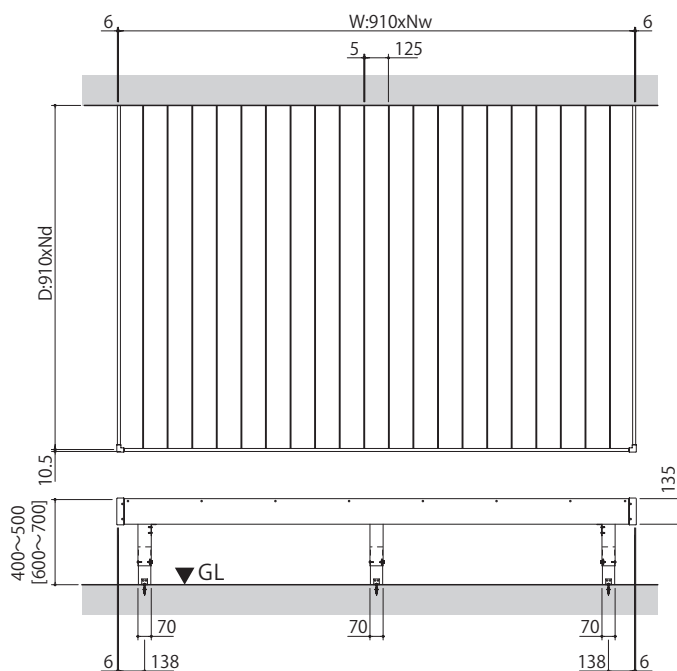
●高さ寸法

奥行	標準柱 (調整式)	長束柱 (調整式)	長束柱 (埋込式)
H	450	650	700

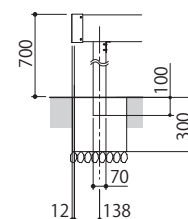
デッキ縦張り標準納まり

- ※ () 内寸法は、間柱タイプの埋込柱を設置する場合を示す。
- ※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

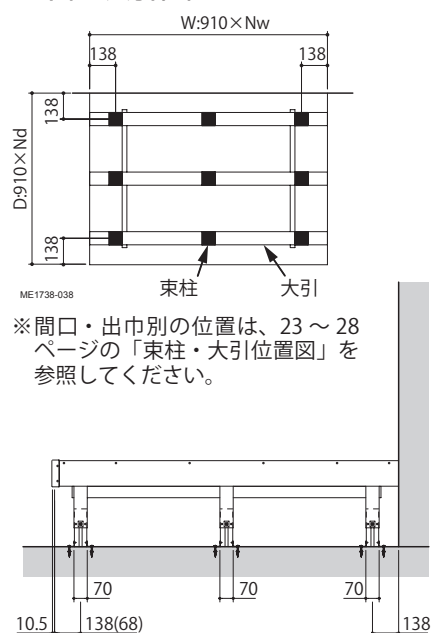
●基本納まり図



●埋込式長束柱



●束柱・大引位置

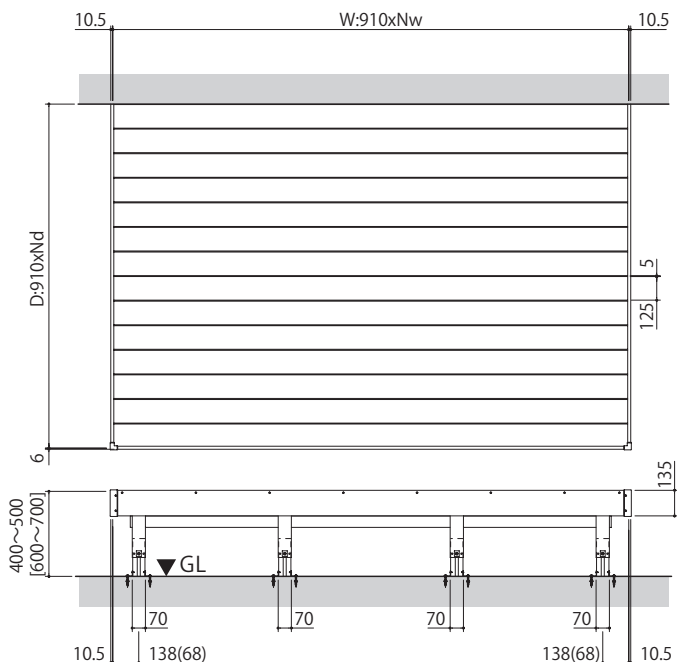


※間口・出巾別の位置は、23～28ページの「束柱・大引位置図」を参照してください。

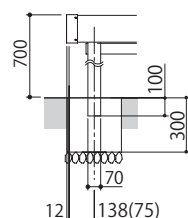
デッキ横張り標準納まり

- ※ () 内寸法は、間柱タイプの埋込柱を設置する場合を示す。
- ※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

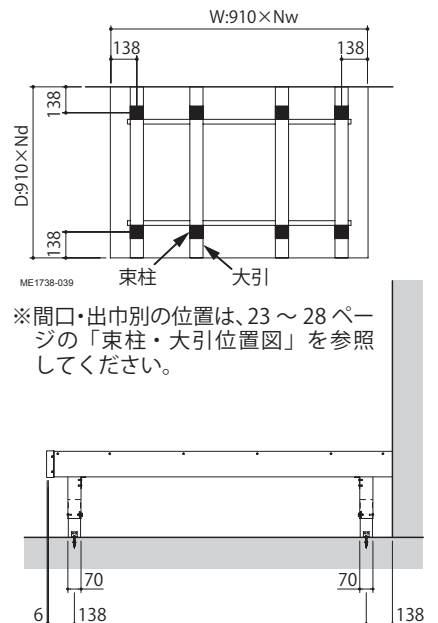
●基本納まり図



●埋込式長束柱



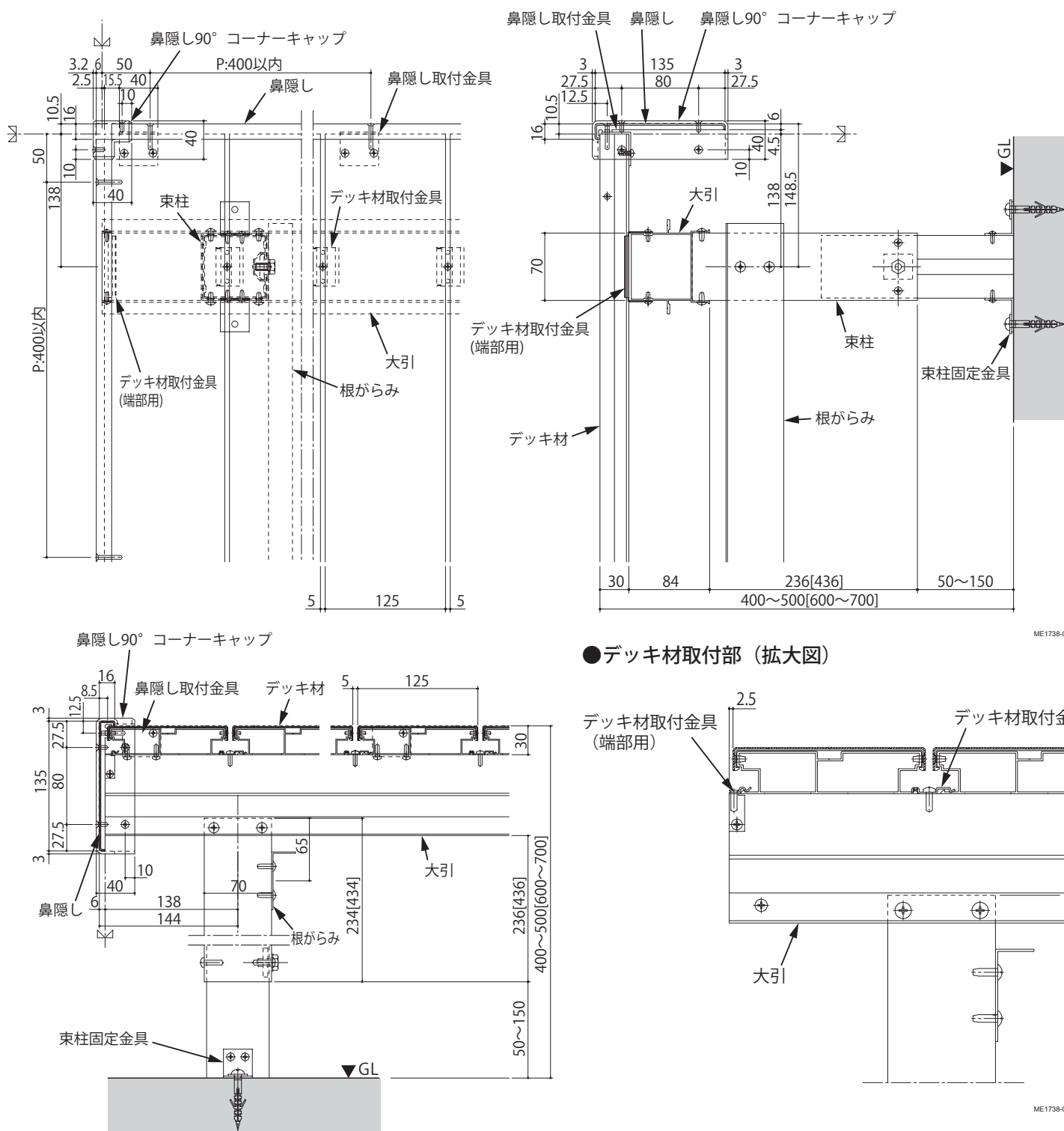
●束柱・大引位置



※間口・出巾別の位置は、23～28ページの「束柱・大引位置図」を参照してください。

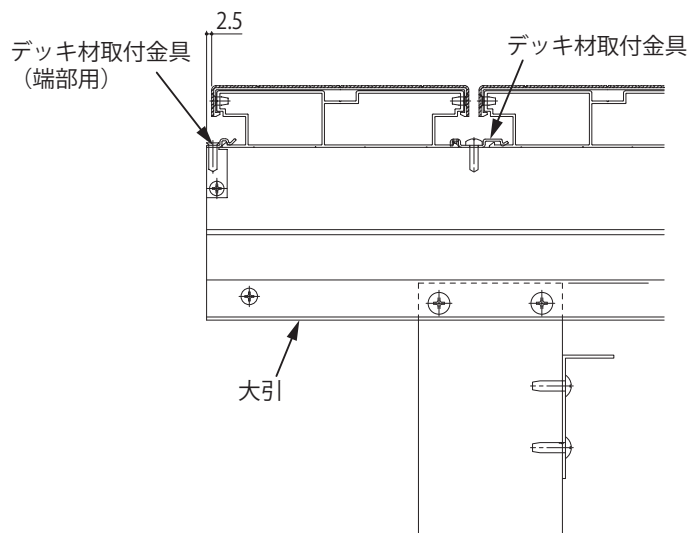
基本断面図

※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。



ME1738-036

●デッキ材取付部 (拡大図)



ME1738-056

納まり図

デッキフェンス H800/1000 通し笠木タイプ納まり

※この納まり図は、間口 (W):1.5 間、奥行 (D):6 尺の本体に、デッキフェンス H1000 を L 字型に納めた場合を示す。

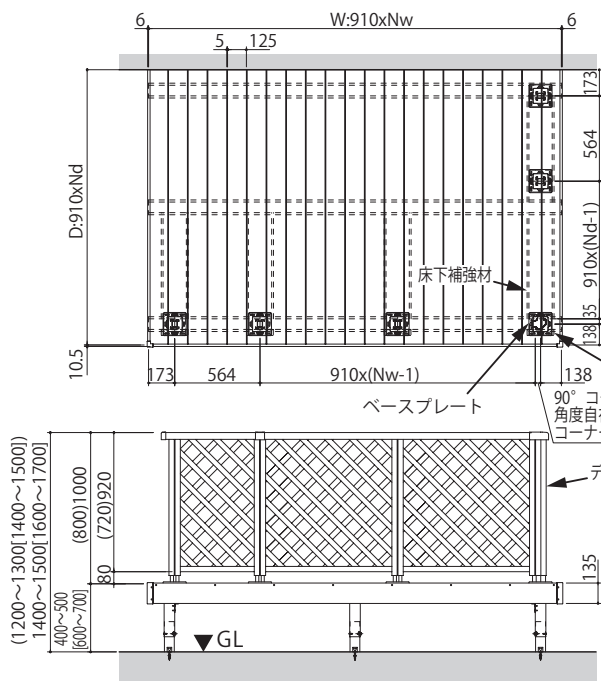
※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

※ () 内寸法は、H800 を示す。

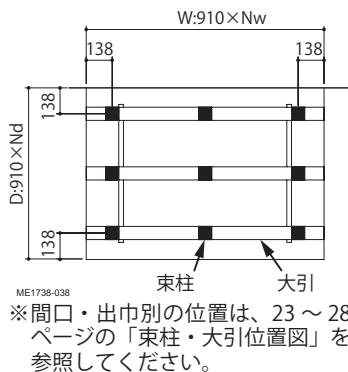


柱のベースプレート取付位置に、床下補強材・床下補強アングルが必要です。

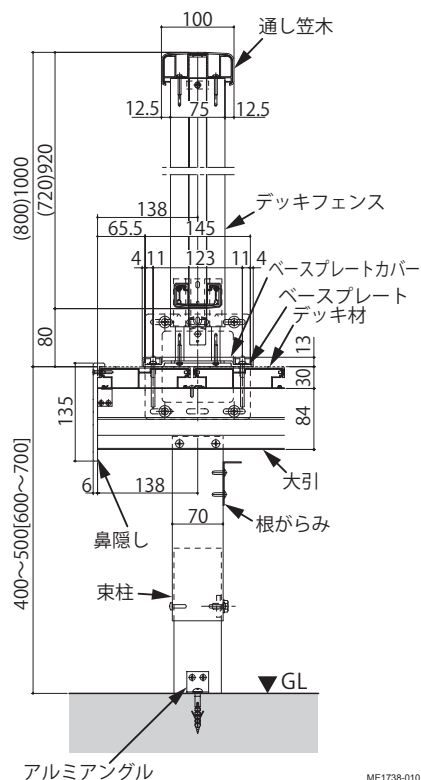
●基本納まり図



●束柱・大引位置

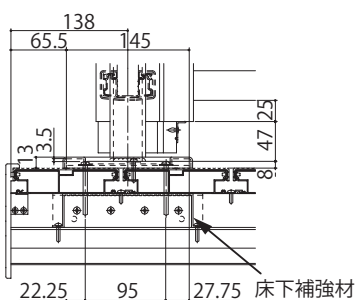


●縦断面図

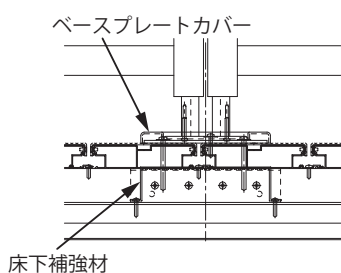


●柱下部納まり

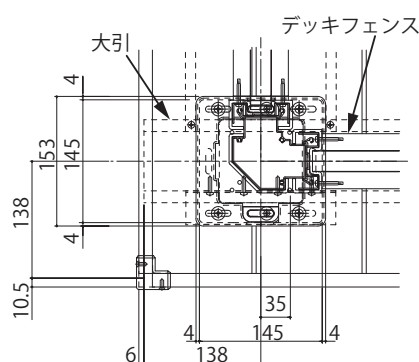
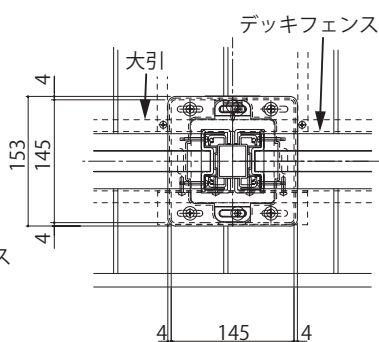
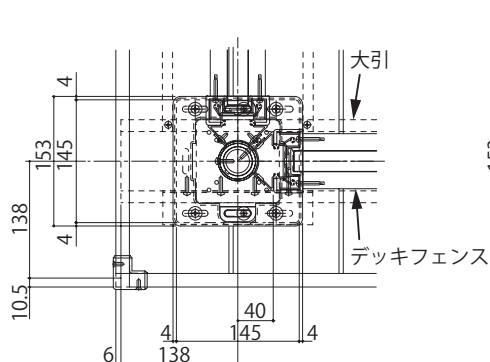
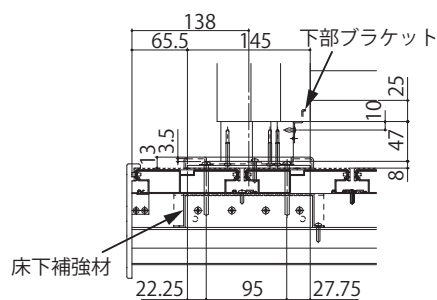
角度自在コーナー部



間柱部



90° コーナー柱部



デッキフェンス H800/1000 間柱タイプ納まり

※この納まり図は、間口 (W):1.5 間、奥行 (D):6 尺の本体に、デッキフェンス H1000 を L 字型に納めた場合を示す。

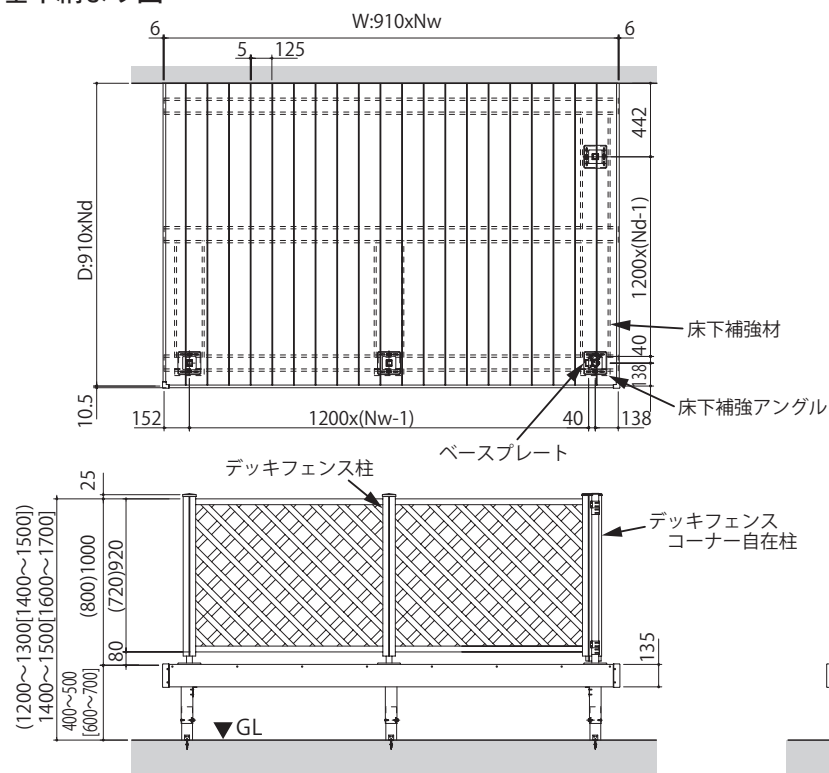
※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

※ () 内寸法は、H800 を示す。

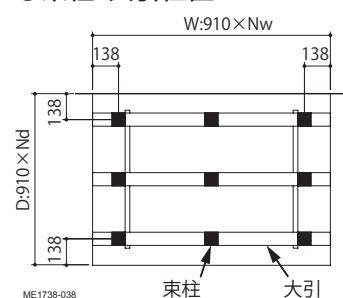


柱のベースプレート取付位置に、床下補強材・床下補強アングルが必要です。

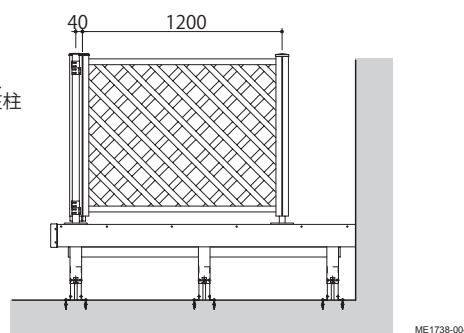
●基本納まり図



●束柱・大引位置

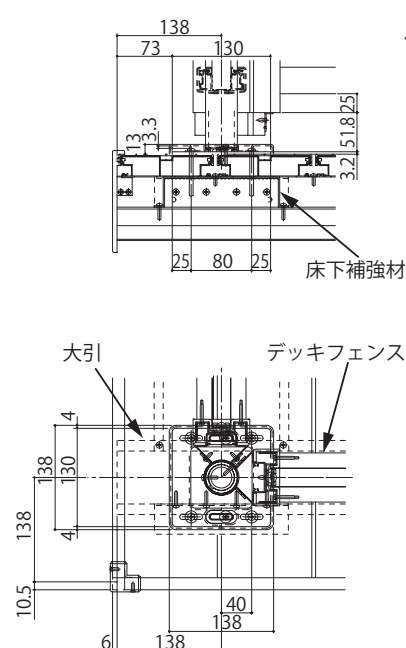


※間口・出巾別の位置は、23～28 ページの「束柱・大引位置図」を参照してください。

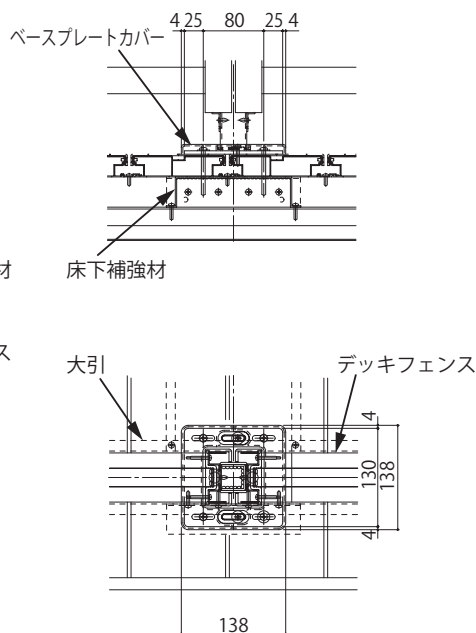


●柱下部納まり

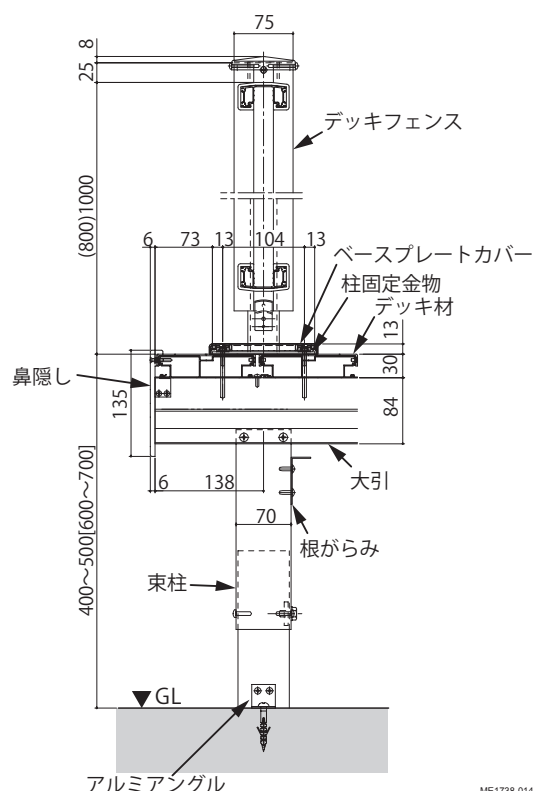
角度自在コーナー部



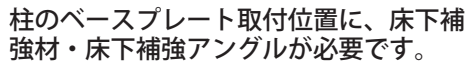
間柱部



●縦断面図



※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。



納まり図 (Assembly Drawing)

Top View:

- Overall width: $W:910 \times Nw$
- Overall height: $D:910 \times Nd$
- Top rail dimensions: 6, 5, 125, 6
- Vertical spacing between balusters: 842
- Bottom rail dimensions: 952, 800(Nw-1), 40, 138
- Labels: 床下補強材 (Underlayment), 床下補強アングル (Underlayment Angle)

Side View:

- Overall height: 2200 ~ 2300 [2400 ~ 2500]
- Deck fence post height: 1800, 1720
- Deck fence post diameter: 400 ~ 500 [600 ~ 700]
- Deck fence post base height: 80
- Deck fence post base width: 135
- Labels: デッキフェンス柱 (Deck Fence Post), ベースプレート (Base Plate), デッキフェンスコーナー自在柱 (Deck Fence Corner Adjustable Post), 控え柱 (Support Post)
- Ground level: GL
- Bottom dimensions: 450 [650], 53, 20, 1825, 999, 250

ME1738-038

ME1738-005

Technical drawing of a deck railing system, showing a side elevation and a top-down view of the post connection.

Side Elevation Labels and Dimensions:

- 控え柱うで木** (Post Bracket Wood): 75, 141, 75
- 控え柱うで木ブラケット** (Post Bracket)
- デッキフェンス** (Deck Fence): 6, 73, 13, 104, 13
- 控え柱** (Post): 1800, 53, 700, 1825
- 鼻隠し** (Nose Guard): 944, 84, 30, 13
- ベースプレートカバー** (Base Plate Cover): 13
- 柱固定金物** (Post Fastener)
- デッキ材** (Deck Material): 13
- 大引** (Main Rafter): 70
- 根がらみ** (Rooting)
- 束柱** (Post): 34.5, 6, 138
- ノグレ** (Nogre): 400~500(600~700)
- GL** (Ground Level): 250, 40

Top-down View Labels and Dimensions:

- 216** (Overall width)
- 75** (Post width)

デッキフェンス H1800
間柱タイプ埋込柱納まり

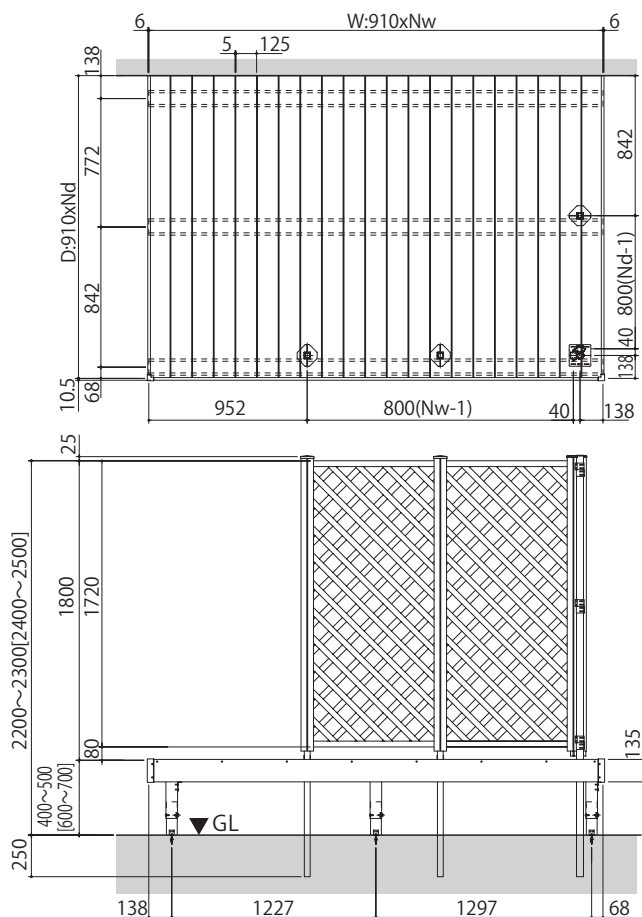
※この納まり図は、間口 (W):1.5 間、奥行 (D):6 尺の本体に、デッキフェンスを L 字型に納めた場合を示す。

※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。



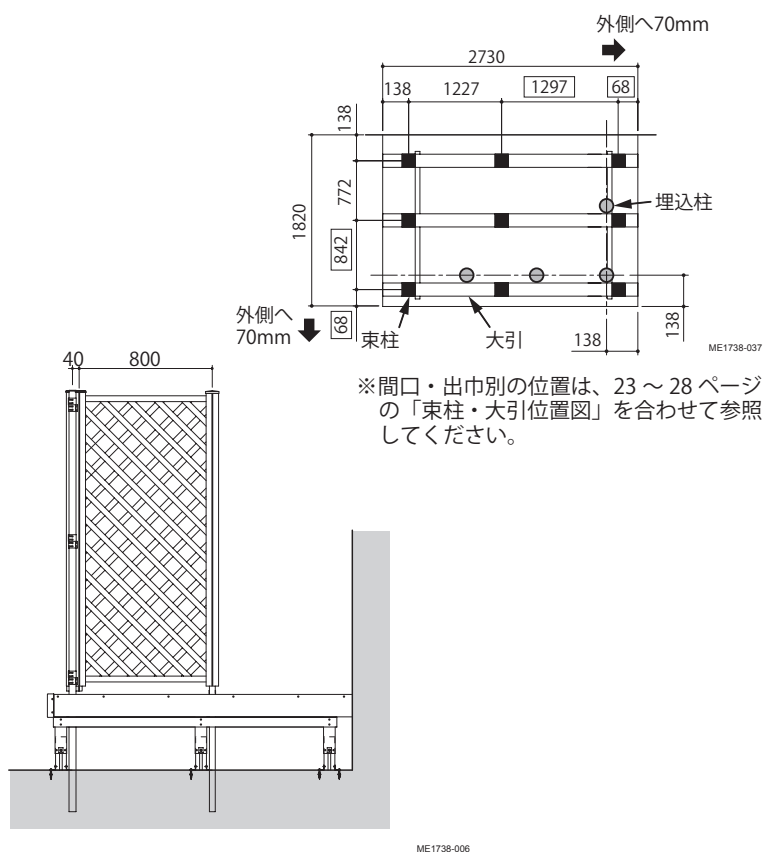
- 埋込柱と干渉する位置の束柱・大引を 70mm ずらして設置します。
- 床下補強材・床下補強アングルは必要ありません。

●基本納まり図



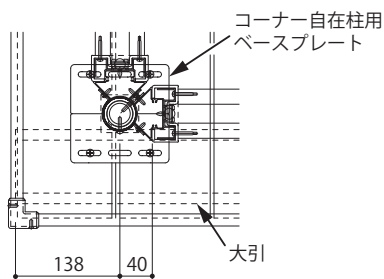
●束柱・大引位置

☐:標準位置から70mmずらして設置する

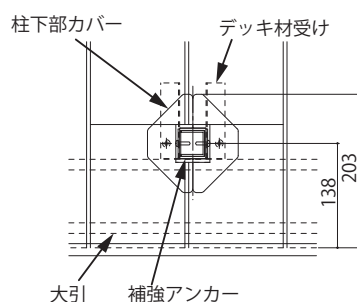


●柱下部納まり

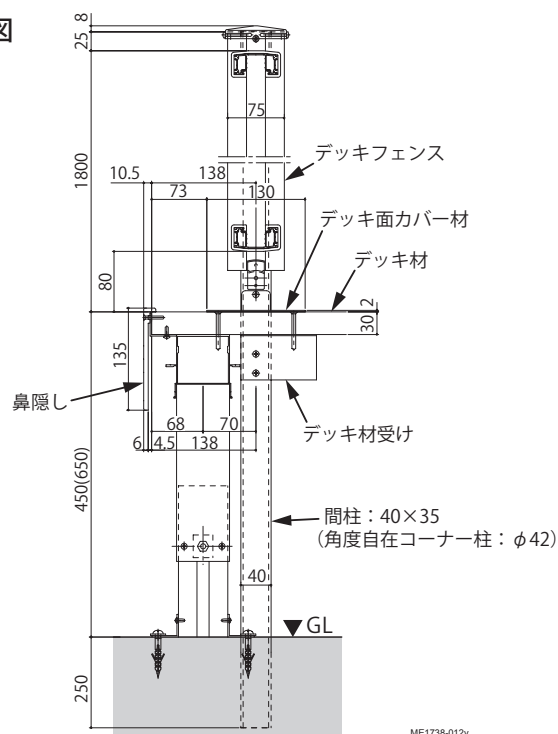
コ一ナ一部



中間部



●縦断面図



納まり図

デッキフェンス扉納まり

※この納まり図は、間口(W):1.5 間、奥行(D):6 尺の本体に、「デッキフェンス H800 通し笠木」+「デッキフェンス扉 H800 通し笠木タイプ」+「デッキ用階段(2 段)」を納めた場合を示す。

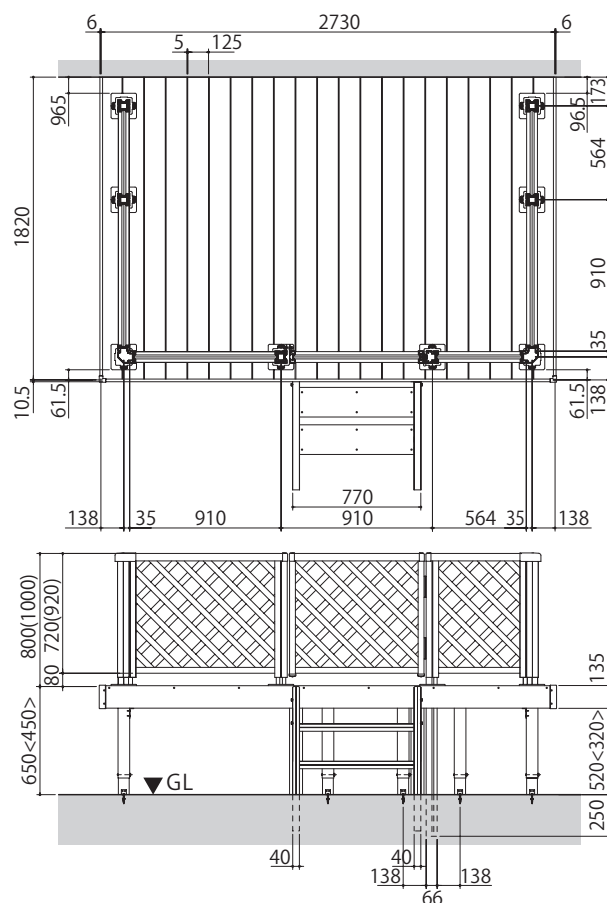
※ () 内寸法は、H1000 を示す。

※ < > 内寸法は、デッキ用階段 (1 段) を示す。

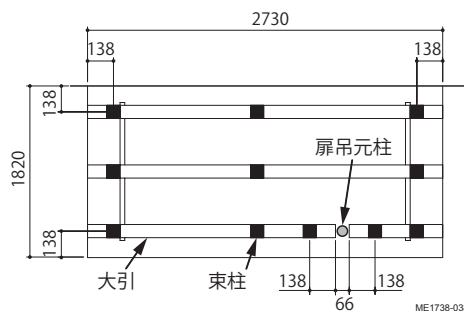


- 本図は一例です。その他の組み合わせも可能です。
- 埋込式の扉吊元柱を使用します。
- 扉吊元柱と大引が干渉する場合は、大引を切断し束柱 2 本を設置します。
(※束柱・大引位置図参照)

●基本納まり図

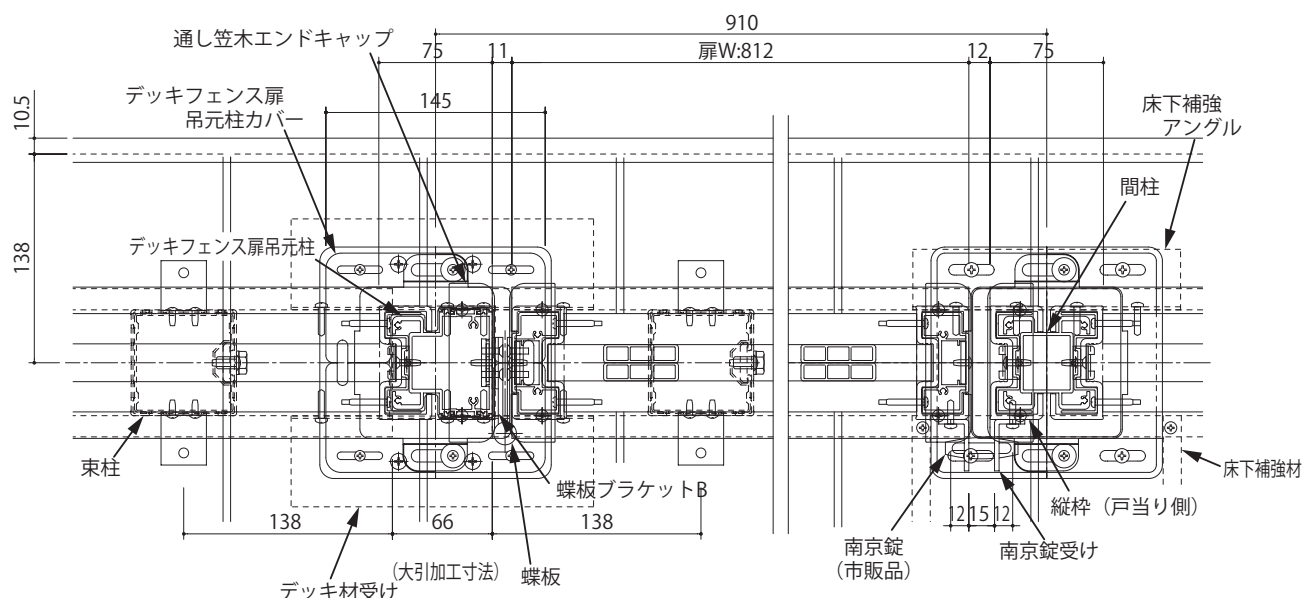


●束柱・大引位置



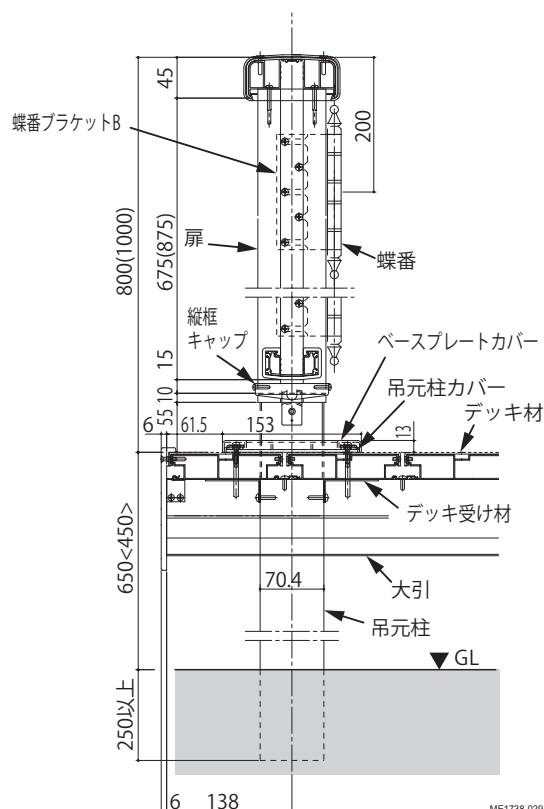
※間口・出巾別の位置は、23 ～ 28 ページの「束柱・大引位置図」を参照してください。

●横断面図



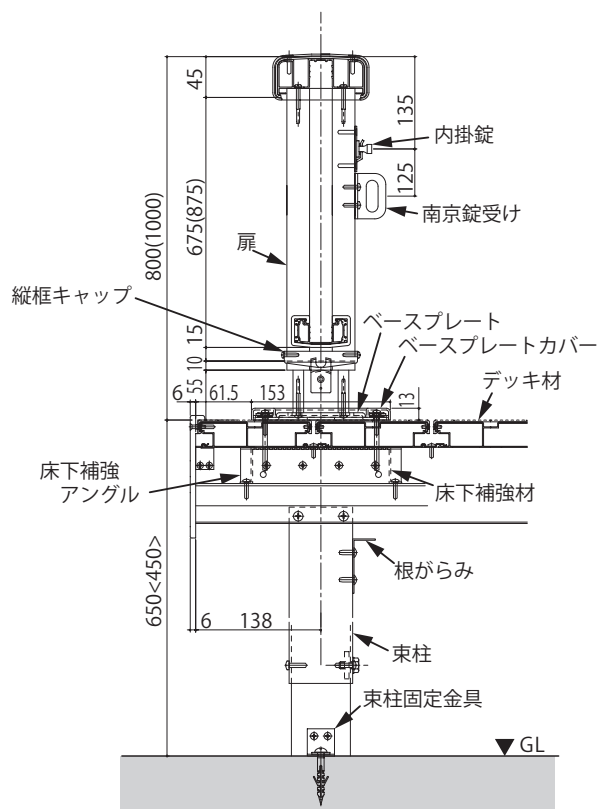
●縦断面図

吊元側



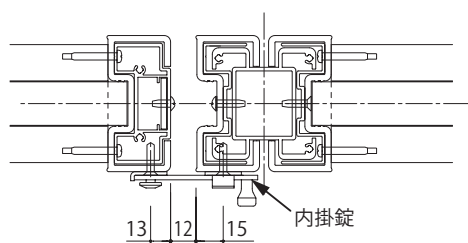
ME1738-029

戸当り側



ME1738-030-2

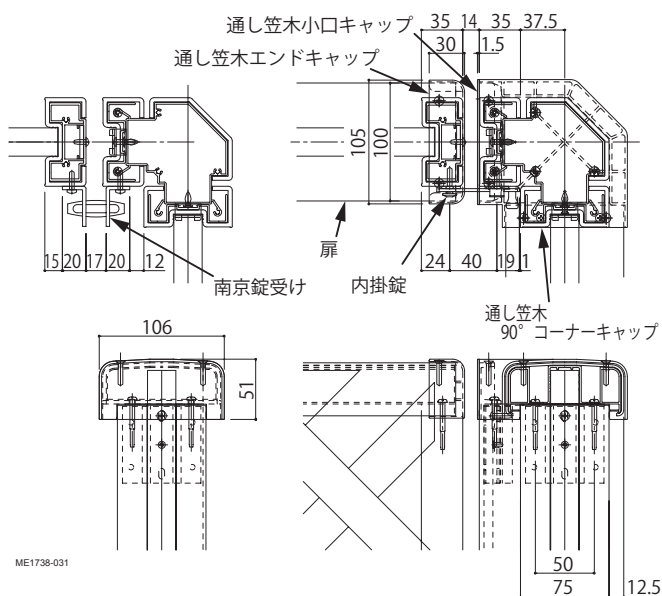
●錠部詳細図



ME1738-028

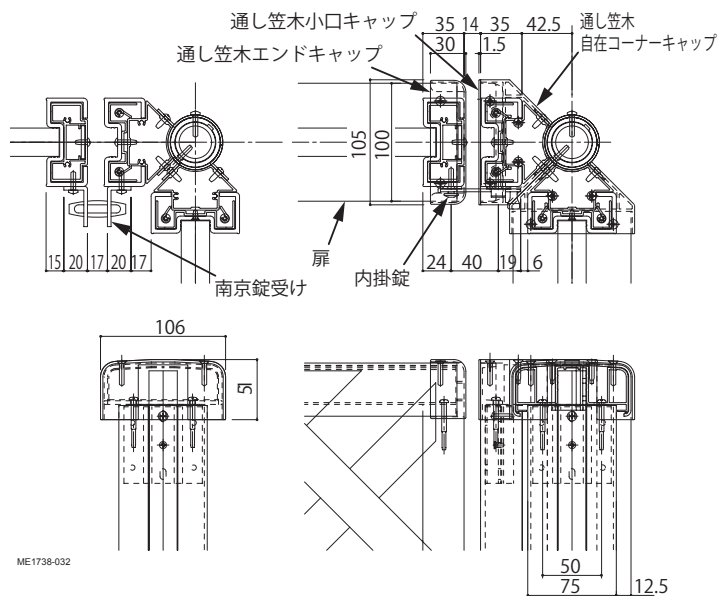
●扉コーナー納まり

90° コーナー柱



ME1738-031

自在コーナー柱



ME1738-032

納まり図

デッキフェンス段差納まり

※この納まり図は、間口 (W) :1.5 間、奥行 (D):6 尺の本体に、「デッキフェンス H1000 通し笠木」+「デッキフェンス H1800 間柱タイプ」を L 字型に納めた場合を示す。

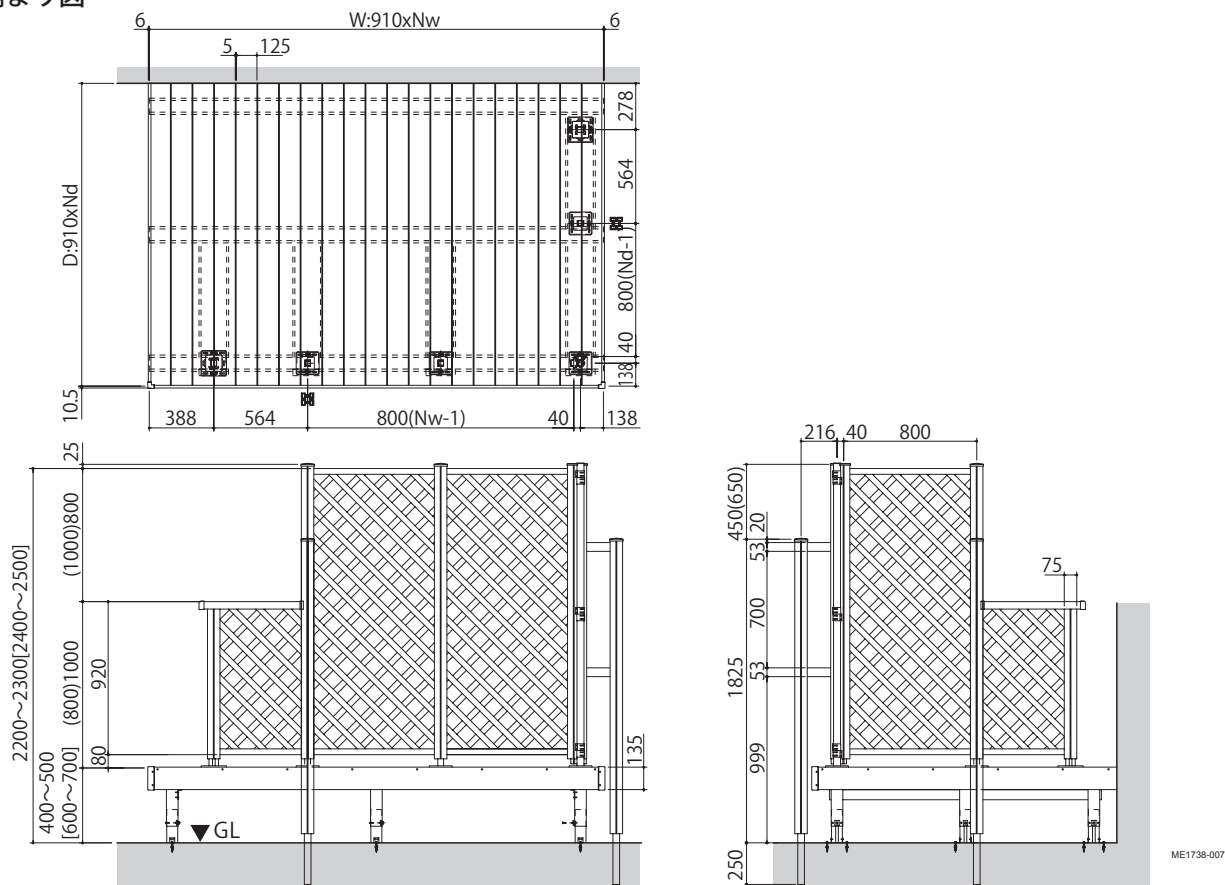
※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

※ () 内寸法は、H800 を示す。

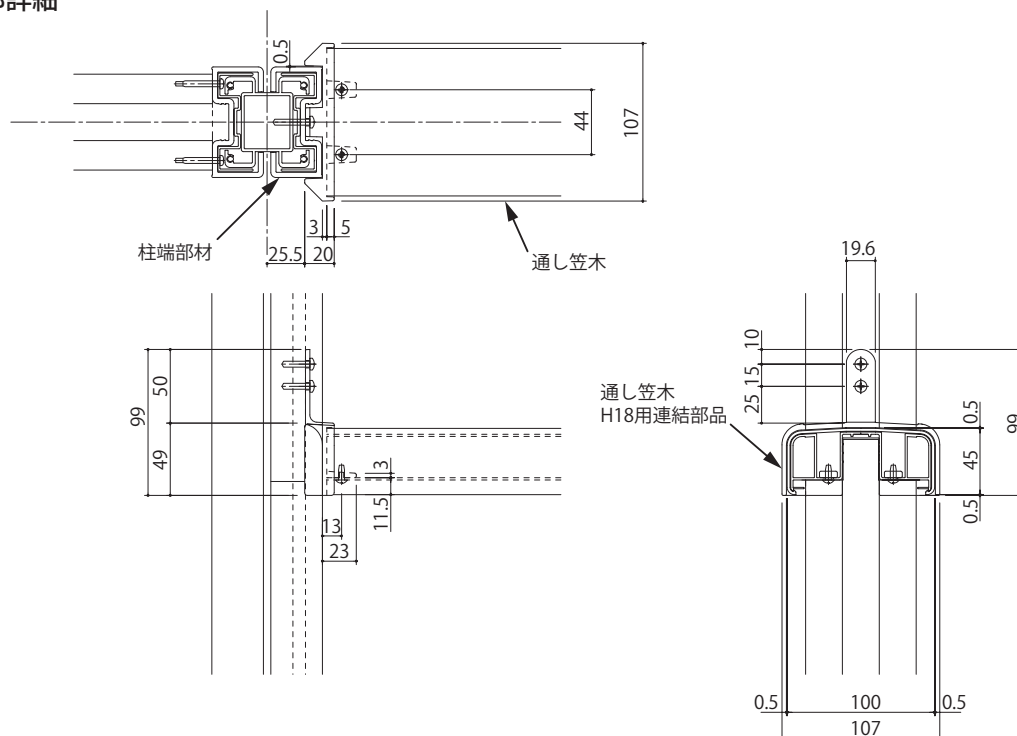


- 本図は一例です。その他の組み合わせも可能です。
- 連結部に通し笠木 H18 用連結部品を使用します。

●基本納まり図



●連結部詳細



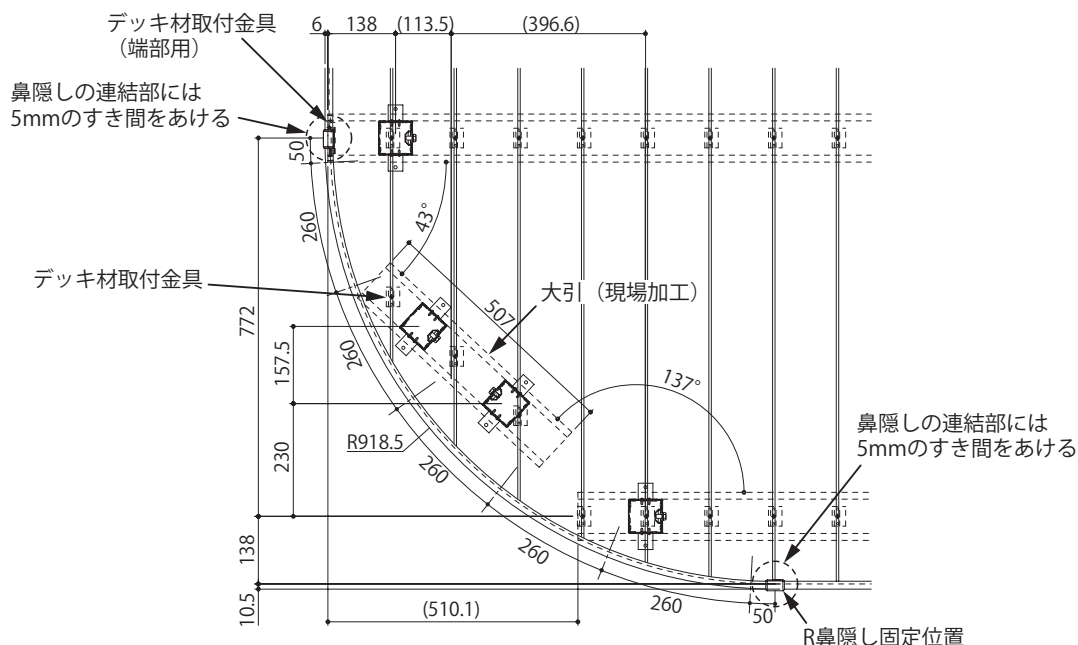
デッキ R 鼻隠し納まり

※この納まり図は、デッキ縦張りの場合を示す。



- 本図は一例です。その他の寸法も可能です。(※最小寸法：R=800)
- R 部の大引を現場で切断し、束柱を設置します。
- 鼻隠しは標準の鼻隠しを使用します。
- 鼻隠しの連結部には、5mm のすき間をあけてください。

●基本納まり図



ME1738-053-1

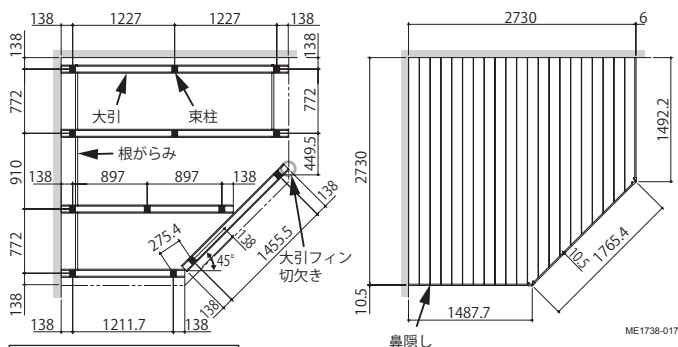
デッキ台形納まり

※この納まり図は、間口 (W) :1.5 間、奥行 (D):9 尺の場合を示す。



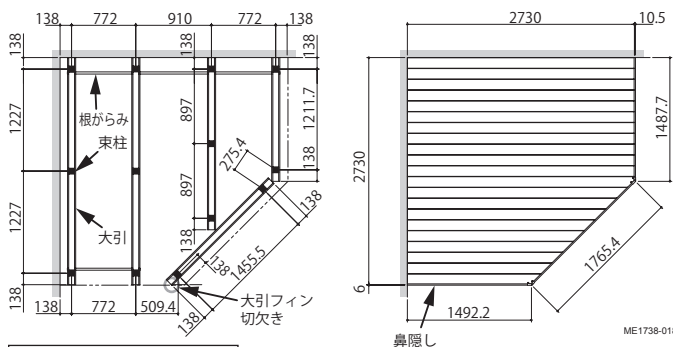
- 本図は一例です。その他の寸法も可能です。
- 斜辺部は、デッキ材端部から 138mm の位置に大引を設置します。
- 斜辺大引と干渉する水平・垂直大引は、現場合わせにて切断します。
- 束柱を、大引端部から 138mm の位置に設置します。
- デッキ材端部よりはみ出す斜辺大引のフィン切欠きをください。

●縦張り



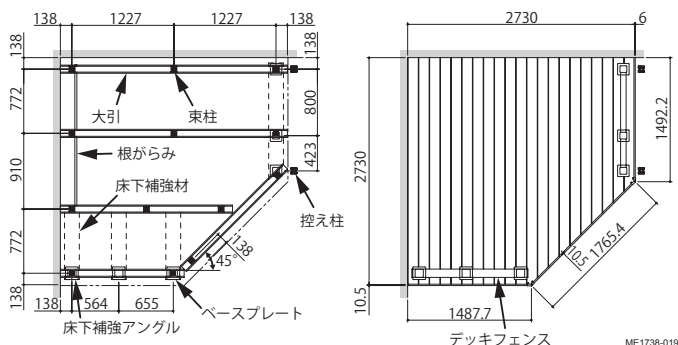
ME1738-017

●横張り



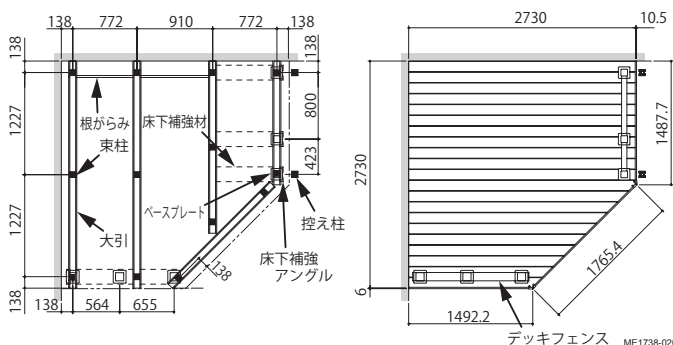
ME1738-018

デッキフェンス付

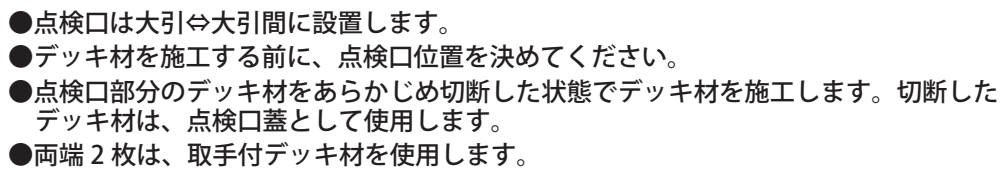


ME1738-019

デッキフェンス付



ME1738-020



Technical drawing of a point inspection cover (点検口蓋) showing dimensions and components.

Dimensions:

- Overall width: 910
- Overall height: 895
- Side view height: 5
- Side view width: 5
- Internal width: 450.5
- Internal height: 40
- Internal width: 24
- Internal height: 90
- Internal width: 2.5

Components and Labels:

- 点検口長 (最大長:907)
- 取手付デッキ材
- 回転取手
- 大引
- デッキ連結材
- A部
- B部
- 点検口蓋

ME1738-043 小口細図 (Side View) showing the assembly of the cushion and deck material. The diagram illustrates the cross-section of the deck structure, including the cushion material (クッション材) and the deck material (デッキ材) with a small mouth cap (小口キャップ). Dimensions are provided for the cushion material (3 and 24.5) and the deck material (3 and 24.5). The diagram also shows the placement of the small mouth cap (小口キャップ) and the cushion material (クッション材) relative to the deck material (デッキ材).

Technical drawing of a deck railing cross-section. The drawing shows a railing post (大引) and a handrail (手すり) assembly. Dimensions are indicated: 5, 70, 35, and 3. Labels include 'クッション材' (Cushion material) pointing to the cushioning material, and 'デッキ連結材' (Deck connector material) pointing to the connector. The drawing is labeled 'ME1738-044'.

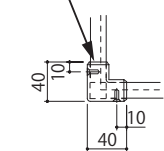
鼻隠しキャップ納まり

● 90° コーナー部

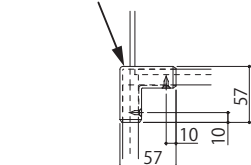
出隅

入隅

鼻隠し
コーナーキャップ



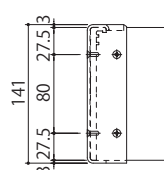
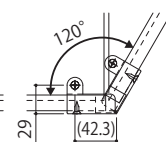
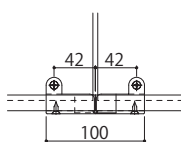
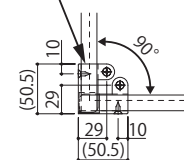
鼻隠し90°コーナーキャップ
(入隅用)



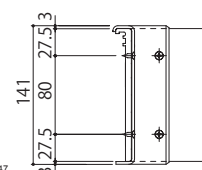
● 自在コーナー部

※可能範囲：90°～180°

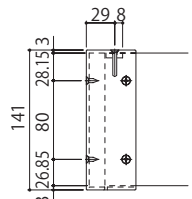
鼻隠し自在コーナーキャップ



ME1738-047



ME1738-046

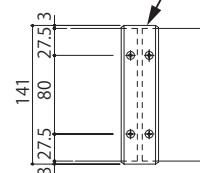
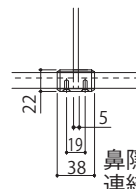


ME1738-048

● 連結部



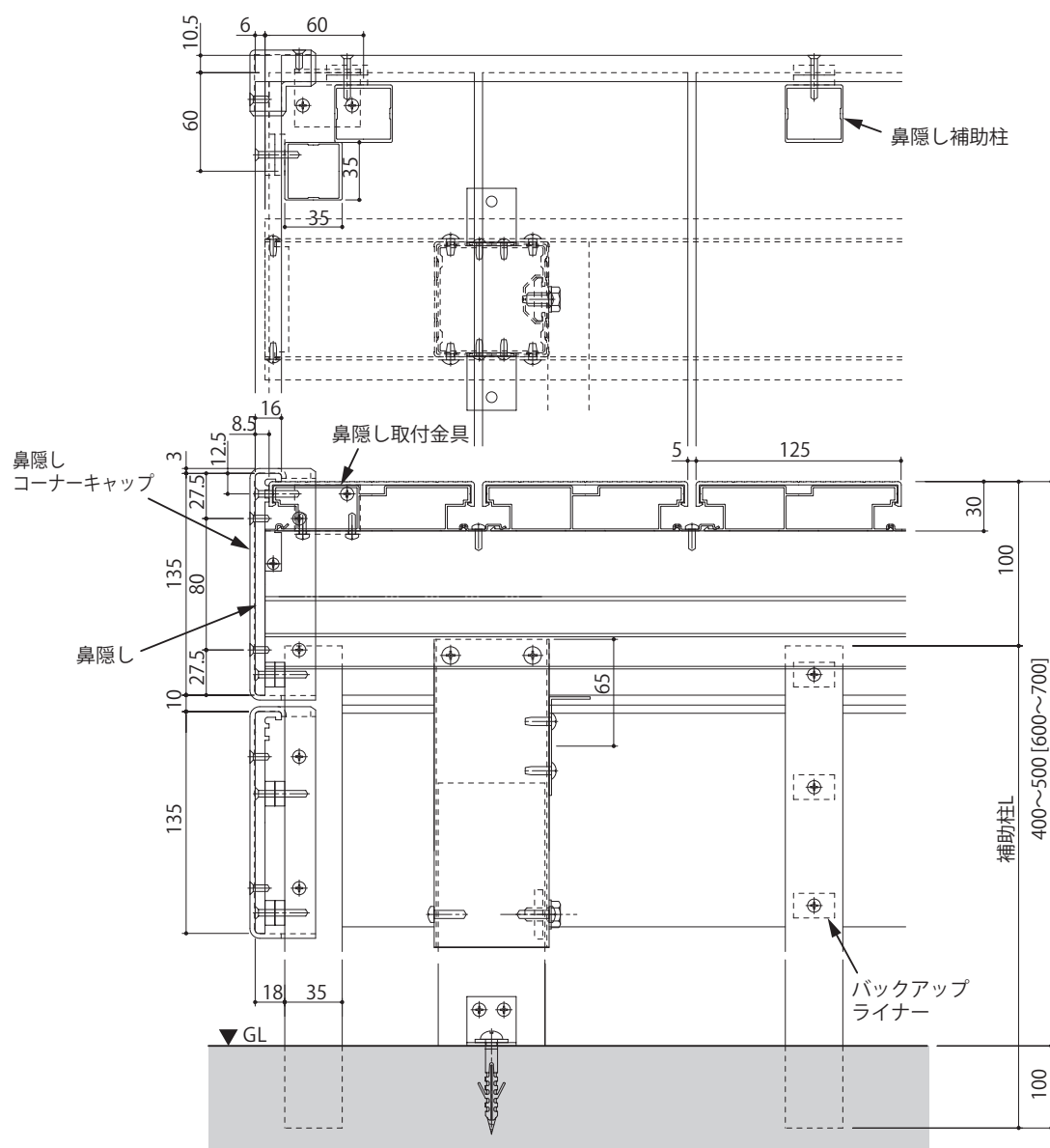
鼻隠し連結部には、
5mmのすき間を
あけてください。



ME1738-045-1

鼻隠し多段納まり (オプション)

※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。



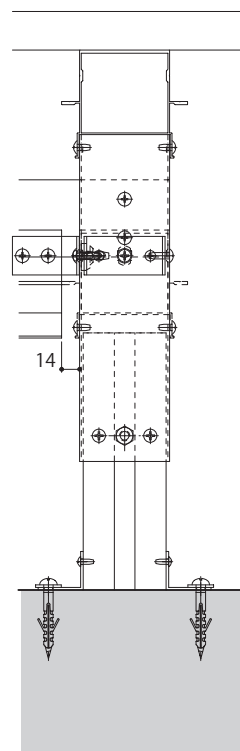
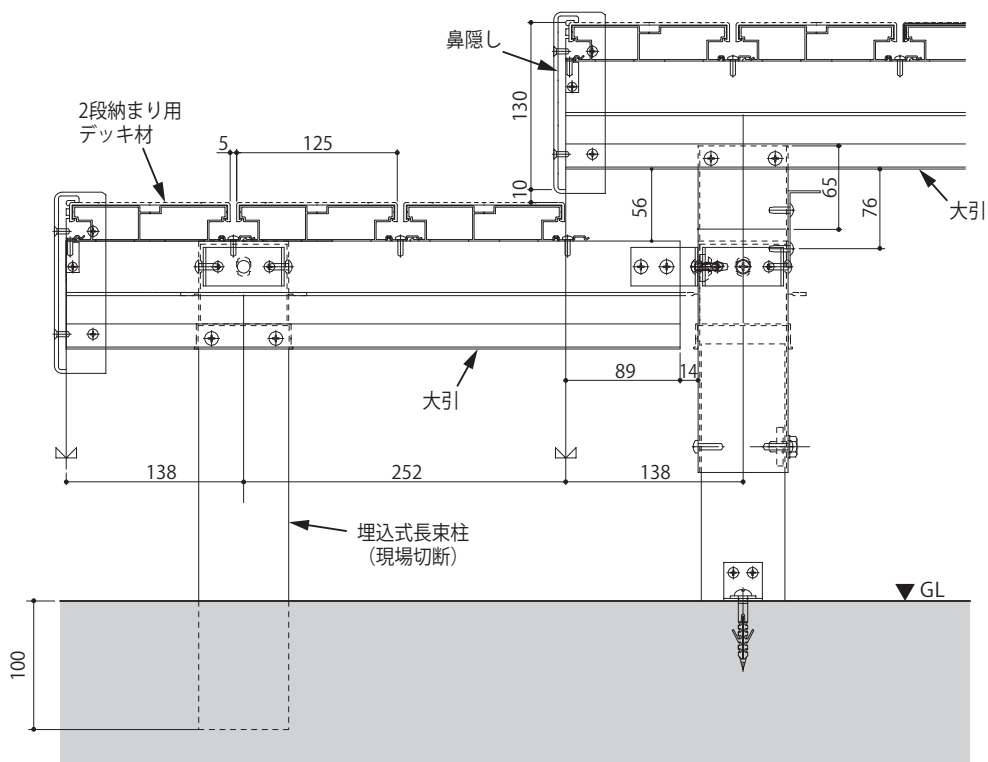
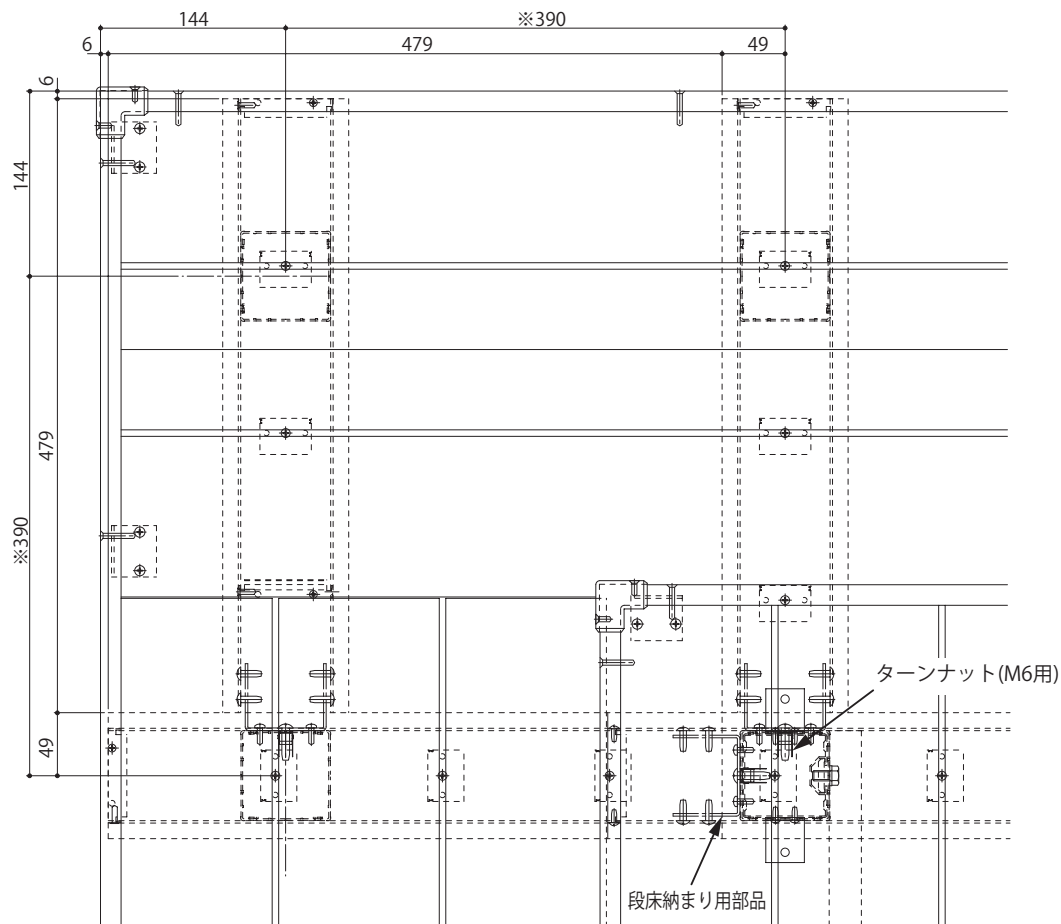
ME1738-042

デッキ材 2 段納まり (オプション)

※この納まり図は、「デッキ縦張り標準納まり」に下段デッキを 3 枚納めた場合を示す。



- 本図は一例です。その他の組み合わせも可能です。
- 束柱ピッチ最大 390mm 以内で自由に設定することができます。
- 段床納まり用部品を使用して、下段のデッキを取付けます。
- 下段のデッキには埋込式長束柱を使用します。



UD 手すり納まり (オプション)

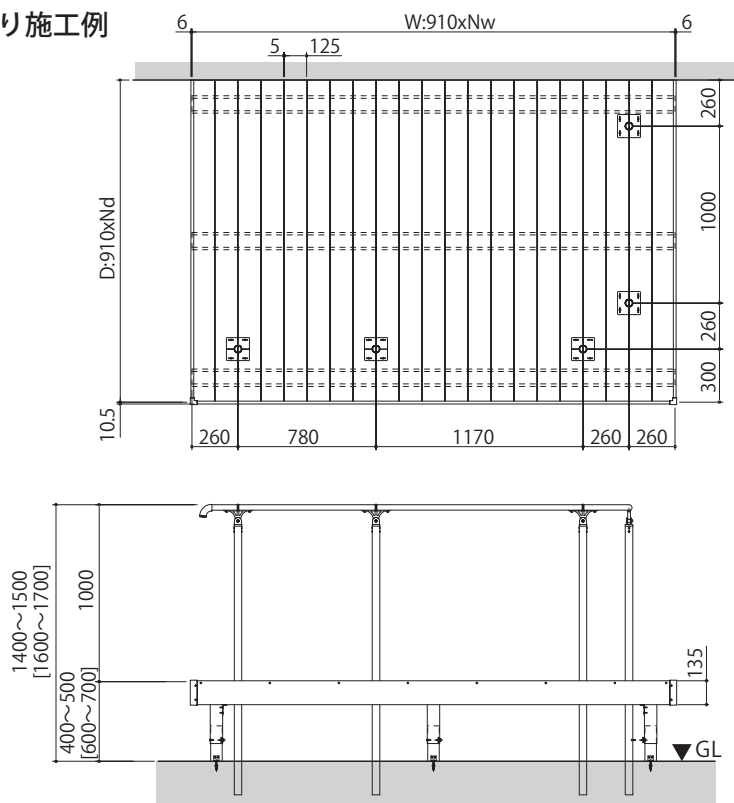
※この納まり図は、「デッキ縦張り標準納まり」に「UD 手すり」を納めた場合を示す。

※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。

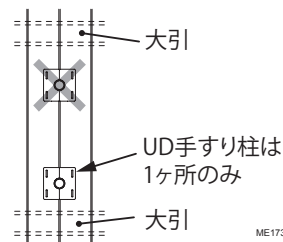


- 本図は一例です。その他の組み合わせも可能です。
- 手すり部の施工方法については、下記の説明書を参照してください。
- ・UD 手すり [ME-1459]
 - ・UD 手すり自在コーナー継手 [ME-1648]

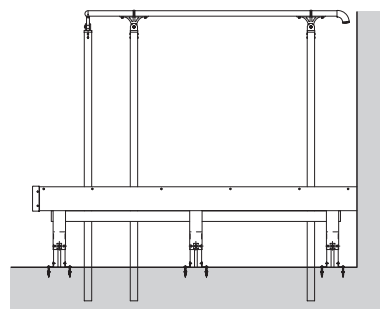
●縦張り施工例



1枚のデッキ材上の大引間に、
2ヶ所以上柱を設置しないで
ください。

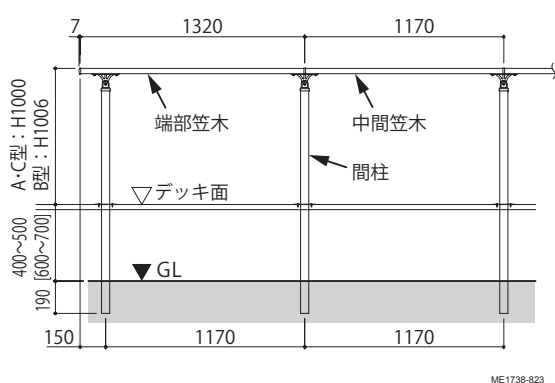


MF1738.058



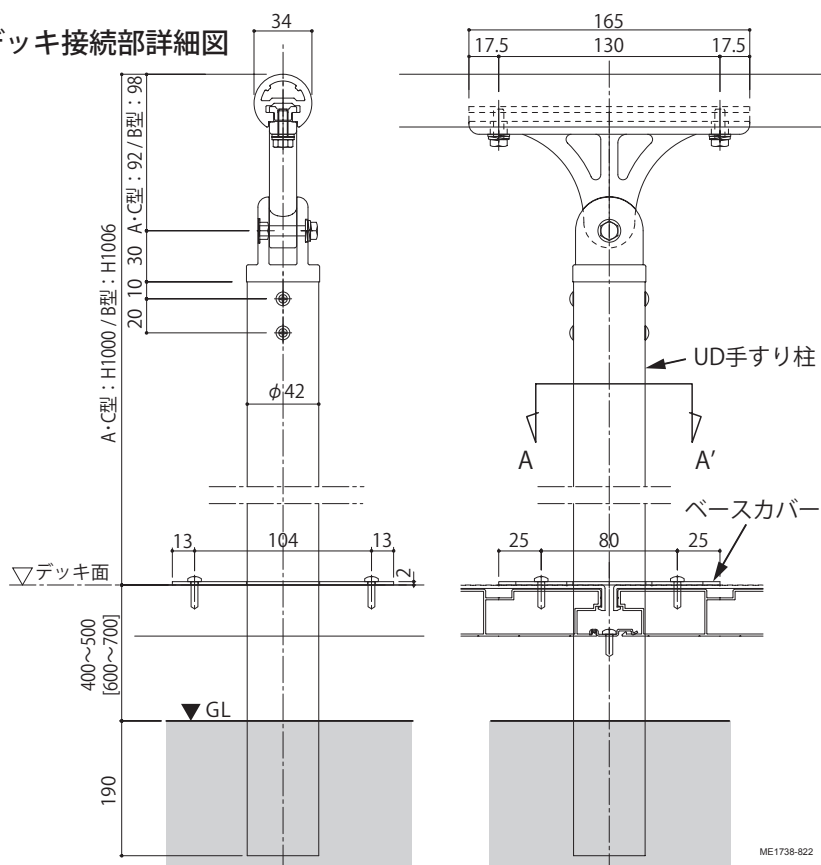
MF1738.049

●基本納まり図



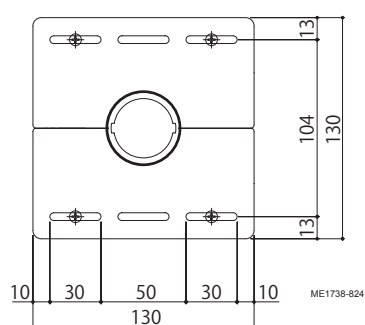
ME1738-823

●デッキ接続部詳細図



MF1738-822

● A-A' 断面図



MF1738-824

納まり図

テラス納まり（オプション）

※この納まり図は、「木樹脂デッキⅡ」に「ファインテラス標準柱」を納めた場合を示す。

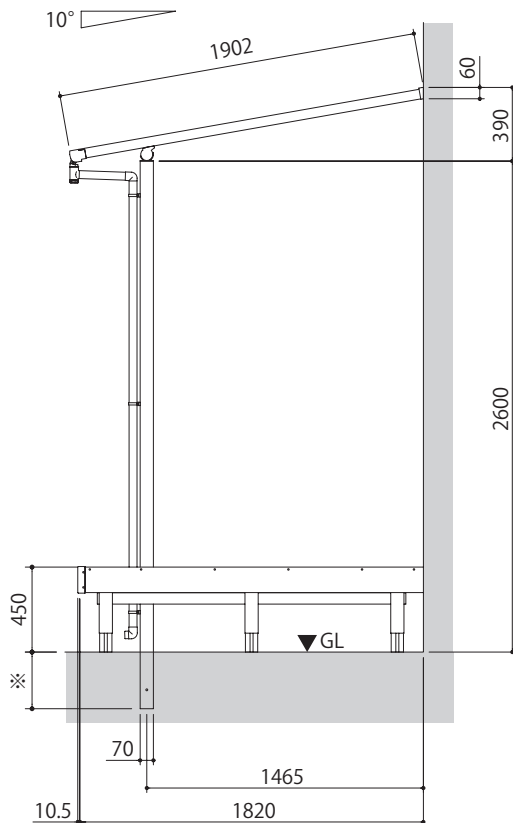


- 本図は一例です。その他の組合わせも可能です。
- 施工方法については、「3-10. テラス柱部の施工」を参照してください。
- テラス本体の施工方法については、テラスの施工説明書を参照してください。

●施工例 1（デッキ出巾 6 尺 + テラス出巾 6 尺）

柱移動 300mm

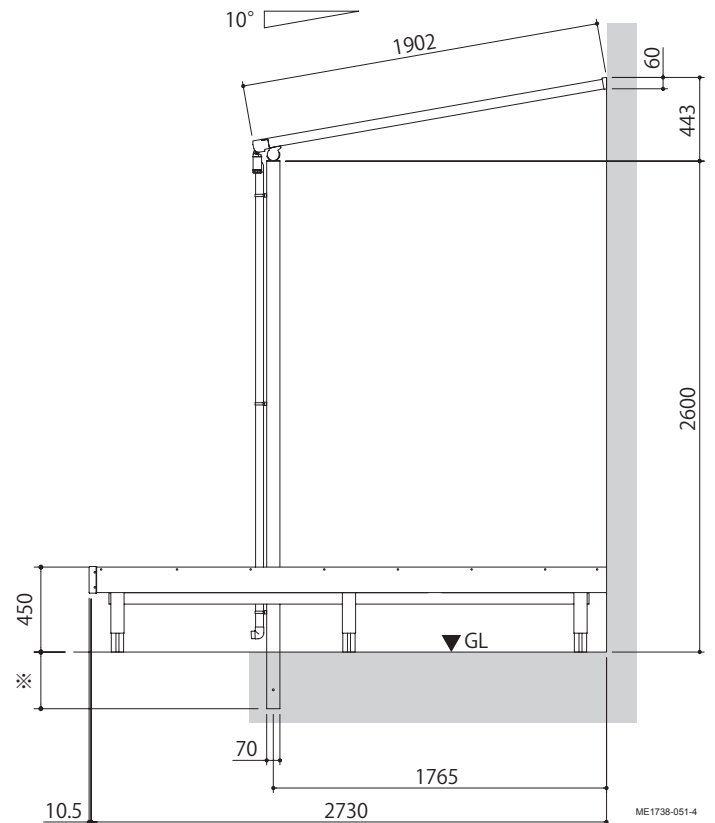
※テラス柱埋め込み寸法については、テラスの施工説明書を参照してください。



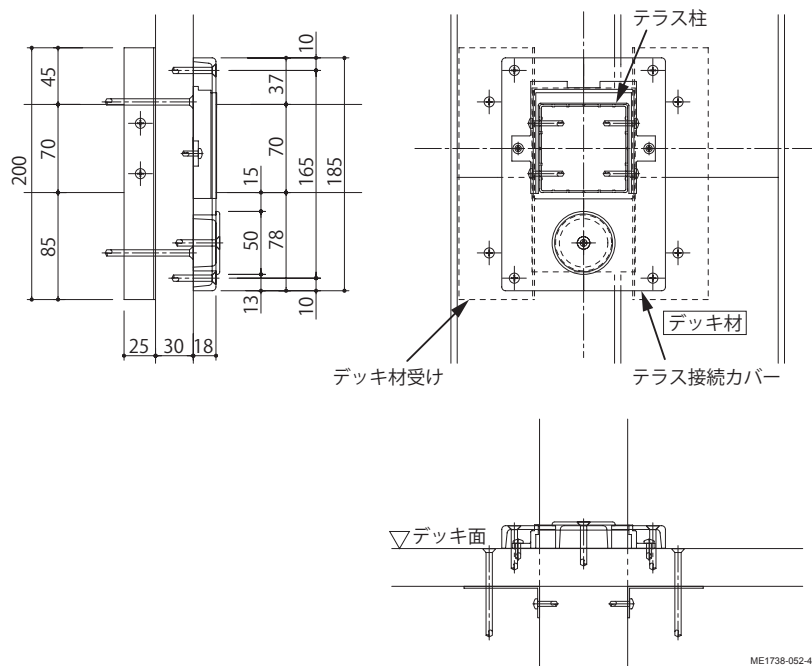
●施工例 2（デッキ出巾 9 尺 + テラス出巾 6 尺）

柱移動なし

※テラス柱埋め込み寸法については、テラスの施工説明書を参照してください。



●デッキ接続部詳細図



束柱・大引位置図

- ここでは標準納まりの場合を示しています。
- 完成プランによって、束柱・大引位置をずらして設置する場合があります。納まり図で確認してください。

デッキ縦張り



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口1.0間	間口1.5間	間口2.0間
出巾3尺			
出巾6尺			
出巾9尺			
出巾12尺			

束柱・大引位置図



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口2.5間	間口3.0間
出巾3尺		
出巾6尺		
出巾9尺		
出巾12尺		



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口3.5間	間口4.0間
出巾3尺		
出巾6尺		
出巾9尺		
出巾12尺		

デッキ横張り



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口1.0間	間口1.5間	間口2.0間
出巾3尺			
出巾6尺			
出巾9尺			
出巾12尺			



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口2.5間	間口3.0間
出巾3尺		
出巾6尺		
出巾9尺		
出巾12尺		

束柱・大引位置図



- 間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、13 ページの「納まり図」を参照してください。
- デッキフェンス扉納まりの場合は、14 ページの「納まり図」を参照してください。
- 台形納まり・デッキ R 鼻隠し納まりの場合は、17 ページの「納まり図」を参照してください。

	間口3.5間	間口4.0間
出巾3尺		
出巾6尺		
出巾9尺		
出巾12尺		

施工前の確認

●施工についての注意事項です。必ず確認してください。

水平・垂直・直角について

- 水平・垂直・直角を、必ず正確に出して施工を行ってください。

セルフドリリングビスについて

- 本説明書では、セルフドリリングビスを直接打込む方法で説明しています。
- 先に下孔加工を行うことをお勧めします。
- 特に樹脂材の場合、表面をきれいに仕上げるができます。

切詰め・下孔加工について

- 本説明書に切詰め寸法および下孔加工位置寸法を説明していますが、現物合わせで寸法・位置を確認してください。

柱の埋込みにについて

- 柱を埋込む場合は、地下埋設物（給排水管等）に影響を及ぼさないように設置位置を決めてください。
- 埋込柱については、「納まり図」を参照し、位置をあらかじめ決めておいてください。

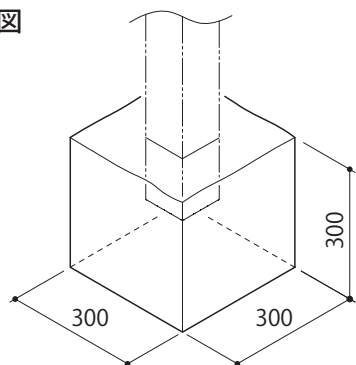
埋込式長束柱の基礎穴について

- 埋込式長束柱を使用する場合、施工作業前に「納まり図」を参照して、柱の埋込み位置を出し、指定寸法以上の基礎穴を掘ってください。



先に、基礎穴を掘っていないと、柱の取付け作業ができません。

●基礎穴寸法図



束石について

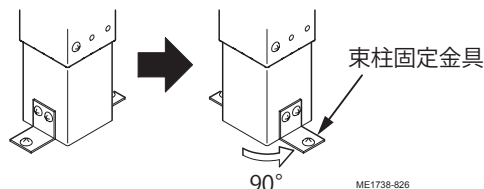
- 束石を用いて束柱を設置する場合は、束石が他の柱（デッキフェンス扉用吊元柱・階段補助柱など）と干渉することがありますので注意してください。

束柱固定金具が干渉する場合



束柱固定金具が他の柱などと干渉する場合は、束柱固定金具を90°回転し付け替えてください。

●束柱固定金具が干渉する場合



デッキフェンスの設置について

- デッキフェンスを設置する場合は、「納まり図」を参照し、位置をあらかじめ決めておいてください。



- ベースプレート式柱の場合は、大引・床下補強材・床下補強アングルの上に取付けてください。（「2. 床下補強材の取付け」参照）
- 埋込柱の場合は、束柱と大引を標準位置から70 mmずらしてください。（「1-2. 大引・根がらみの取付け」参照）
- 埋込柱の場合は、床下補強材と床下補強アングルは不要です。

点検口の設置について（オプション）

- 点検口を設置する場合は、位置をあらかじめ決めておいてください。



- 点検口は、大引・大引間に設置してください。
- 点検口を設置する部分のデッキ材を先に切断しておいてください。（「3-8. 点検口の施工」参照）

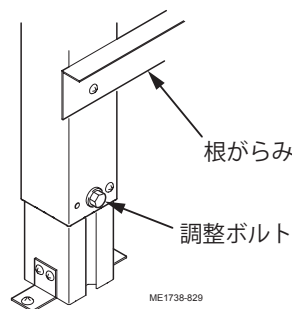
束柱化粧カバーを取付ける場合（オプション）



根がらみと調整ボルトが同じ面上になるように束柱を設置してください。

※同じ面上でないと、束柱化粧カバーを取付けることができません。

●根がらみと調整ボルトの位置



1

束柱・大引・根がらみの設置

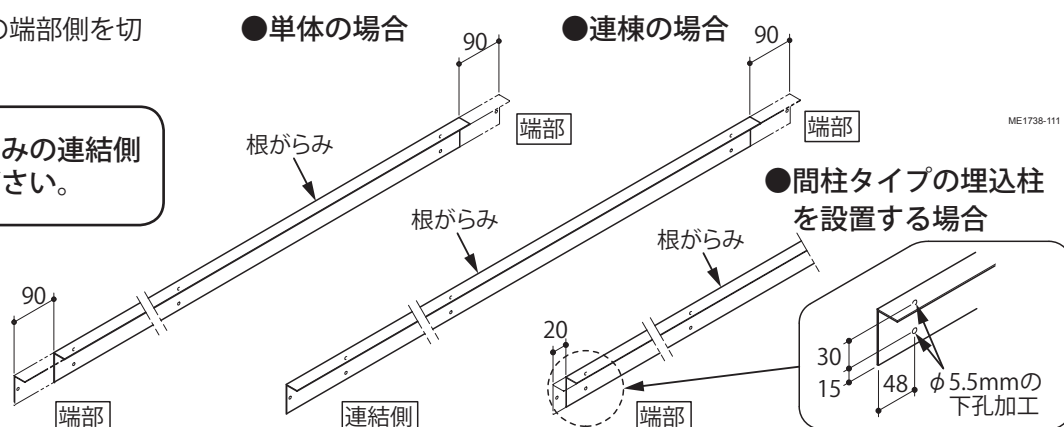
● 23 ～ 28 ページの「束柱・大引位置図」を参照し、スパン数に応じて設置してください。

1-1 根がらみの切詰め

① 右図を参照して、根がらみの端部側を切詰めてください。



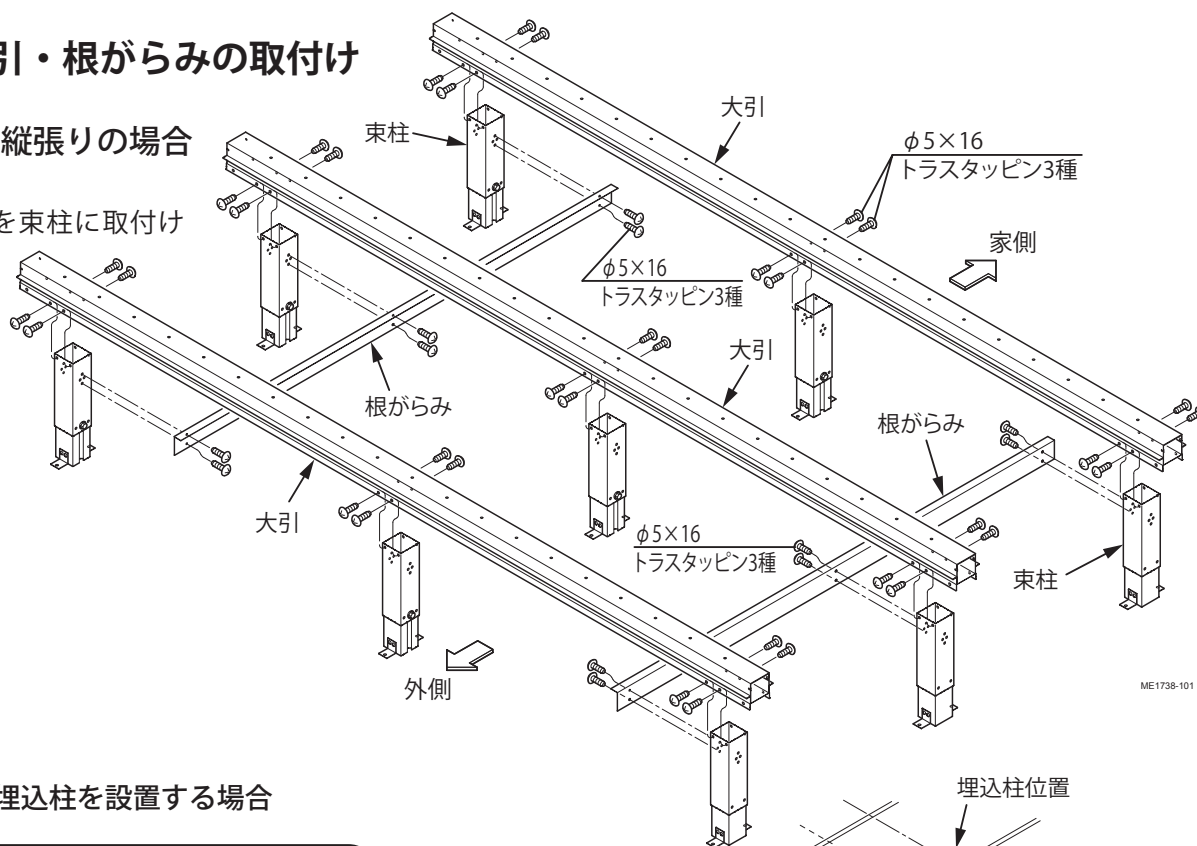
連棟の場合、根がらみの連結側は切詰めないでください。



1-2 大引・根がらみの取付け

1-2-1 デッキ縦張りの場合

① 大引・根がらみを束柱に取り付けてください。



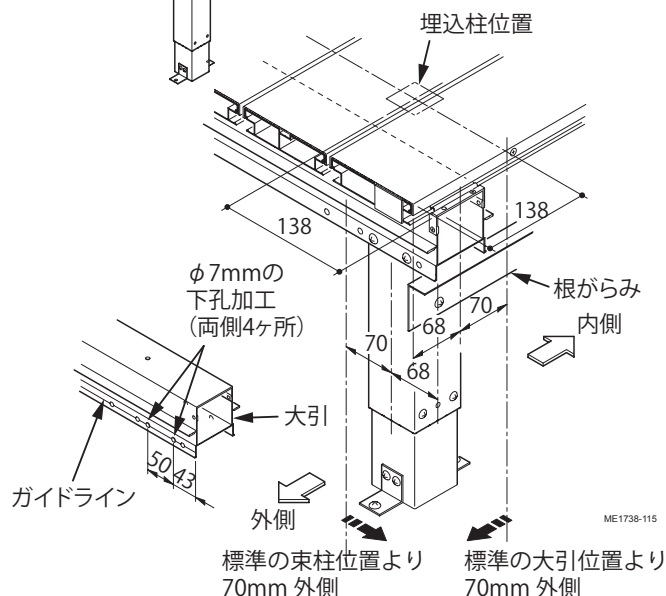
● デッキフェンス埋込柱を設置する場合



- 埋込柱と大引が干渉する場合は、束柱と大引を標準位置より 70mm 外側へずらして設置してください。
 - 埋込柱と根がらみが干渉するため、根がらみを外側に取付けてください。
- ※ 13 ページの「納まり図」を参照してください。

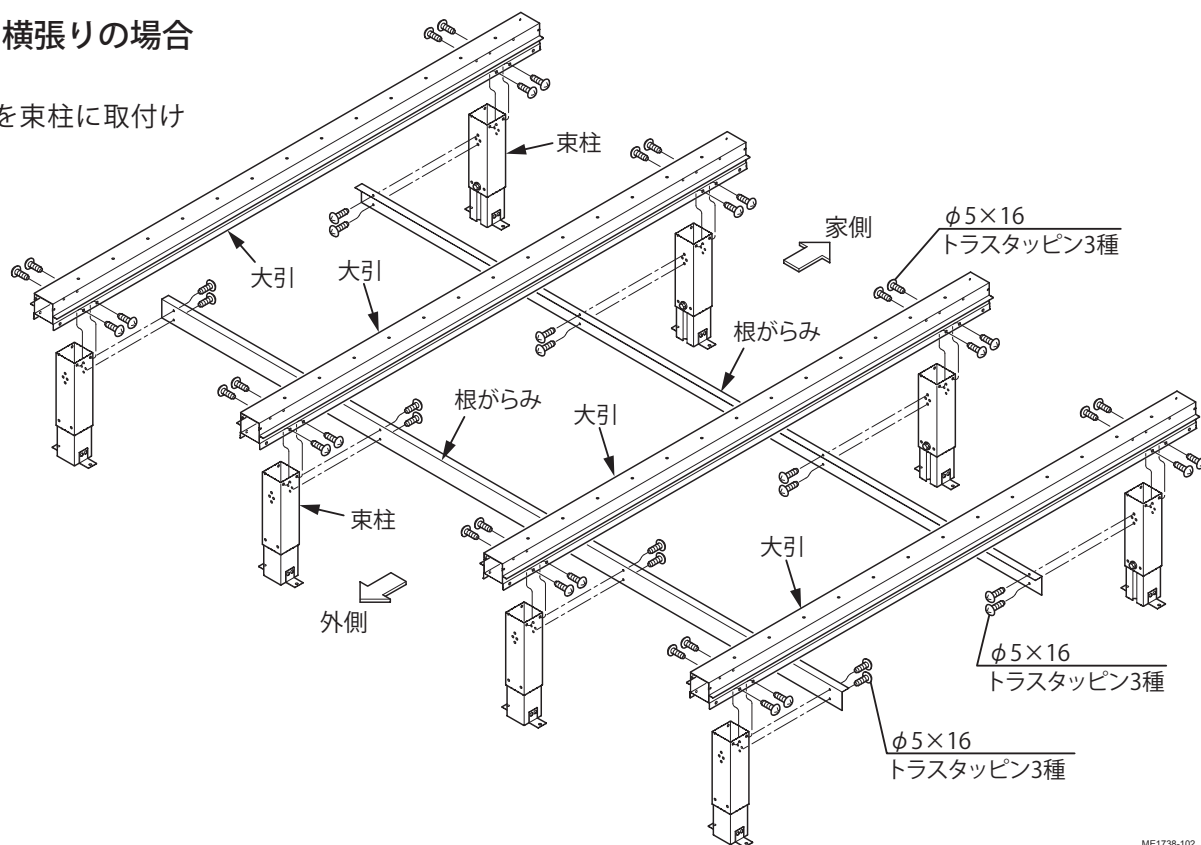
① 大引に $\phi 7\text{mm}$ の下孔を両側 4ヶ所あけてください。

② 大引・根がらみを束柱に取り付けてください。



1-2-2 デッキ横張りの場合

- ①大引・根がらみを束柱に取付けてください。



ME1738-102

●デッキフェンス埋込柱を設置する場合

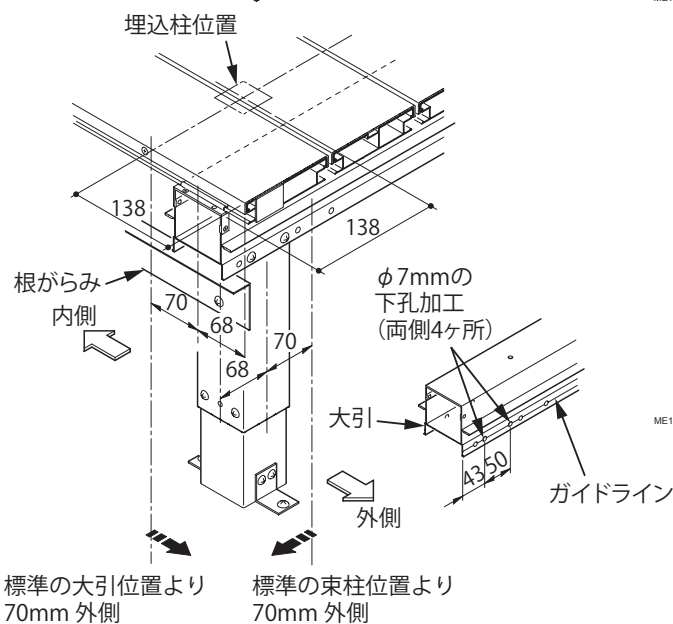
●埋込柱と大引が干渉する場合は、束柱と大引を標準位置より70mm外側へずらして設置してください。



●埋込柱と根がらみが干渉するため、根がらみを外側に取付けてください。

※13ページの「納まり図」を参照してください。

- ①大引にφ7mmの下孔を両側4ヶ所あけてください。
②大引・根がらみを束柱に取付けてください。

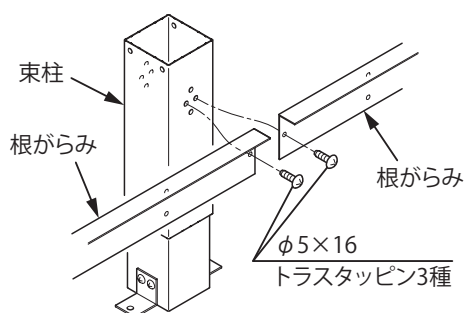


ME1738-116

1-2-3 大引・根がらみの連結

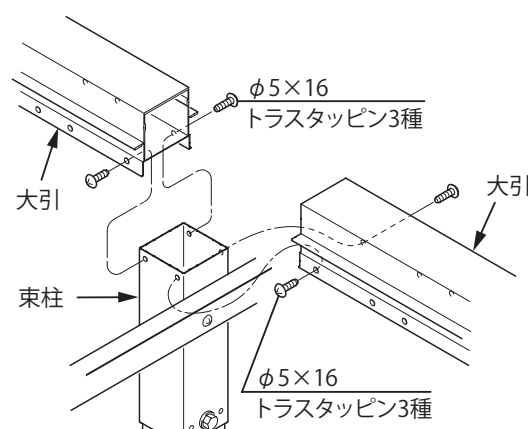
- ①大引・根がらみを連結する場合は、大引の中心で連結してください。

●根がらみ連結部の取付け



ME1738-103

●大引連結部の取付け



ME1738-104

1-3 束柱の設置

1-3-1 高さ調整柱の設置

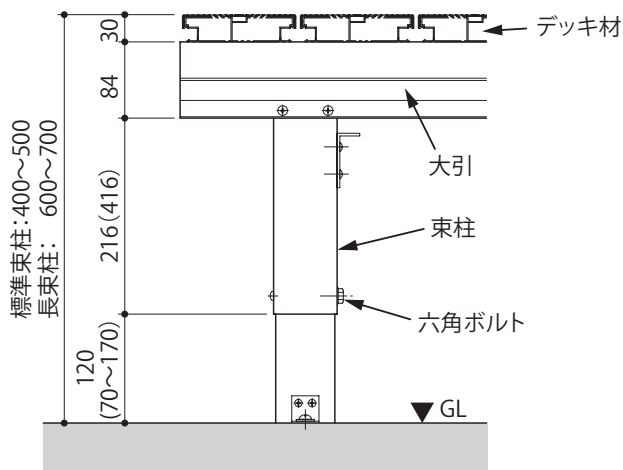
●高さ調整範囲

標準束柱：

GL からデッキ面まで 400 ～ 500mm

長束柱：

GL からデッキ面まで 600 ～ 700mm



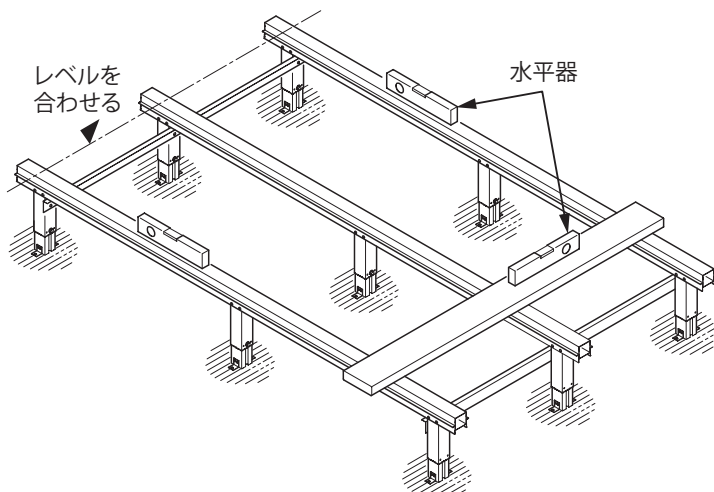
ME1738-109

※ () は長束柱の場合を示す。



●柱の高さ、位置レベルを正確に合わせてください。

●レベルが合っていないと、デッキの取付け不良の原因となります。



ME1738-107



束石を設置する場合は、□ 200mm 以上の束石を使用してください。

①土間の上にφ 6mm の孔を2ヶ所あけてください。

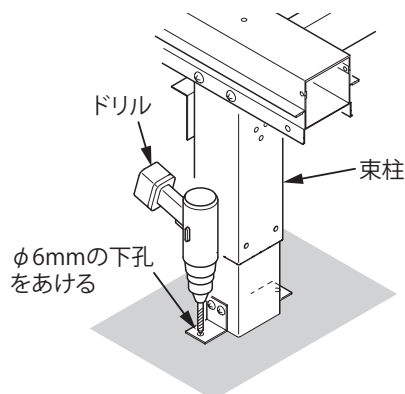
②プラグビスセット（別売品）で、束柱を固定してください。

③必要に応じ、六角ボルトを緩め、高さを調整してください。

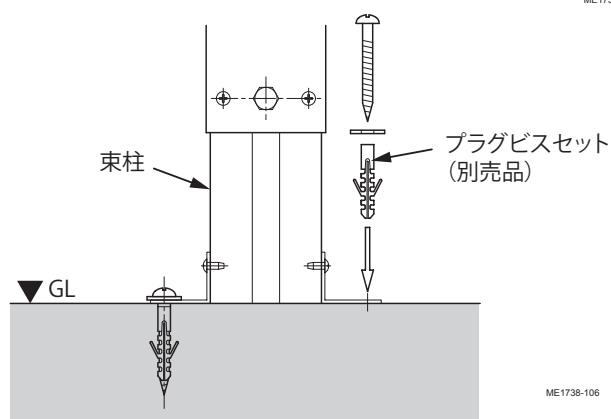
④高さ調整後、六角ボルトを締め、セルフドリリングビスで対角2ヶ所を固定してください。



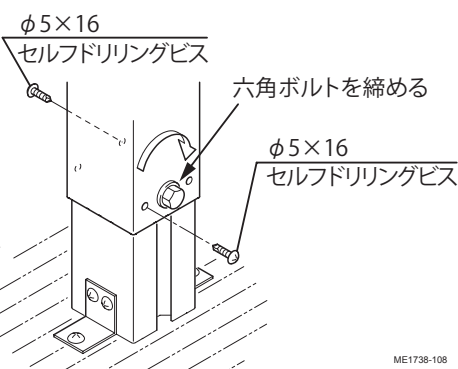
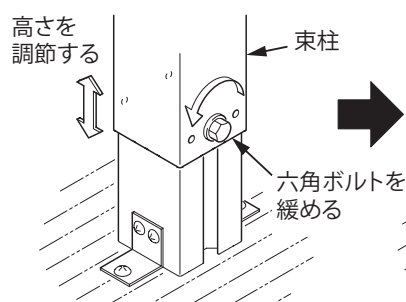
調整後、各ボルト、ビスを確実に締付けてください。



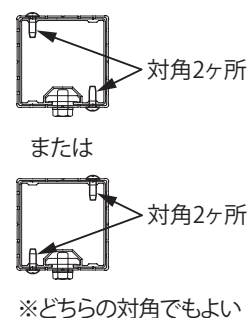
ME1738-105



ME1738-106



ME1738-108

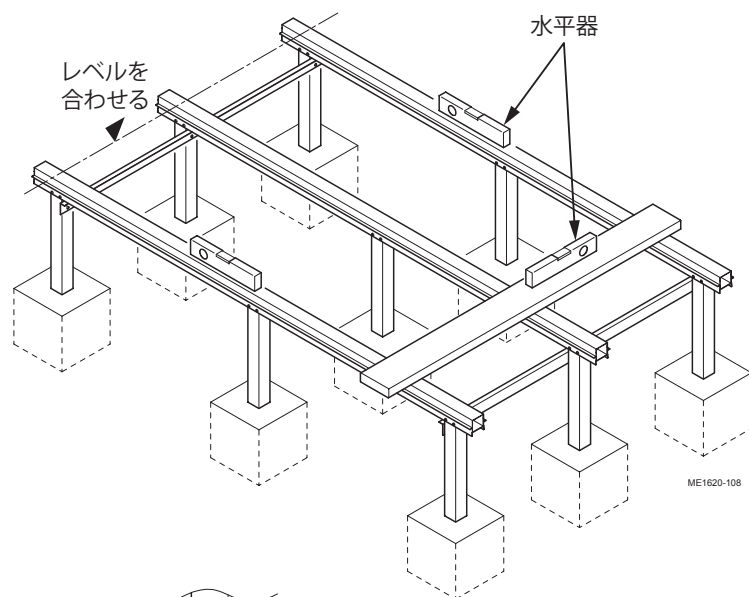


ME1620-115-1

1-3-2 埋込式長束柱の設置



- 柱は 100mm 以上埋込み、基礎寸法は 300mm 以上としてください。
- 柱の高さ、位置レベルを正確に合わせてください。
- レベルが合っていないと、デッキの取付け不良の原因となります。

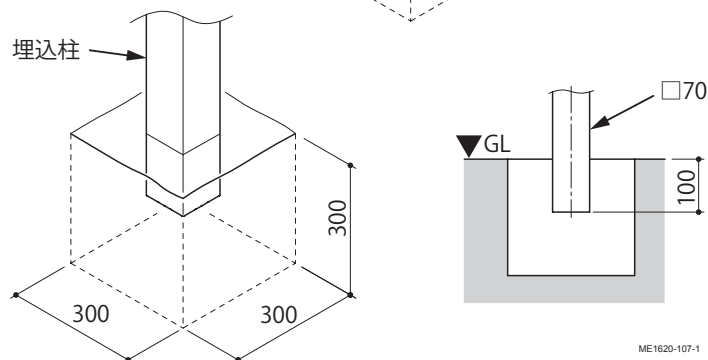


- ① 23 ～ 28 ページの「束柱・大引位置図」を参照し、束柱の設置位置を確認してください。



地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱位置をきめてください。

- ② 束柱を GL 面に埋込んでください。



1-4 扉吊元柱の設置（※デッキフェンス扉納まりの場合）



デッキフェンス扉を設置する場合に作業を行ってください。



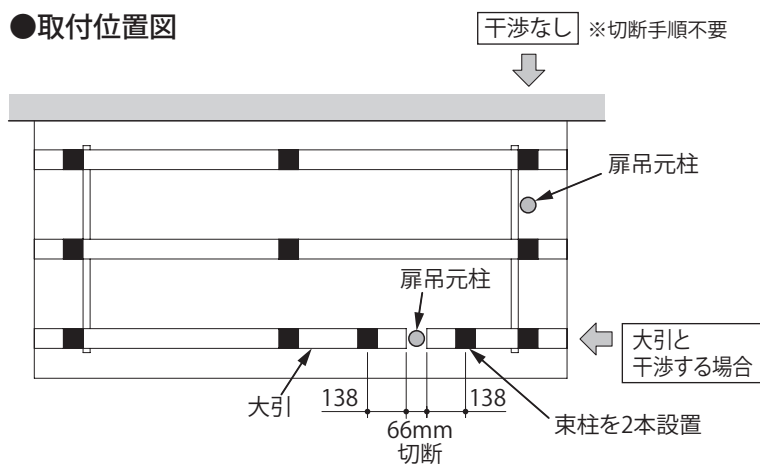
デッキフェンス扉の設置については、61 ページの「5-5. デッキフェンス扉の取付け」を参照してください。

1-4-1 設置位置の確認

- ① 「取付位置図」および、14 ～ 15 ページの「納まり図」を参照して、扉吊元柱の設置位置・寸法を確認してください。
- ② 必要に応じて、次ページの「1-4-2. 扉吊元柱の切詰め」、「1-4-3. 大引の切断と束柱の設置」を行ってください。



扉吊元柱と大引が干渉する場合は、大引を 66mm 切断し、束柱を 2 本設置します。



1-4-2 扉吊元柱の切詰め

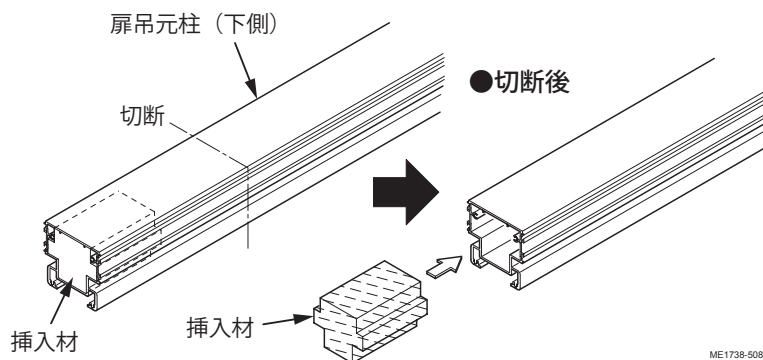


扉吊元柱は、デッキ長束柱仕様にも対応できる長さになっています。



埋込み寸法が 250mm 以上となるよう、扉吊元柱を切詰めてください。

- ① 扉吊元柱（下側）を切詰めてください。
- ② 切断した扉吊元柱に、挿入材を付替えてください。



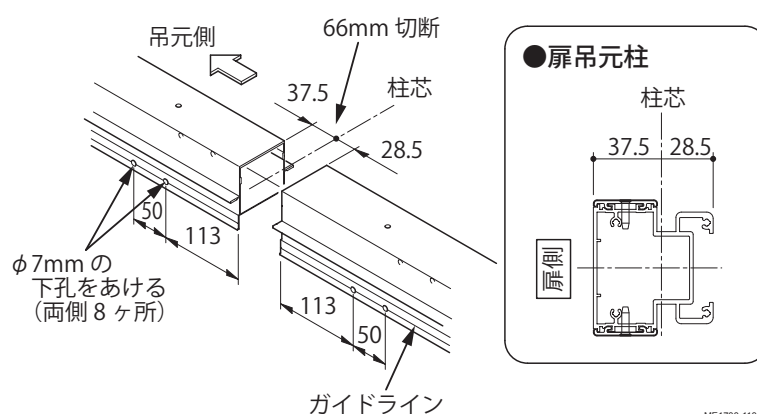
ME1738-508

1-4-3 大引の切断と束柱の設置



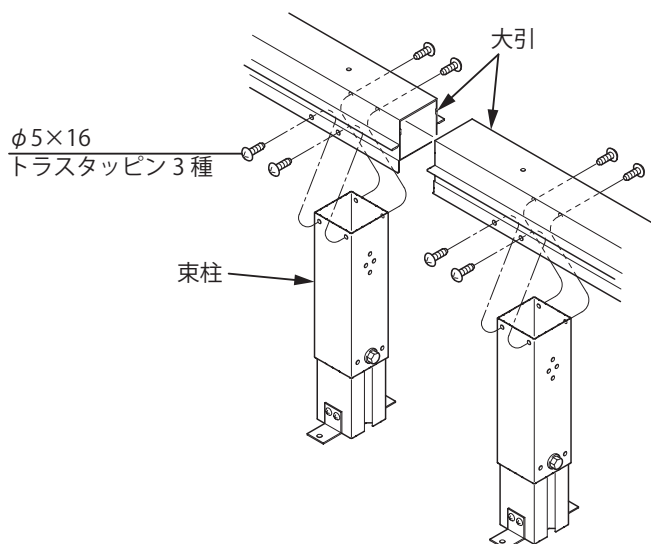
扉吊元柱と大引が干渉する場合に作業を行ってください。

- ① 扉吊元柱設置位置の大引を 66mm 切断してください。
- ② ガイドライン上に、束柱取付用の下孔をあけてください。



ME1738-113

- ③ 束柱を取付けてください。



ME1738-114

1-4-4 扉吊元柱の設置



ここでは、14 ページの「納まり図」の
プランを例として説明しています。
※大引を切断し、束柱を 2 本設置した
場合を示しています。

- ①扉吊元柱を埋込んでください。



扉吊元柱埋込み寸法：250mm 以上

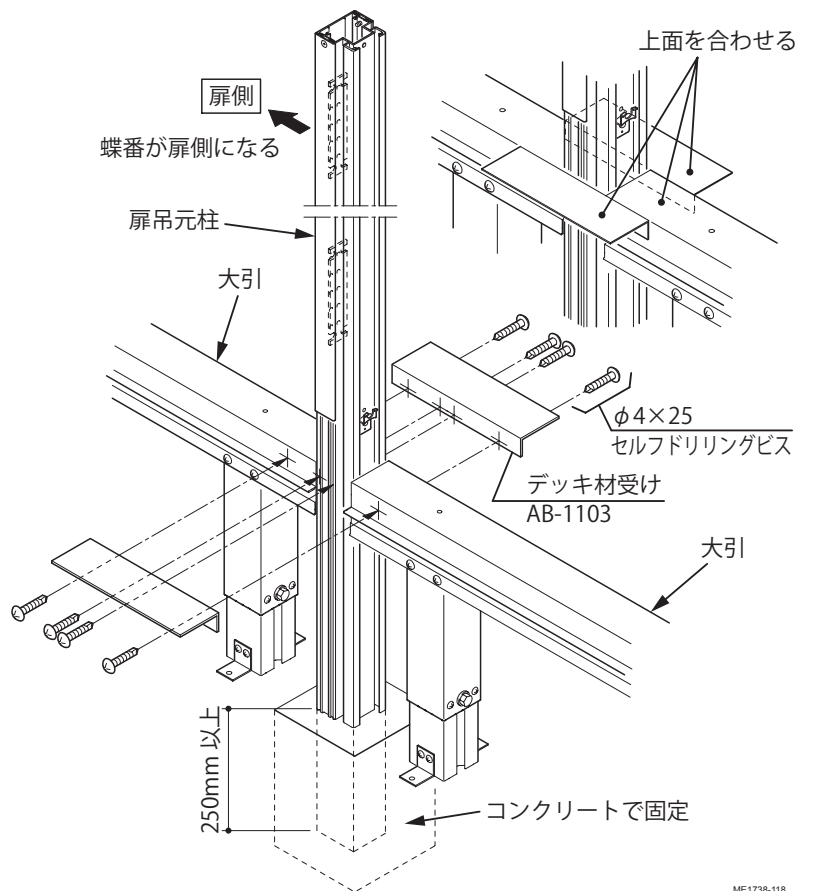


扉吊元柱をコンクリートで確実に固定してください。

- ②デッキ材受けを扉吊元柱と大引に取付けてください。



扉吊元柱が大引と干渉しない場合は、
デッキ材受けを扉吊元柱のみに取付けて
ください。



ME1738-118

1-5 UD 手すり柱の設置 (※オプション)



UD 手すり納まりの場合に作業を行ってください。

- ① 21 ページの「納まり図」を参照して、UD 手すり柱の設置位置・寸法を確認してください。



柱芯々が右図の位置（デッキ材すき間の中心）になるようにしてください。

- ② UD 手すり柱を埋込んでください。

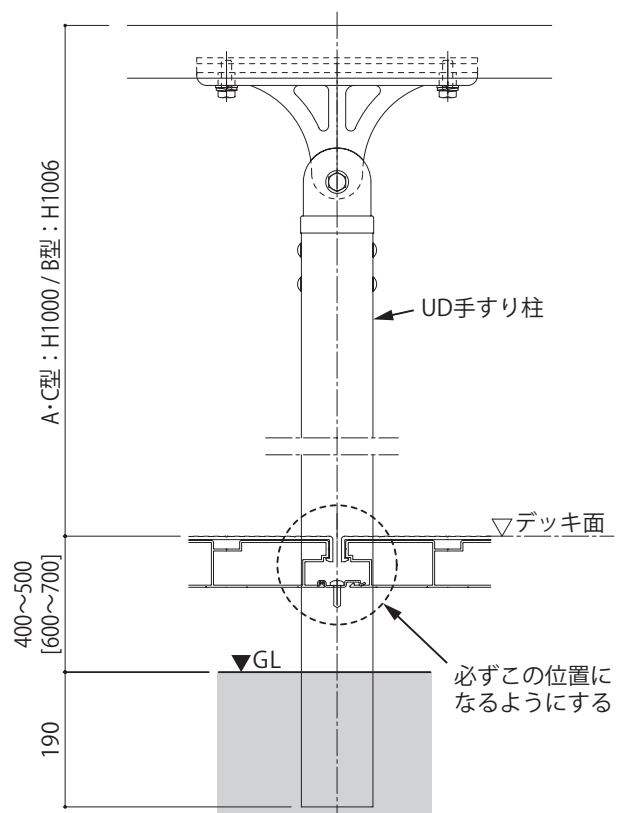


UD 手すり柱埋込み寸法：190mm



UD 手すり柱をコンクリートで確実に固定してください。

※ [] 内寸法は、調整式長束柱を示す。



MF1738-825

1-6 テラス柱の設置 (※オプション)



テラス納まりの場合に作業を行ってください。

- ① 22 ページの「納まり図」を参照して、テラス柱の設置位置・寸法を確認してください。
- ② テラス柱を埋込んでください。
- ③ デッキ材受けをテラス柱に取付けてください。



テラス柱をコンクリートで確実に固定してください。



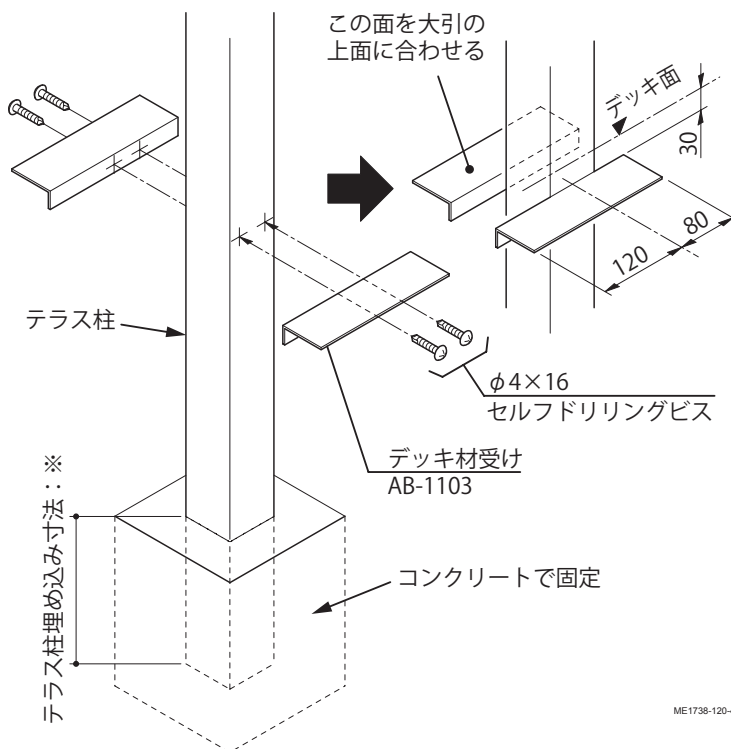
テラス柱埋め込み寸法については、テラスの施工説明書を参照してください。



デッキ材の取付けは、51 ページの「3-10. テラス柱部の施工」を参照してください。



テラス本体の施工については、テラスの施工説明書を参照してください。



ME1738-120-4

※テラス柱埋め込み寸法については、テラスの施工説明書を参照してください。

1-7 デッキ材2段納まりの場合（※オプション）



ここでは、20ページの納まり図のプランを施工例として説明しています。
※下段はデッキ材3枚納まりになります。

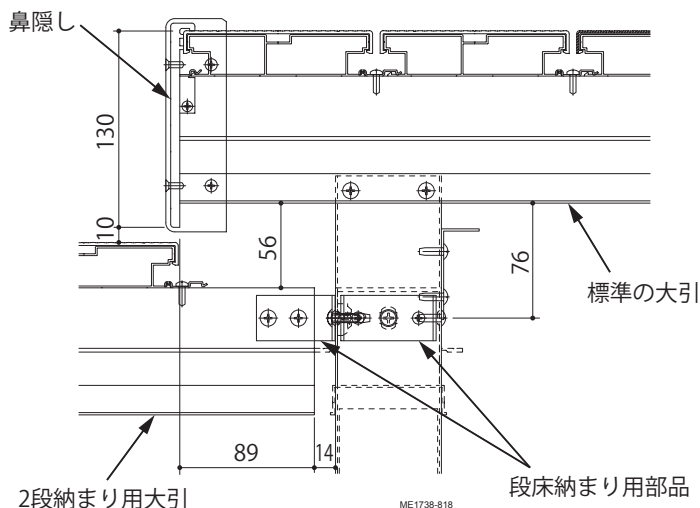


束柱ピッチ最大 390mm 以内で自由に設定することができます。

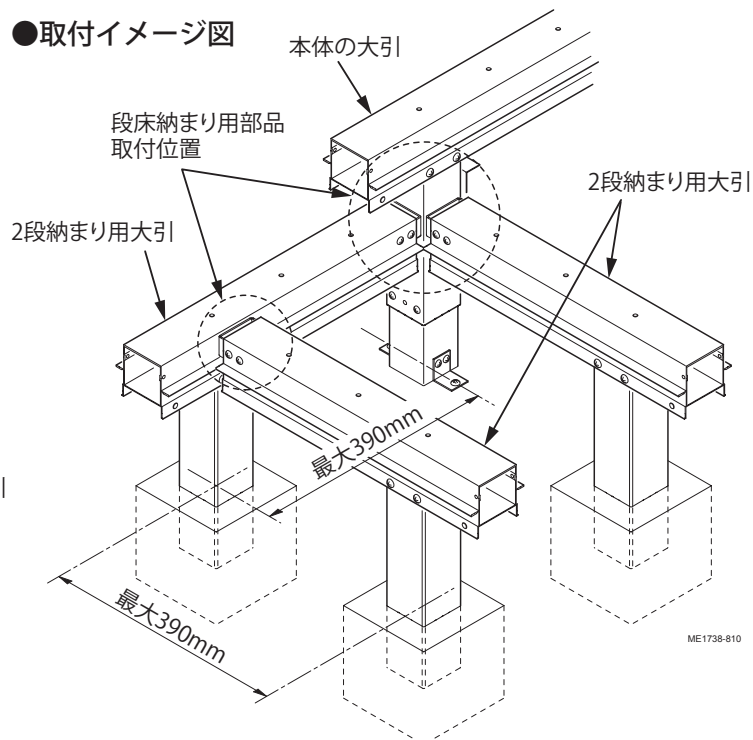


デッキ材の取付けについては、52ページの「3-11. デッキ材2段納まりの場合」を参照してください。

●取付部側面図



●取付イメージ図

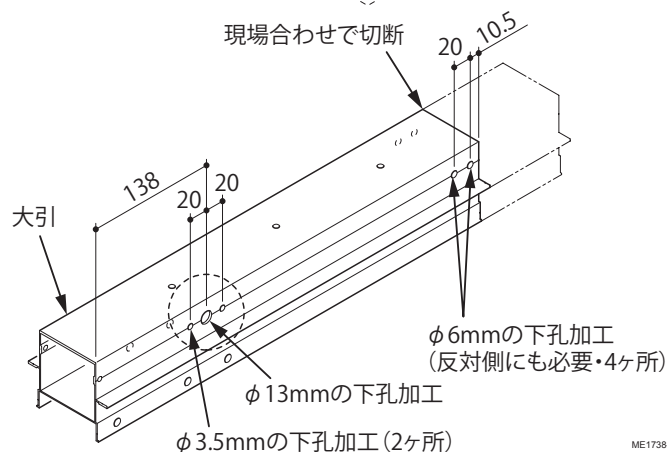


1-7-1 大引（2段納まり用）の切詰め

- ① 20ページの「納まり図」で設置寸法を確認してください。
- ② 大引を必要な長さに切詰めてください。



現物合わせで切詰め長さを決めてください。

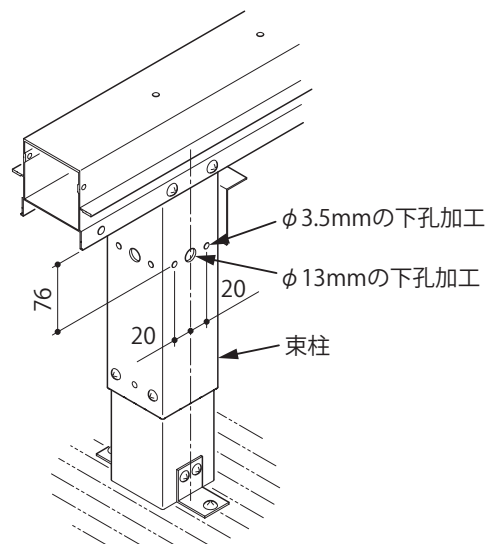


1-7-2 束柱・大引の設置

- ① 20ページの「納まり図」で設置位置・寸法を確認してください。
- ② 右図を参照して、標準の束柱に下孔加工を行ってください。



必要に応じて、本体側の束柱の本数を増やしてください。
・大引ピッチ：910mm

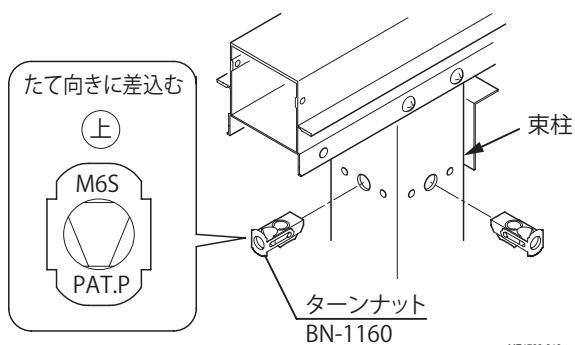
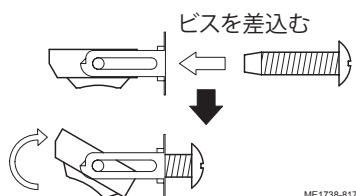


束柱・大引・根がらみの設置

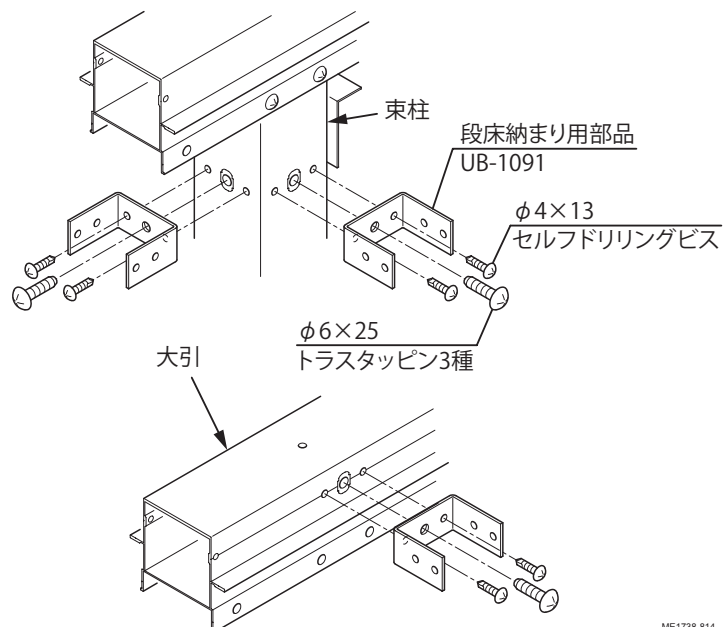
③ターンナットを束柱に差し込んでください。

●ターンナットの取付方法

※ボルトを差し込むことにより、束柱内部でナット部が回転します。



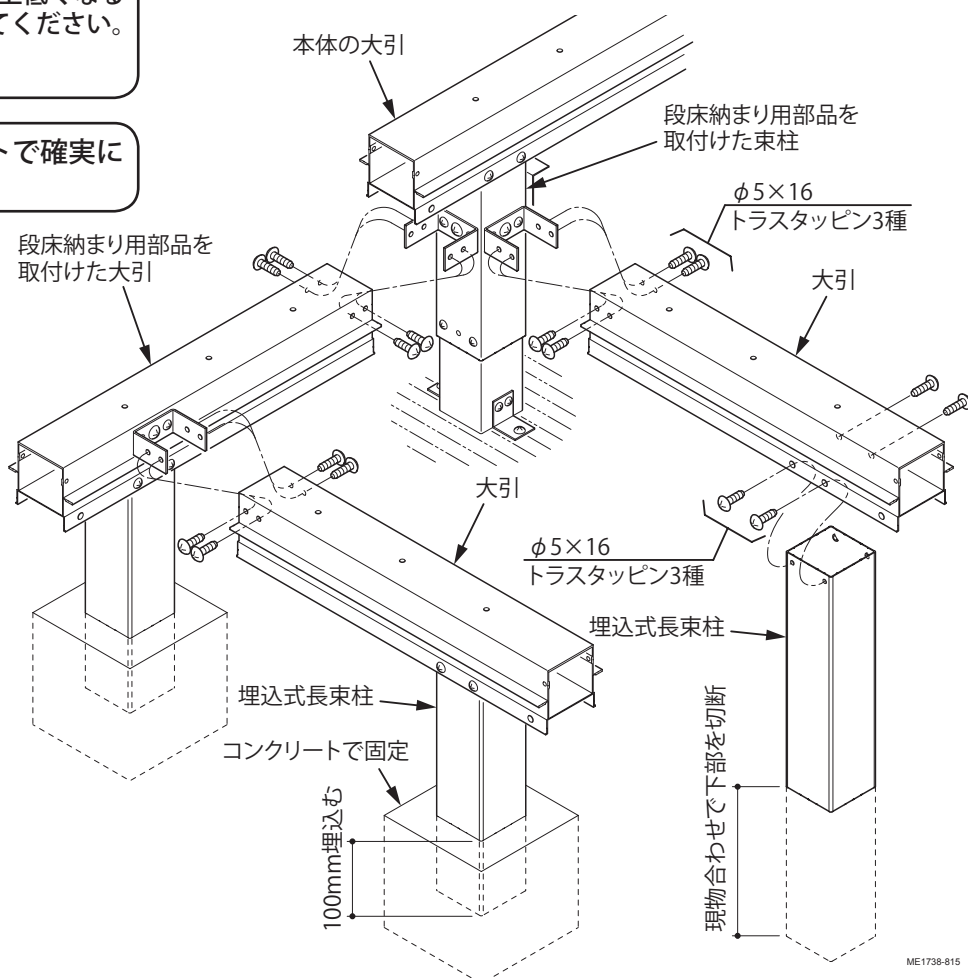
④段床納まり用部品を取付けてください。



⑤図を参照して、束柱・大引を設置してください。

- 下段には埋込式長束柱を使用します。
- 標準の束柱より 140 mm 以上低くなるよう、現物合わせで切詰めてください。
- 埋込み寸法 = 100mm 以上

埋込式長束柱をコンクリートで確実に固定してください。



2

床下補強材の取付け



- 作業の前に、完成プランを確認してください。
- ベースプレート式のデッキフェンス柱を取付ける場合に、作業を行ってください。
- デッキフェンスを施工しない場合、および間柱タイプの埋込柱を設置する場合は、作業不要です。
(41 ページの「3. デッキ材の取付け」へ進んでください。)

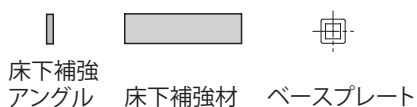
2-1 床下補強材・床下補強アングル取付例



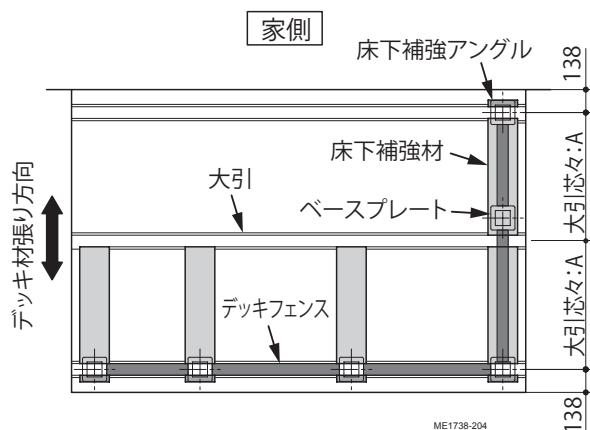
下図の例を参照して、ベースプレート下に、床下補強材および床下補強アングルを設置してください。



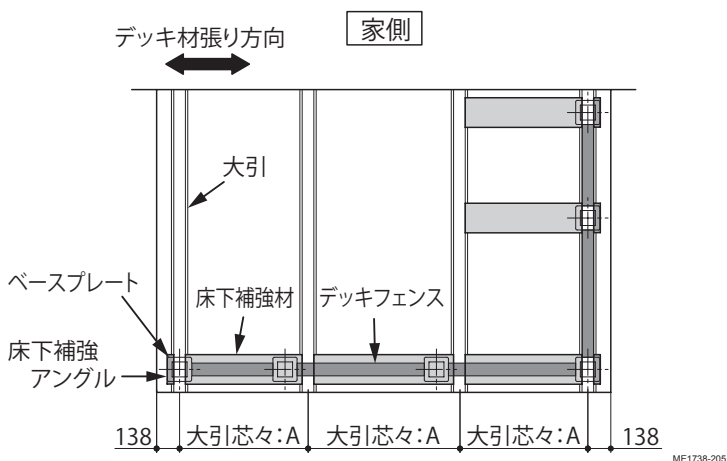
床下補強材および床下補強アングルは、ベースプレートをビス止めするために使用します。



●デッキ縦張り



●デッキ横張り



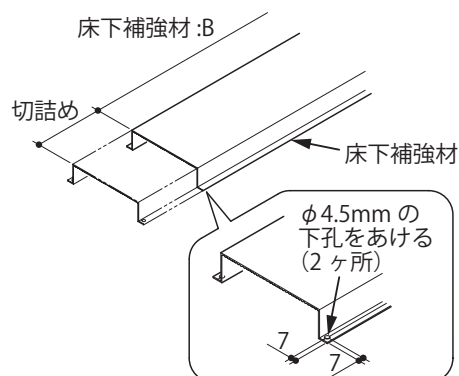
2-2 床下補強材の切詰め

●床下補強材寸法表 (mm)

大引芯々：A	床下補強材：B
634	562
772	700
910	838 (※)

※ L=838 の床下補強材をそのまま使用します。

- ①表を参照し、大引間隔に応じて床下補強材を切詰めてください。
- ②φ 4.5mm 下孔を 2 ヶ所あけてください。

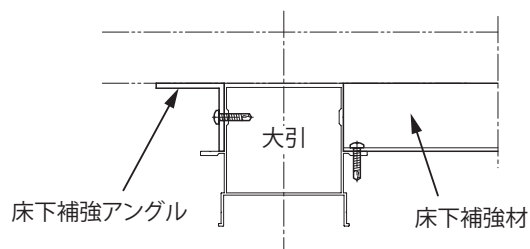


2-3 床下補強材・床下補強アングルの取付け

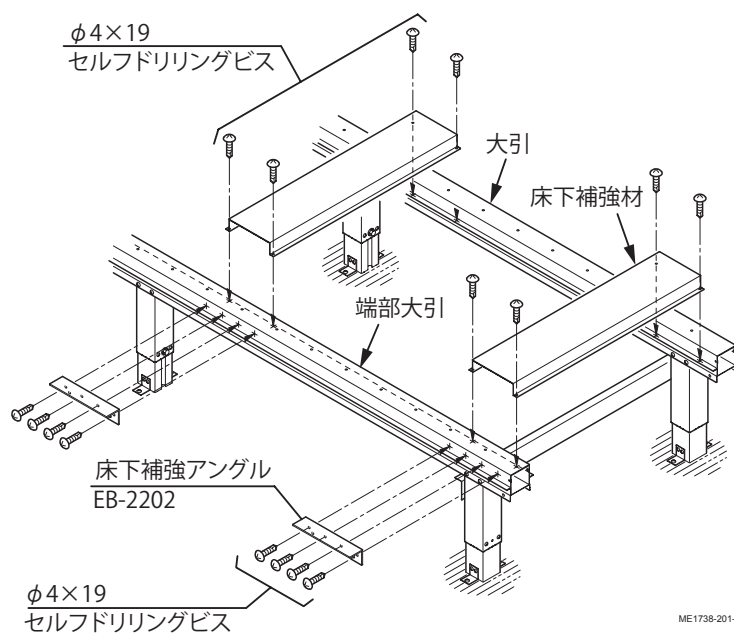


床下補強材・床下補強アングルは、ベースプレート取付位置下の大引に取付けてください。

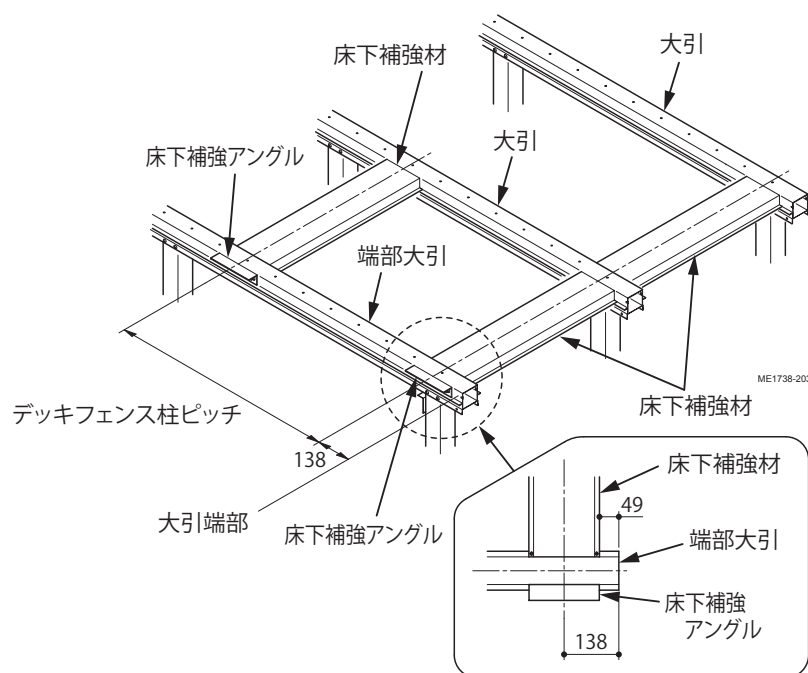
- ①前ページの取付例、および「納まり図」を参照して、床下補強材と床下補強アングルを大引に取付けてください。



ME1738-202



ME1738-201-2



ME1738-203

3

デッキ材の取付け

●点検口を設置する場合は、「3-8. 点検口の施工」を参照してください。

- デッキ材を取付ける前に、完成プランを確認してください。
- ベースプレート式のデッキフェンス柱を取付ける場合は、デッキ材の取付前に、床下補強材を取付けてください。
(床下補強材の取付けについては、39 ページの「2. 床下補強材の取付け」を参照してください。)
- 点検口を設置する場合は、点検口設置位置のデッキ材を切断した状態で、デッキ材を取付けてください。
(点検口の施工については、47 ページの「3-8. 点検口の施工」を参照してください。)
- オプションを設置する場合は、あらかじめ施工手順を確認してから取付作業を行ってください。
(オプションの施工については、46 ～ 52 ページ「3-6」～「3-11」を参照してください。)



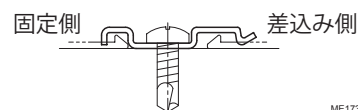
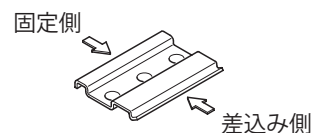
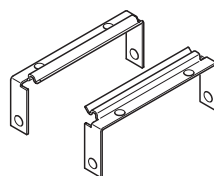
デッキ材取付金具について



- デッキ材を取付るときには、デッキ材取付金具を使用します。
- デッキ材取付金具には、固定側と差込み側があります。

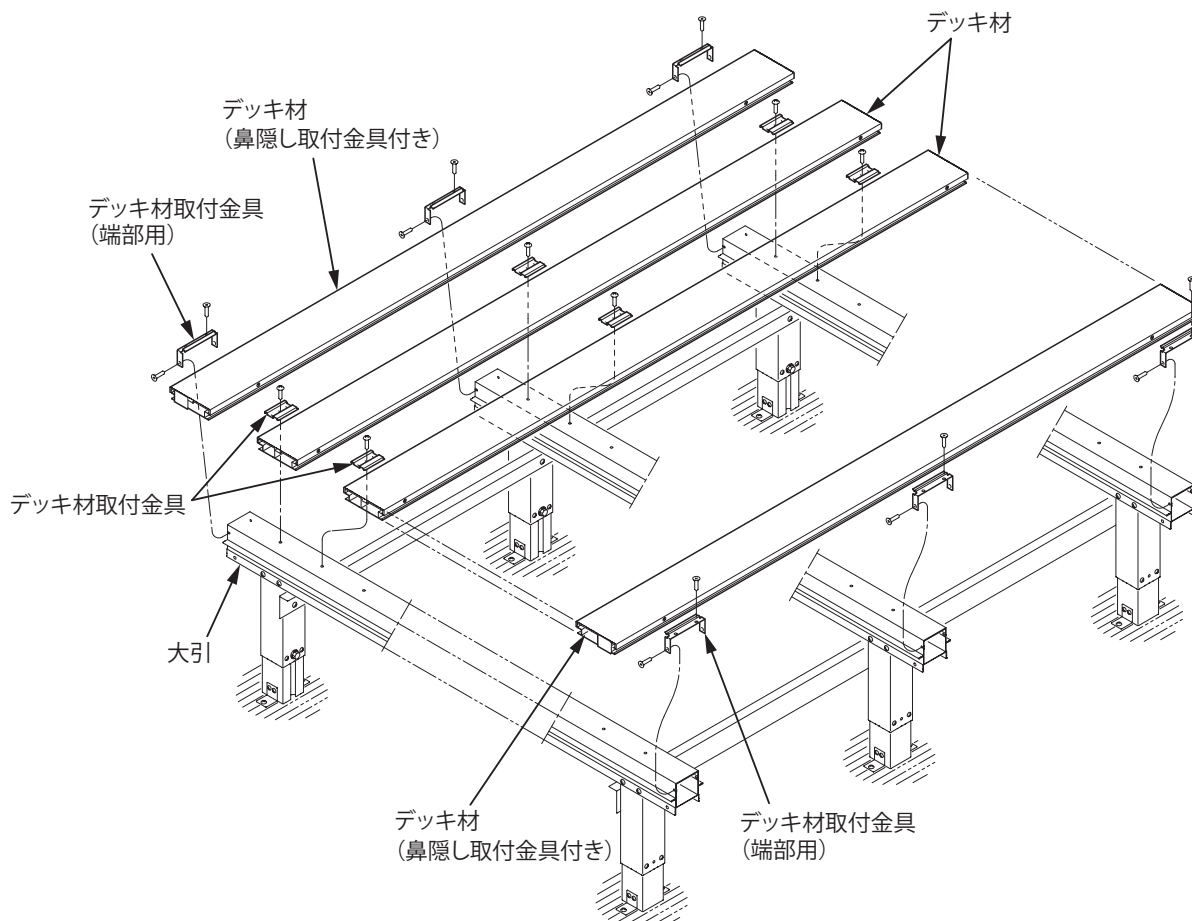
●デッキ材取付金具 (端部用)

●デッキ材取付金具



ME1738-303

取付イメージ図



ME1738-304

3-1 デッキ材の切詰め



出巾や間口巾により、デッキ材を切断する場合があります。

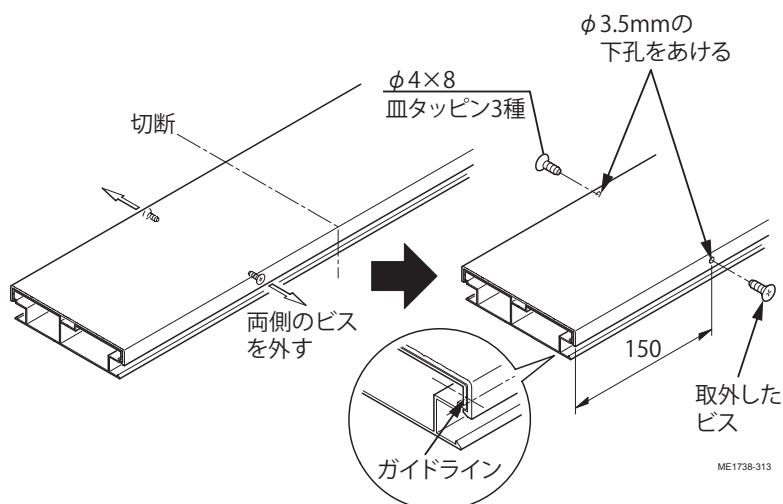
- ①デッキ材を切断してください。
- ②使用するデッキ材に、ビスを付替えてください。



デッキ材を途中で切断し、2本共に使用する場合は、ビスを付替えず、切断面を鼻隠し側にしてください。



ビスが不足する場合は、下記のビス（または同様のビスを）現場で手配してください。
・ビス：φ4×8皿タッピン3種



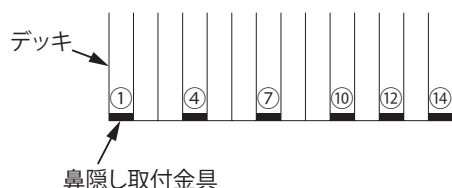
3-2 鼻隠し取付金具の取付け



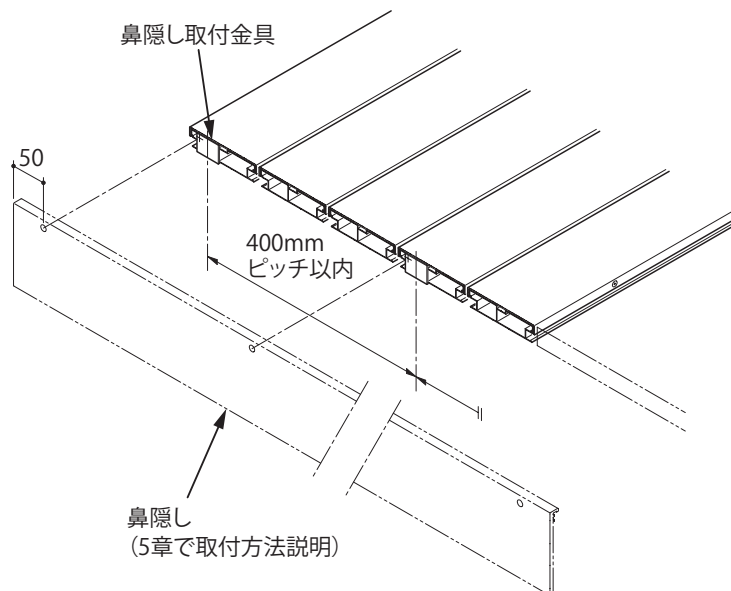
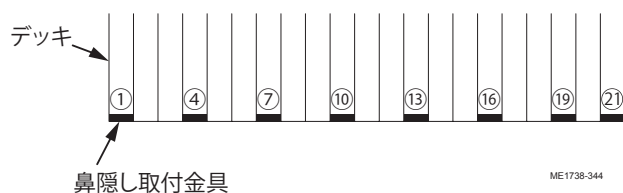
デッキ材を大引に取付ける前に、作業を行ってください。

●金具の取付位置

出巾 1.0 間



出巾 1.5 間



- ①鼻隠し取付金具をデッキ材の小口側に、400mmピッチ以内で取付けてください。



両サイドのデッキ材には、必ず鼻隠し取付金具を取付けてください。

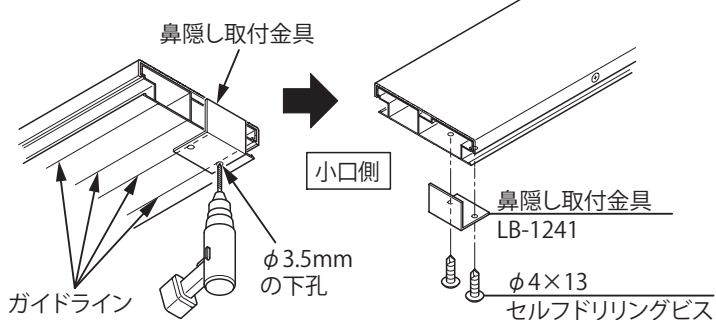


鼻隠し取付金具は、デッキ材の側面には取付けません。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。

●デッキ材底面から見る



必要に応じて左右どちらかのガイドライン上に取付けてください。

3-3 デッキ材の取付け



オプションを設置する場合は、あらかじめ施工手順を確認してから、デッキ材の取付けを行ってください。

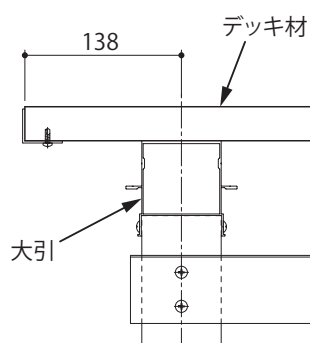
※オプションの施工については、46～52 ページ「3-6」～「3-11」を参照してください。

取付位置

●標準



デッキ材小口側を大引中心から 138mm 出した位置で取付けてください。

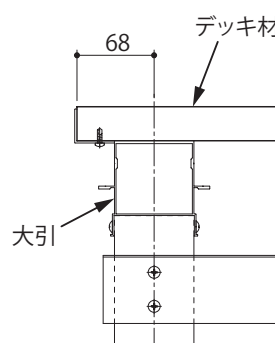


ME1738-309

●デッキフェンス間柱タイプの埋込柱を使用する場合



デッキ材小口側を大引中心から 68mm 出した位置で取付けてください。



ME1738-314

施工手順

- ①デッキ材を大引端部に置いてください。
- ②デッキ材取付金具（端部用）をビスで大引に取り付け、デッキ材を固定してください。



●先に下孔加工されている側面をビス止め後、上面をビス止めしてください。

●側面 1 ヶ所・上面 1 ヶ所を対角にビス止めしてください。

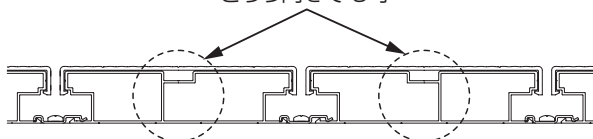
※どちらの対角でも可能です。状況に応じてビス止めしてください。



デッキ材には向きがありますが、どちら向きでも取付けることができます。

●デッキ材の向き

どちら向きでも可



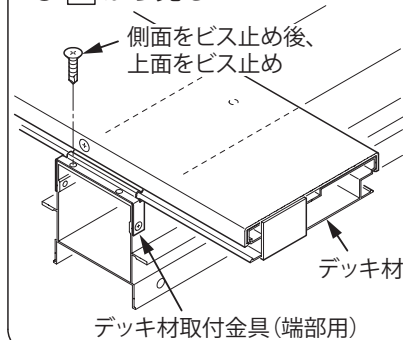
ME1738-346

デッキ材取付金具（端部用）
ETC-4753

A

φ4×13
皿セルフドリリングビス

●A から見る



デッキ材
（鼻隠し取付金具付き）

大引

ME1738-305

デッキ材の取付け

- ③デッキ材固定金具の固定側で、デッキ材のツメを固定し、ビスで大引に取り付けてください。



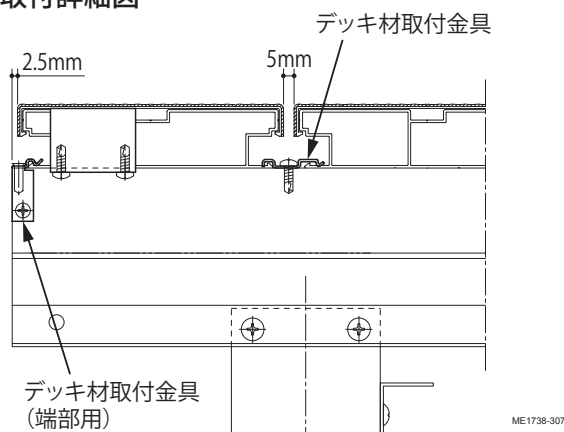
デッキ材取付金具の向きを間違えないようにしてください。



大引上面の取付孔に合わせて取付けてください。

※チリ寸法 5mm で納めることができます。

●取付詳細図



- ④デッキ材取付金具の差込み側にデッキ材のツメを差込んでください。

- ⑤「③・④」の手順を繰り返し、デッキ材を全て取付けてください。

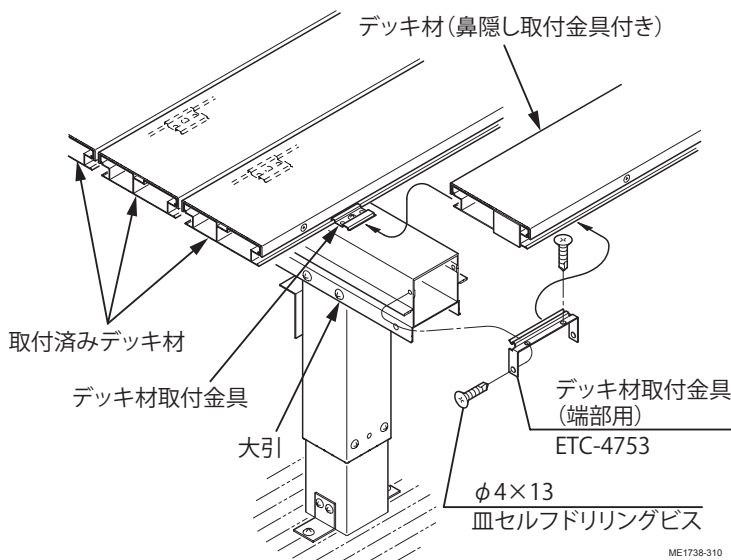
- ⑥デッキ材取付金具（端部用）をビスで固定してください。



●先に下孔加工されている側面をビス止め後、上面をビス止めしてください。

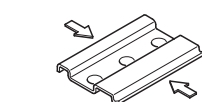
●側面 1 ヶ所・上面 1 ヶ所を対角にビス止めしてください。

※どちらの対角でも可能です。状況に応じてビス止めしてください。



●取付け金具の向き

固定側 デッキ材を固定



差込み側

次のデッキ材を差し込む

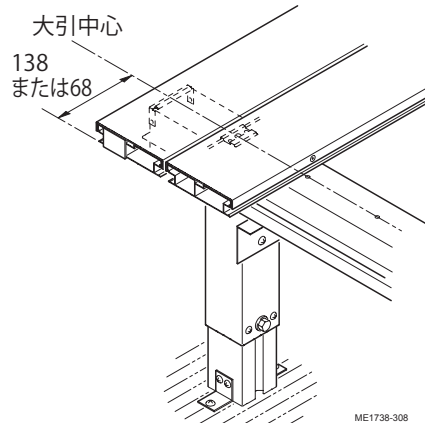
φ4×13
セルフドリリングビス

デッキ材取付金具
ETC-4752

大引

デッキ材

デッキ材取付金具



側面をビス止め後、
上面をビス止め

デッキ材

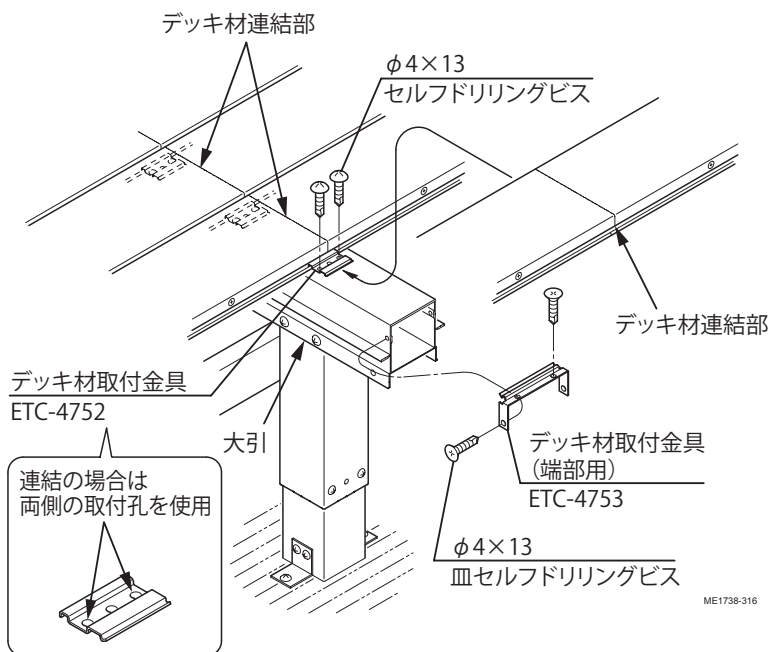
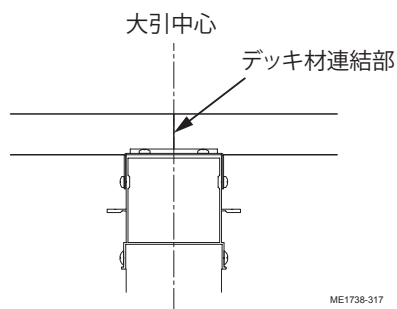
デッキ材取付金具（端部用）

3-4 デッキの連結

- ①デッキ材取付金具で、2枚のデッキ材をはさんで取付けてください。



デッキ材の連結部が、必ず大引の中心となるようにしてください。



3-5 デッキ材のビス止め



- 現場の状況に応じて、デッキ材を大引にビス止めする場合に参照してください。
- ビス止めは、デッキ材のガイドライン上で行ってください。

- ①デッキ材のガイドラインに沿って、デッキ材と大引に下孔をあけてください。
- ②デッキ材表面の樹脂部分（アルミ部分含む）に、φ10mmの皿加工を行ってください。
- ③デッキ材を大引に取り付けてください。

⚠ 注意

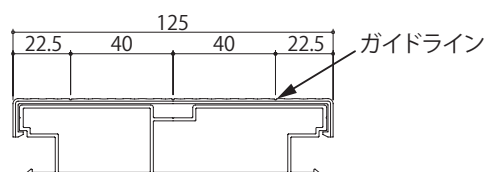
- 皿ビスの頭が必ずデッキ面より下になるようにしてください。
 - ビス部分に樹脂のささくれ等が発生した場合は、必ずヤスリで仕上げてください。
- ※デッキ面が仕上がっていないと、ケガの原因になります。



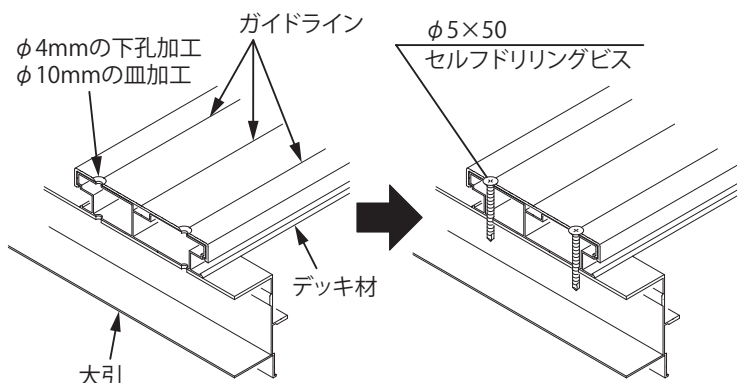
ビスを締付け過ぎないようにしてください。

※締付け過ぎると、デッキ材（樹脂材）が破損する原因になります。

●ガイドライン位置



●ビス止めの断面図



3-6 扉吊元柱部の施工 (※デッキフェンス扉納まりの場合)



施工前に、扉吊元柱が設置されているか確認してください。(33 ページ参照)

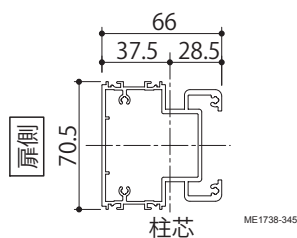
① 扉吊元柱の位置となるデッキ材を切欠いてください。



右図を参照して、柱寸法より大きく切欠いてください。

※すき間がないとデッキ材が取付きません。特にデッキ材取付方向の寸法には注意してください。

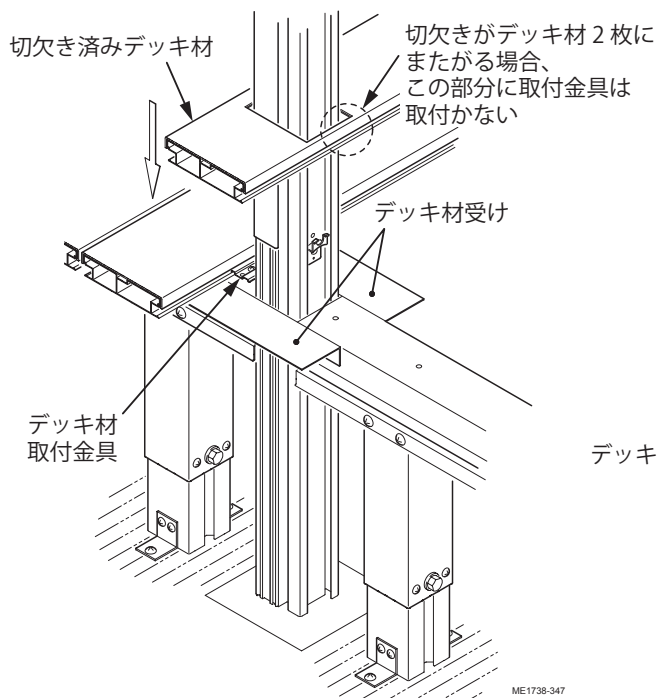
●扉吊元柱



② デッキ材を大引に取付けてください。



デッキ材の取付けについては、「3-3. デッキ材の取付け」を参照してください。(取付金具使用)



③ ビスでデッキ材をデッキ材受けに固定してください。



デッキ材のビス止めについては、「3-5. デッキ材のビス止め」を参照してください。



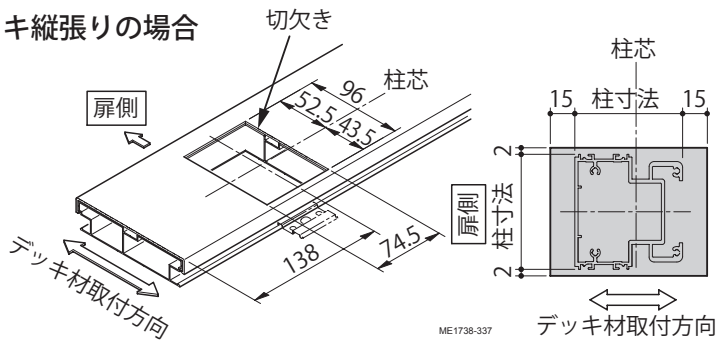
皿ビスの頭が必ずデッキ面より下になるようにしてください。

④ 吊元柱カバーをデッキ材に取付けてください。

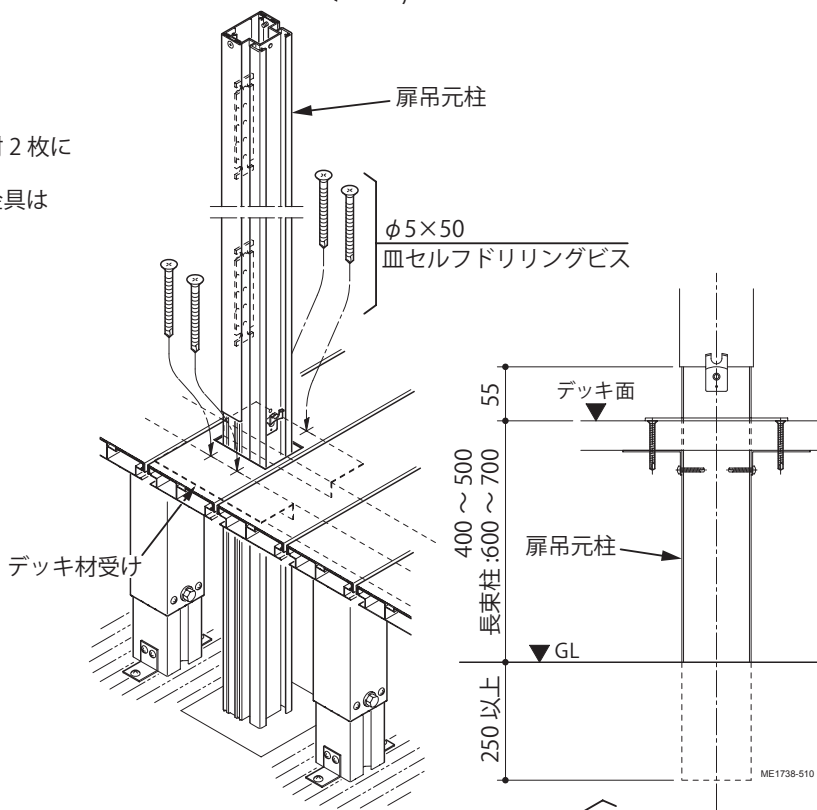
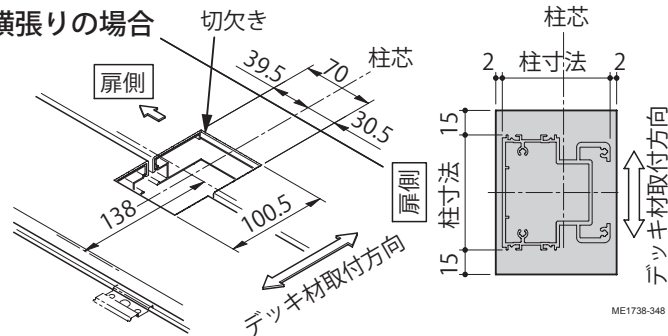


後工程、57 ページの「5-2. 柱の設置」で、ベースプレートカバーを取付けます。

●デッキ縦張りの場合

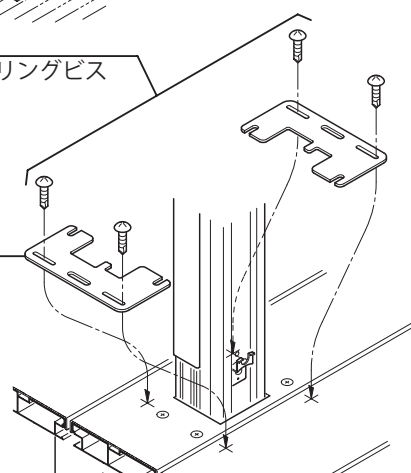


●デッキ横張りの場合



φ4×16
セルフドリリングビス

吊元柱カバー
ETC-4771



3-7 デッキ R 鼻隠し納まり ・台形納まりのデッキ切断



ここではデッキ R 鼻隠し納まりを説明しています。台形納まりの場合も同様の手順で行ってください。

① 17 ページの「納まり図」を参照して、デッキの切断位置・寸法を確認してください。



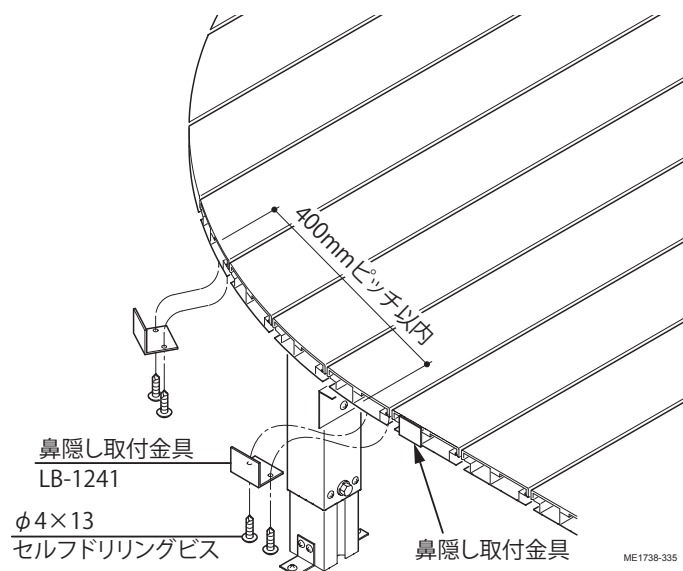
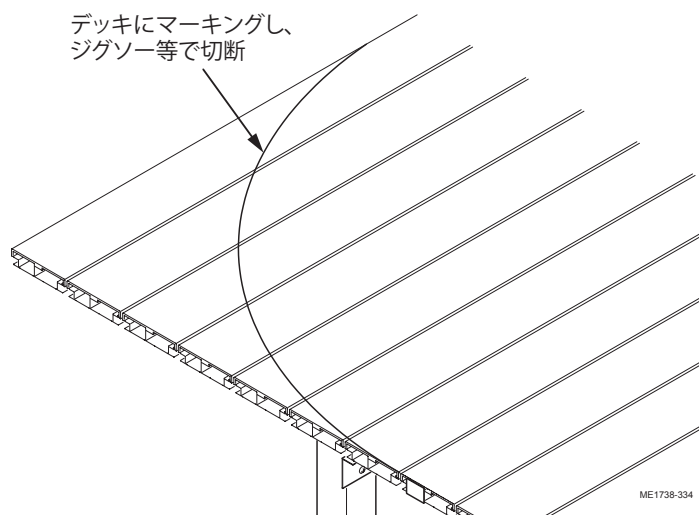
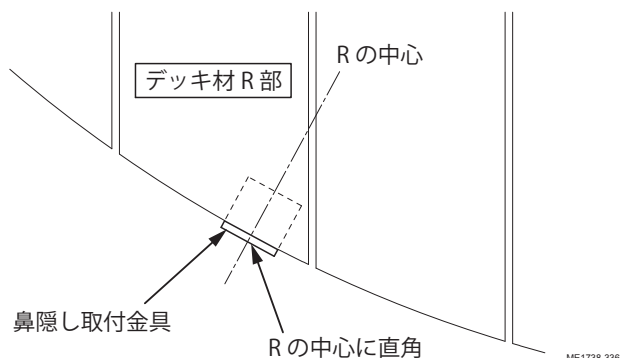
最小寸法 $R=800$ としてください。
※ $R=800$ 以下の場合、破損する原因になります。

② デッキ上に切断位置をマーキングし、ジグソー等で切断してください。

③ 鼻隠し取付金具を取付けてください。



- 鼻隠し取付金具を R の中心に直角にし、すき間のないように取付けてください。(状況に応じて数を追加してください。)
- 鼻隠し取付金具が取付けにくい場合は、デッキ材の取付前に取付けてください。



3-8 点検口の施工 (※オプション)



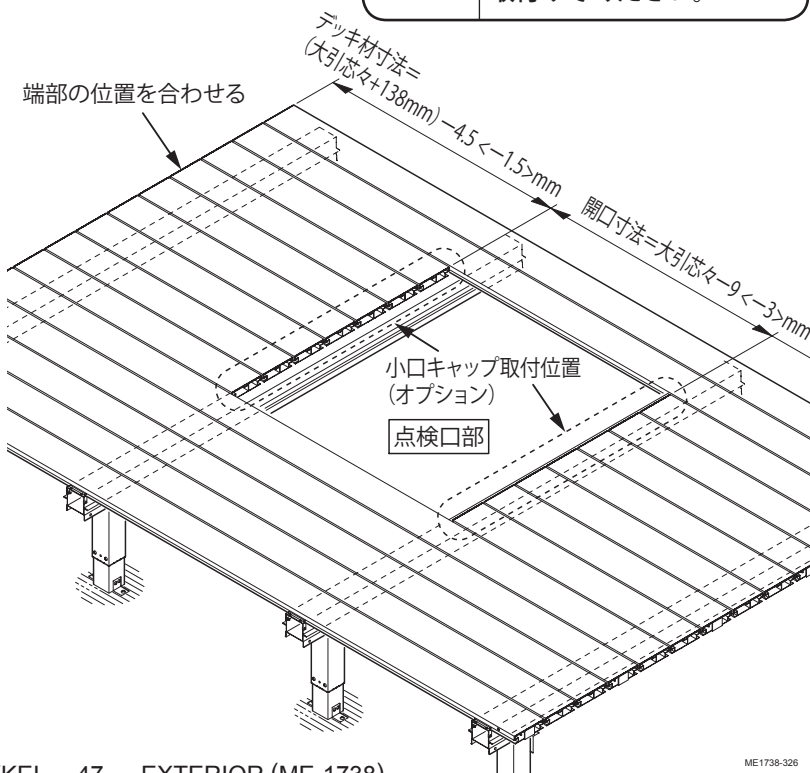
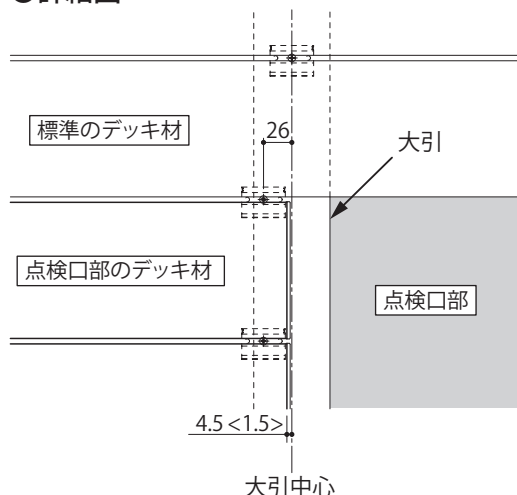
点検口の位置により、デッキ材の切断寸法が変わります。
※ 18 ページの「納まり図」および 23 ~ 28 ページの「束柱大引位置図」を参照してください。

●点検口部イメージ図



小口キャップはオプションになります。必要に応じて取付けてください。

●詳細図



※本図は、小口キャップ付き(オプション)を示す。
※ < > 内寸法は、小口キャップなしを示す。

3-8-1 デッキ材の切断



- 右図を例として切断寸法を説明します。
 - 寸法を示していますが現物合わせで確認してください。
- ※＜＞内寸法は、小口キャップなしの場合を示しています。

①前ページの「点検口部イメージ図」および18ページの「納まり図」を参照し、点検口の位置に合わせてデッキ材を切断してください。



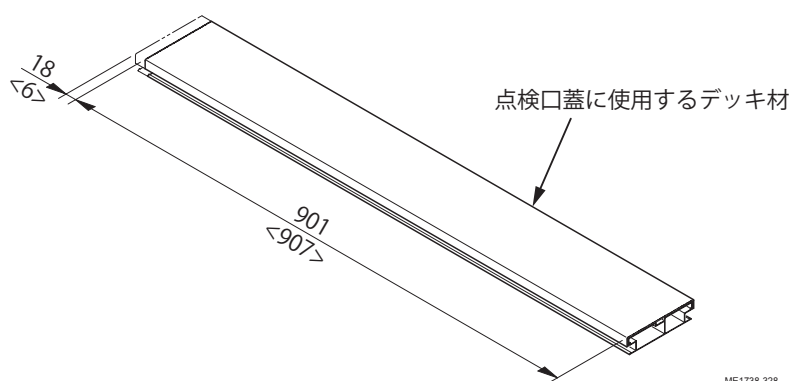
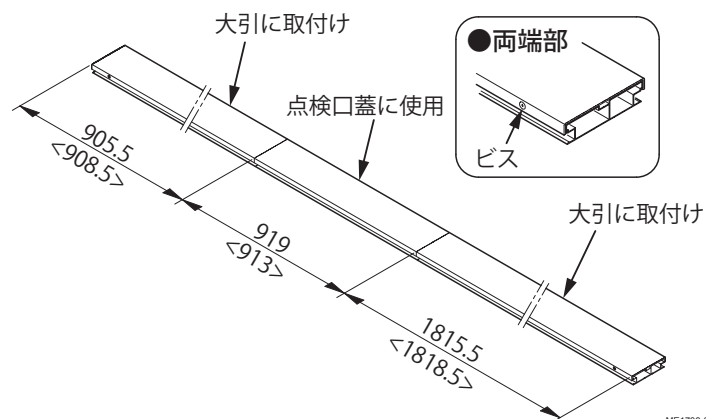
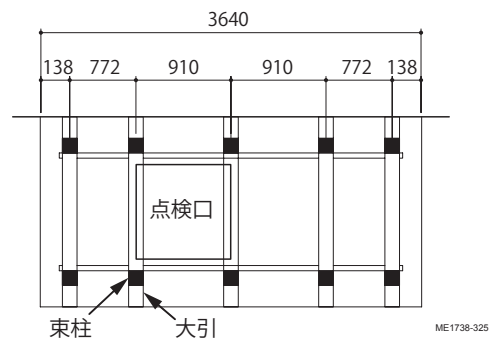
切断後、「3-1. デッキ材の切詰め」を参照して樹脂固定用ビスを両端に取付けてください。



- 両端のデッキ材を大引に取付けます。
- 中央部のデッキ材は点検口蓋に使用します。（「3-8-3. 点検口蓋の組立て」参照）

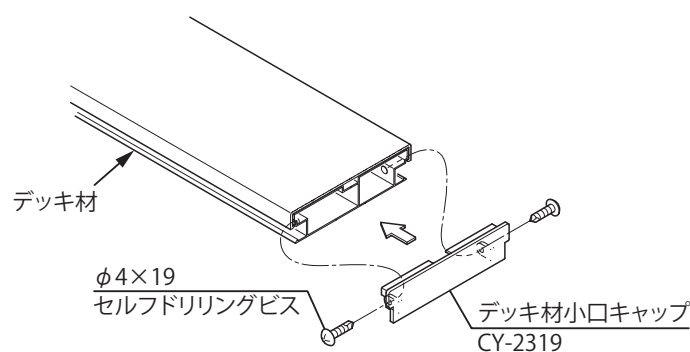
②点検口蓋に使用するデッキ材を 901<907>mm に切断してください。

●例



小口キャップを取付ける場合

①点検口蓋に使用するデッキ材の両側にデッキ材小口キャップを取付けてください。



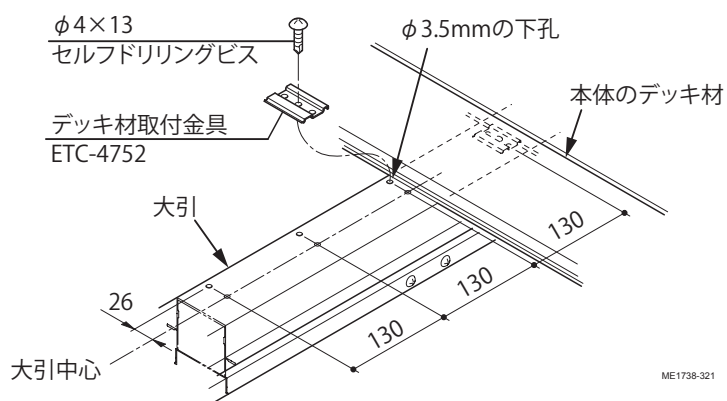
3-8-2 デッキ材の取付け



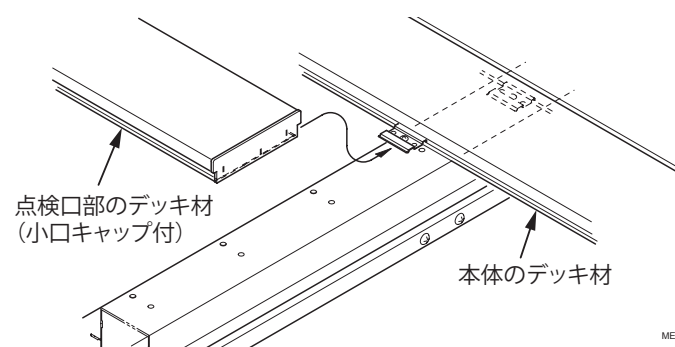
ここでは、小口キャップ付き（オプション）の場合を例として説明しています。

①大引中心から 26mm 外側に $\phi 3.5\text{mm}$ の下孔をあけてください。

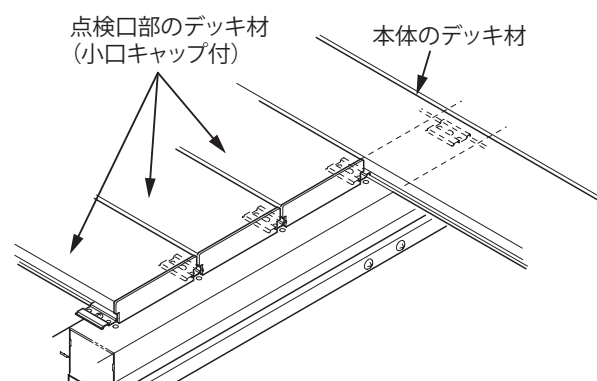
② 43 ページの「3-3. デッキ材の取付け」と同じ要領でデッキ材を大引に取付けてください。



ME1738-321



ME1738-322

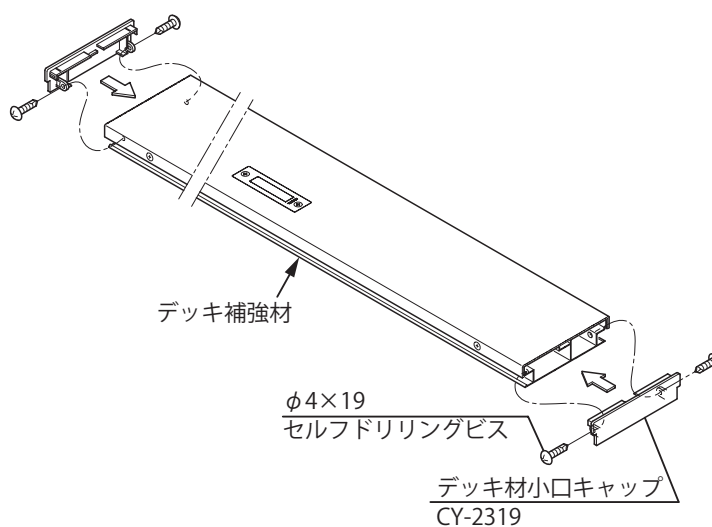


ME1738-324

3-8-3 点検口蓋の組立て

小口キャップを取付ける場合

①デッキ材小口キャップを取付けてください。



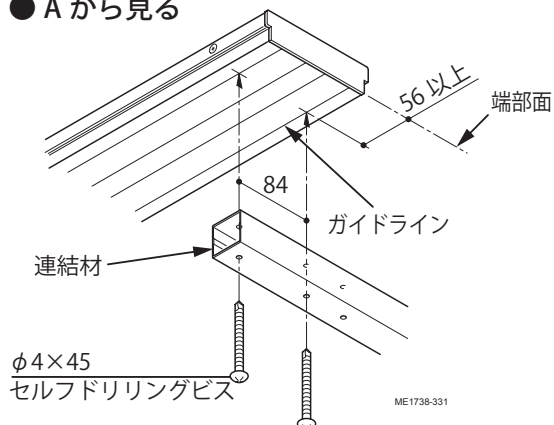
ME1738-329

デッキ材の取付け

点検口蓋の施工

①デッキ連結材に、デッキ材を取付けてください。

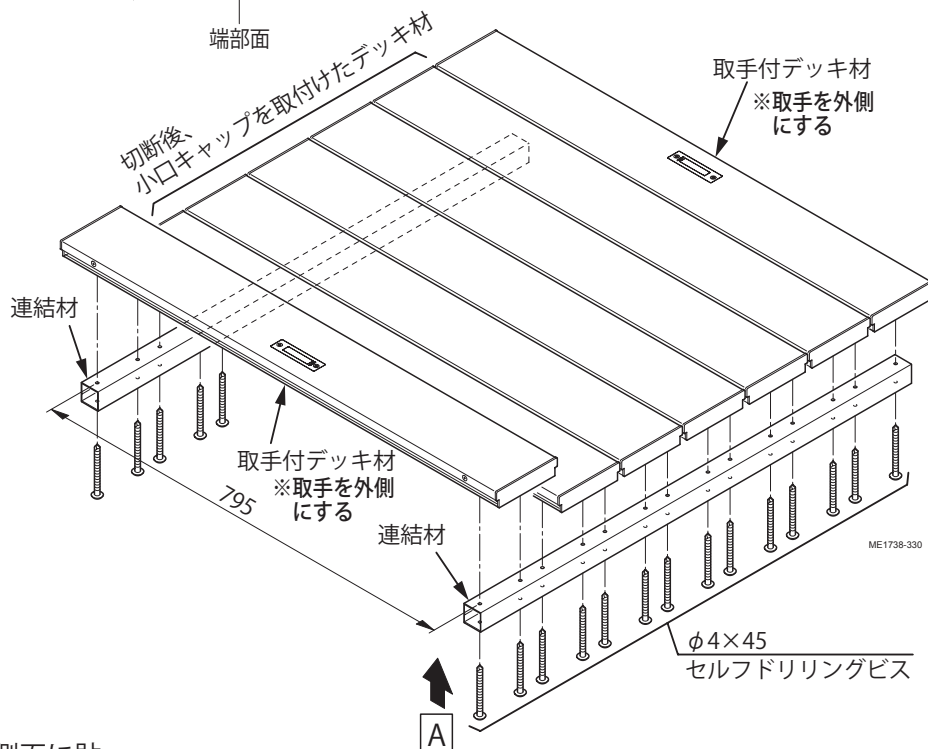
● A から見る



ここでは、小口キャップ付き（オプション）の場合を例として説明しています。

小口キャップの有無にかかわらず端面から 56mm 以上の位置にデッキ連結材を取付けてください。
※ 56mm 以下になると点検口が取付かなくなります。

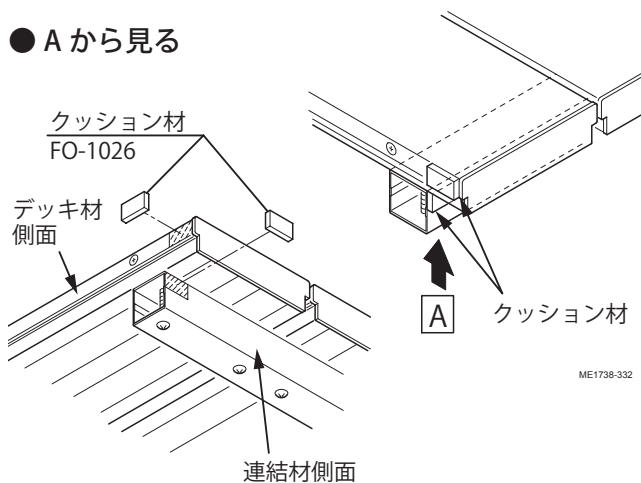
両端 2 枚は取手付デッキ材を取付けてください。
※ 取手が外側となる向きで取付けてください。



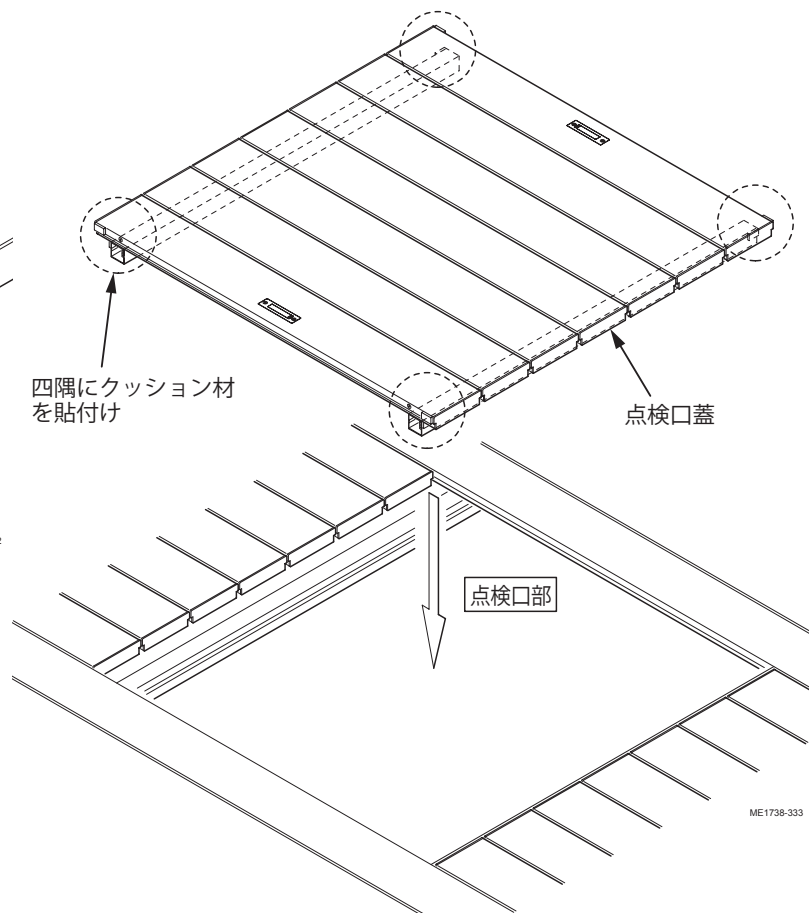
②クッション材をデッキ材側面と連結材側面に貼付けてください。

四隅にクッション材を貼付けてください。

● A から見る



③点検口部に、点検口蓋をはめ込んでください。



3-9 UD 手すり柱部の施工 (※オプション)



施工前に、UD 手すり柱が設置されているか確認してください。(35 ページ参照)

① UD 手すり柱の位置となるデッキ材を切欠いてください。



右図を参照して、柱寸法より大きく切欠いてください。
※すき間がないとデッキ材が取付きません。特にデッキ材取付方向の寸法には注意してください。

② デッキ材を大引に取付けてください。

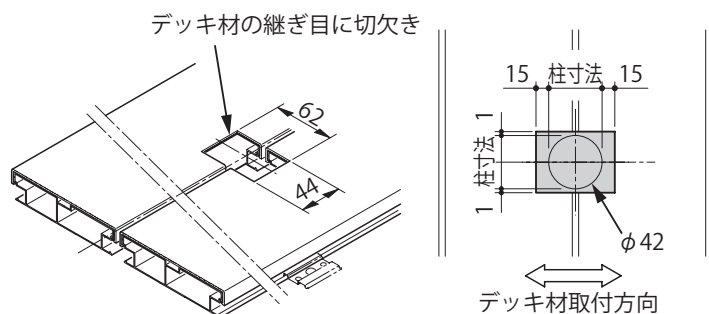


デッキ材の取付けについては、「3-3. デッキ材の取付け」を参照してください。(取付金具使用)

③ 柱カバーをデッキ材に取付けてください。

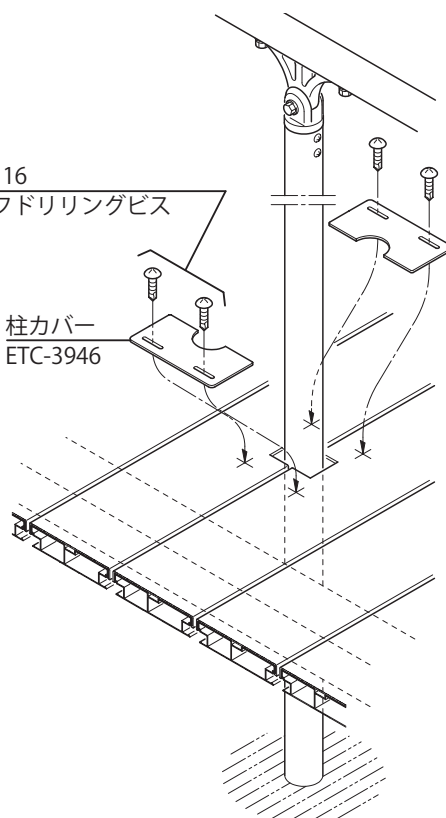


手すり部の施工については、下記の説明書を参照してください。
・UD 手すり [ME-1459]
・UD 手すり自在コーナー継手 [ME-1648]



φ4×16
セルフドリリングビス

柱カバー
ETC-3946



3-10 テラス柱部の施工 (※オプション)



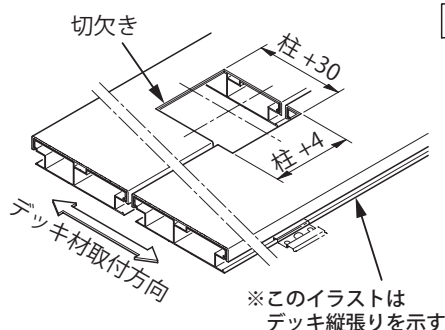
施工前に、テラス柱が設置されているか確認してください。(36 ページ参照)

① テラス柱の位置となるデッキ材を切欠いてください。

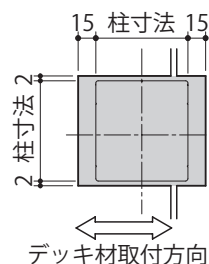


右図を参照して、柱寸法より大きく切欠いてください。
※すき間がないとデッキ材が取付きません。特にデッキ材取付方向の寸法には注意してください。

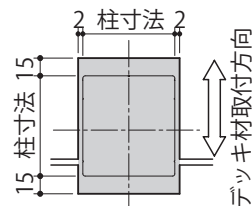
●雨樋なしの場合



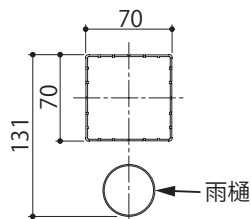
デッキ縦張り



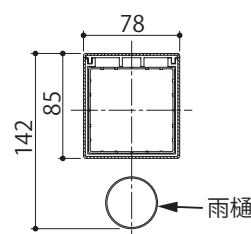
デッキ横張り



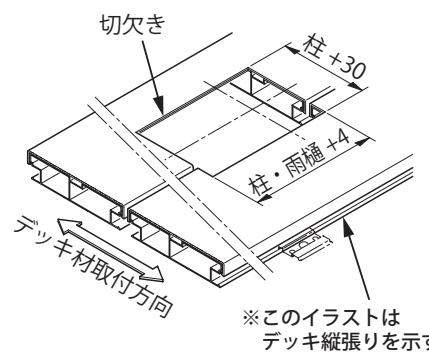
●木樹脂カバーなし



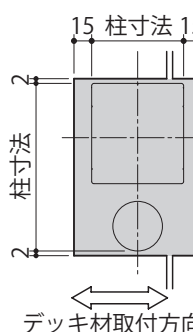
●木樹脂カバーあり



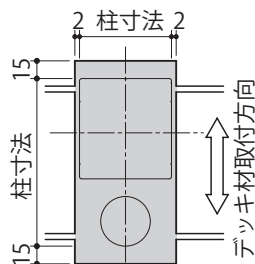
●雨樋ありの場合



デッキ縦張り



デッキ横張り



デッキ材の取付け

- ②デッキ材を大引に取付け、ビスでデッキ材受けに固定してください。



デッキ材の取付けについては、「3-3. デッキ材の取付け」を参照してください。
(取付金具使用)



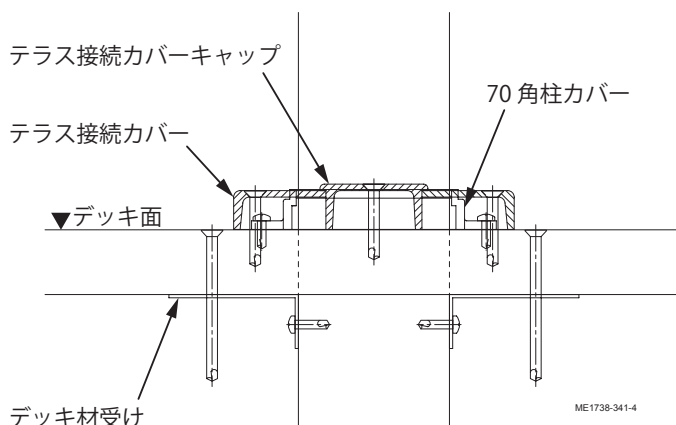
皿ビスの頭が必ずデッキ面より下になるようにしてください。

- ③図を参照して、70 角柱カバー・テラス接続カバー・テラス接続カバーキャップを取付けてください。

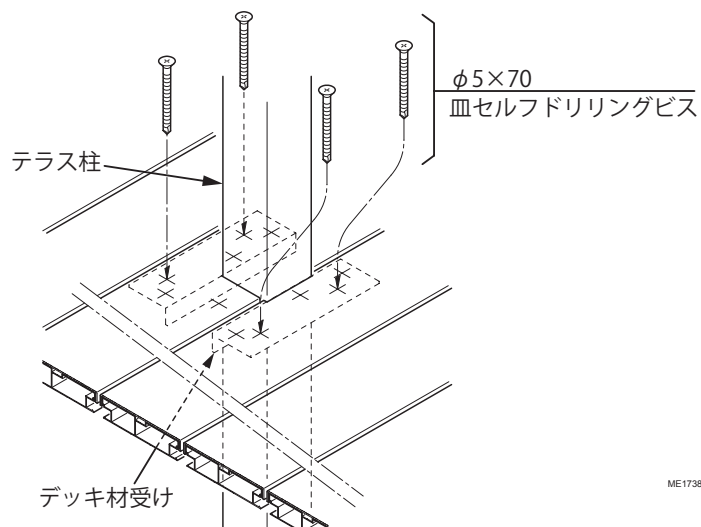


ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。

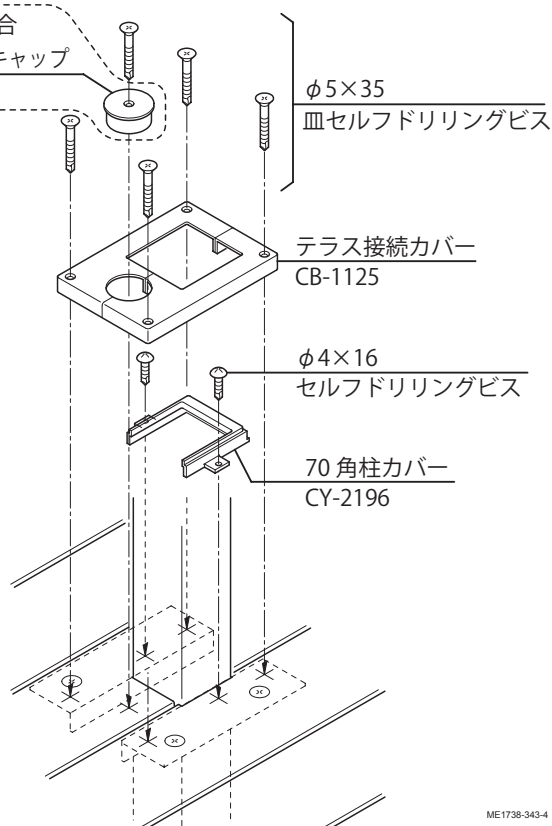
●取付詳細図



テラス本体の施工については、テラスの施工説明書を参照してください。



※雨樋いなしの場合
テラス接続カバーキャップ
CB-1127



3-11 デッキ材2段納まりの場合 (※オプション)

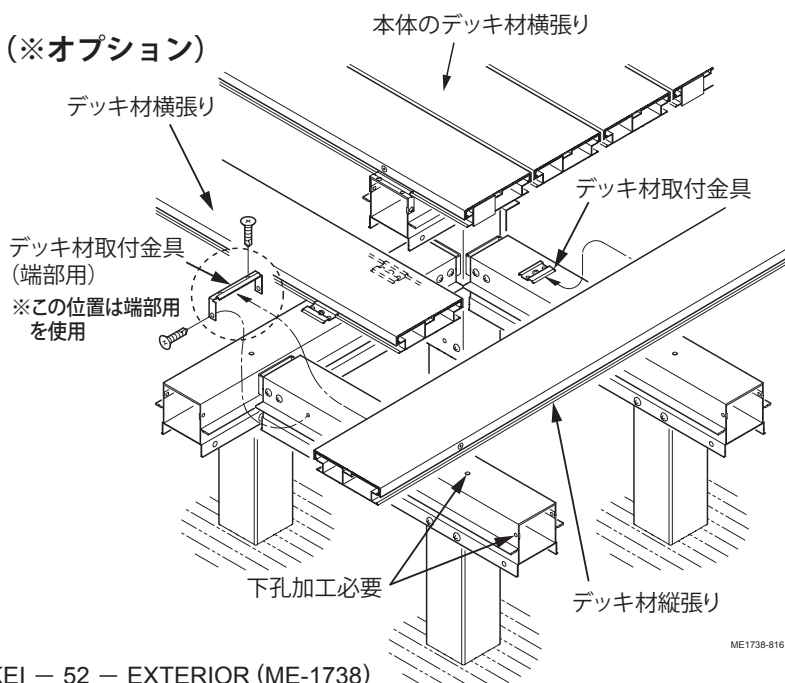


ここでは、20 ページの納まり図のプランを施工例として説明しています。
(下段はデッキ材3枚納まりになります。)



束柱・大引の設置については、デッキ材の取付けについては、37 ページの「1-7. デッキ材2段納まりの場合」を参照してください。

- ① 20 ページの「納まり図」でデッキ材の設置位置・寸法を確認してください。
② 43 ページの「3-3. デッキ材の取付け」の要領で、デッキ材を取付けてください。



4

デッキフェンス施工前の確認

- デッキフェンス施工における確認項目です。
- 施工前に、必ず確認してください。

4-1 柱の種類

- 施工前に、柱の種類・上下を確認してください。



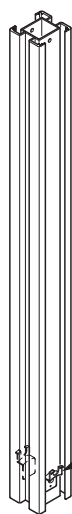
下部ブラケットが下側になります。

通し笠木タイプ



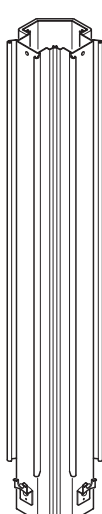
- H800/1000用です。
※H1800の設定はありません。
- 扉吊元柱は埋込式になります。
※「1-4. 扉吊元柱の設置」参照

●間柱

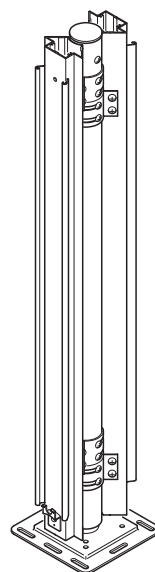


下部ブラケット

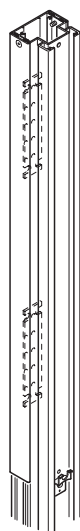
●90° コーナー柱



●角度自在コーナー柱



●扉吊元柱



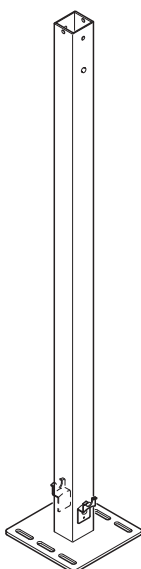
ME1738-401

間柱タイプ

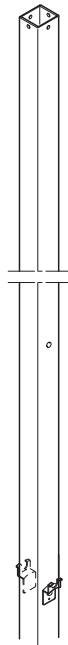


- ベースプレート式・埋込柱タイプの2種類があります。
- ベースプレート式はH800/1000/1800（控え柱タイプ）用です。
- 埋込柱タイプはH1800用です。

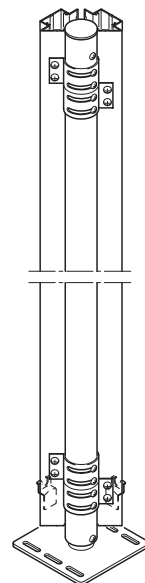
●間柱



●間柱 埋込柱タイプ (H1800のみ)



●角度自在コーナー柱



●角度自在コーナー柱 埋込柱タイプ (H1800のみ)



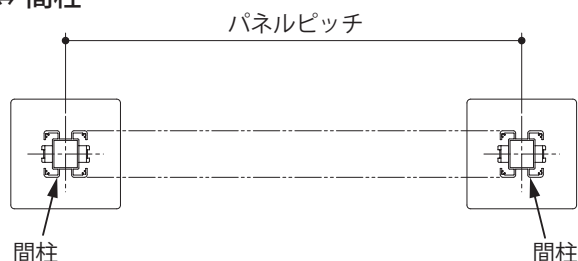
ME1738-402

4-2 柱芯々の設置寸法

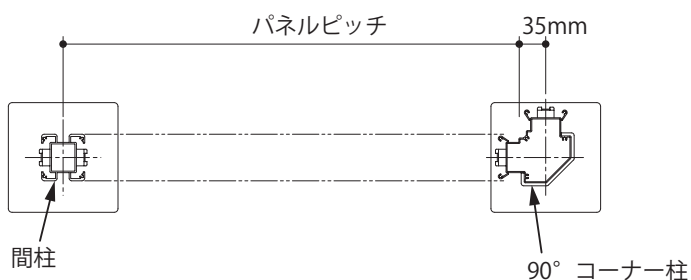


柱の種類によって、柱芯々の設置寸法が変わります。

●間柱 ⇄ 間柱



●間柱 ⇄ 90° コーナー柱 (通し笠木タイプのみ)



●間柱 ⇄ 角度自在コーナー柱

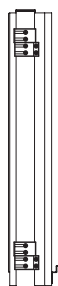


ME1738-415

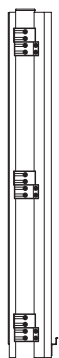
4-3 角度自在コーナー柱の調整方法

①ブラケットの取付ビスを緩め、コーナー部の角度を調整してください。

● H800/1000 用
ブラケット 2 ヶ所



● H1800 用
ブラケット 3 ヶ所



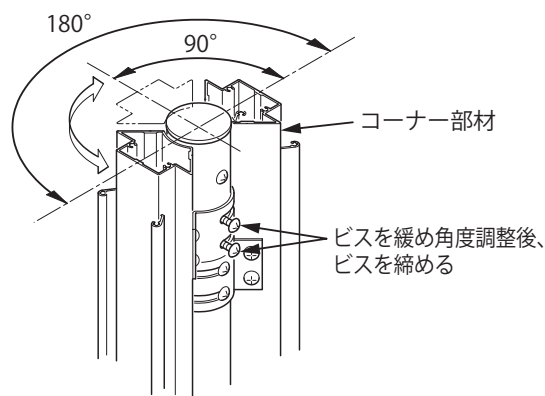
ME1738-403

②角度調整後、ビスを締付けてください。



- 出荷時 通し笠木タイプ：180°
間柱タイプ：90°
- 対応角度：90° ～ 180°

●調整イメージ図



ME1738-404

4-4 ベースプレートの取付方向



- ベースプレート式の場合に確認してください。
- 詳しい取付方法については、「5章：通し笠木タイプの取付け」または「6章：間柱タイプの取付け」を参照してください。

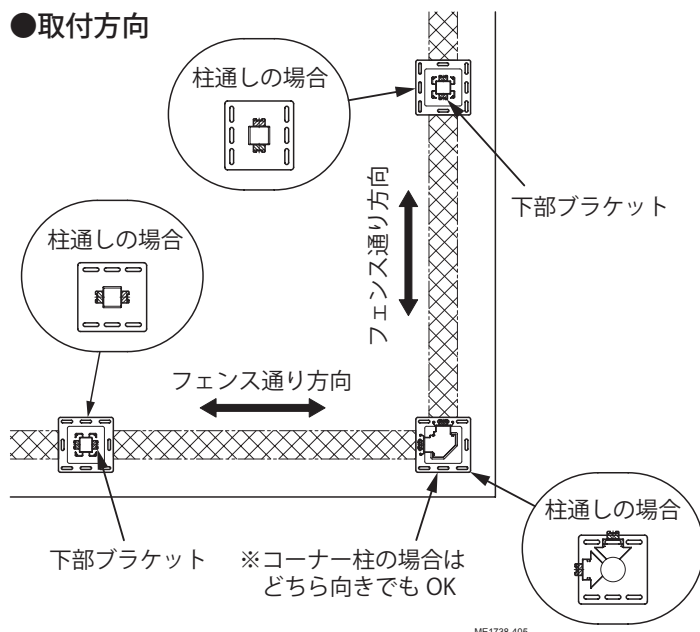


下部ブラケットとベースプレートの3ヶ所の長孔をフェンス通り方向にしてください。

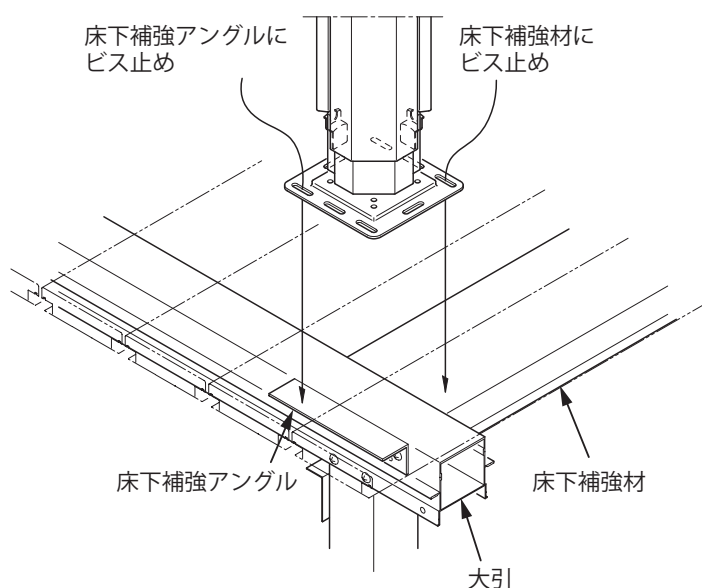


大引、床下補強材または床下補強アングルにベースプレートをビス止めしてください。

●取付方向



●取付イメージ図



4-5 パネルの切詰め

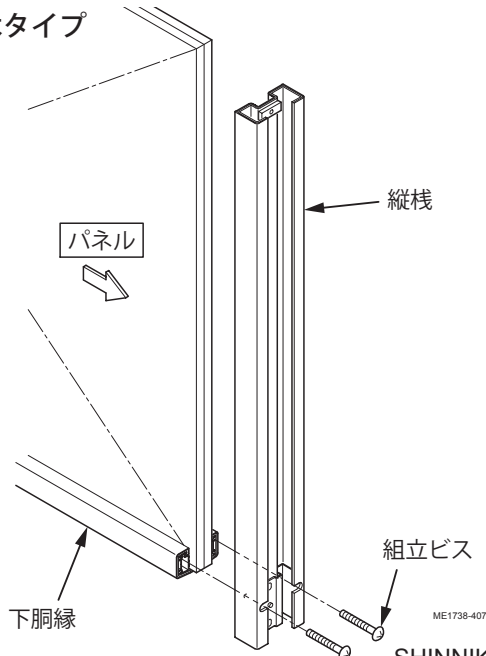
4-5-1 パネルの分解と切詰め



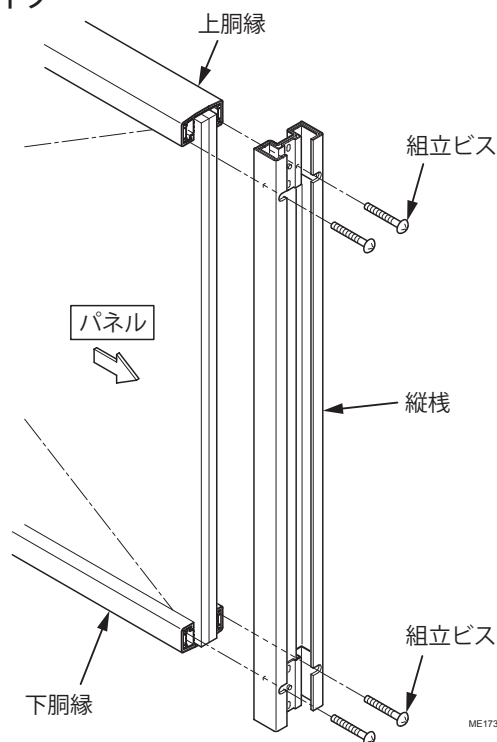
現場寸法に合わせ、パネルの切詰めを行なう場合に参照してください。

①縦棧を取外し、パネルを取外してください。

●通し笠木タイプ



●間柱タイプ



デッキフェンス施工前の確認

②指定の寸法で、パネルを切詰めてください。



切断部が同じ形状になるように図の
ピッチ毎で切詰めてください。

※指定ピッチで切詰めないと、パネルが
がたついたり、接着がはがれることが
あります。



間柱タイプ用パネルの切詰めについ
ては、木樹脂フェンスの施工説明書
[ME-1338] を参照してください。

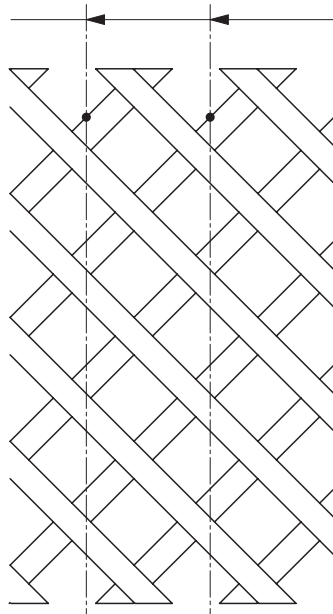


パネル材料が割れることのないよう十
分に注意してください。

通し笠木タイプ

●デッキフェンス 1 型 (ラチス)

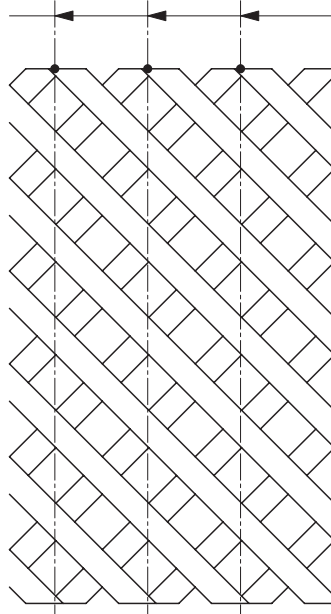
切詰めピッチ=163.8mm



ME1738-410

●デッキフェンス 5 型 (密ラチス)

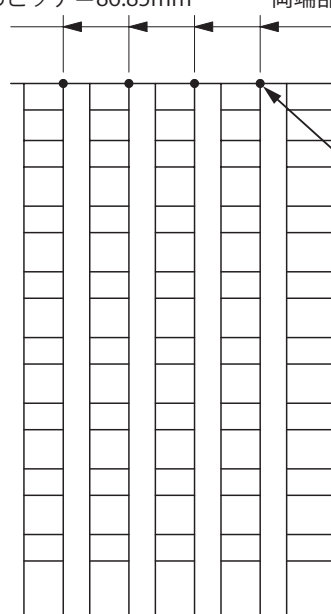
切詰めピッチ=122.85mm



ME1738-411

●デッキフェンス 6 型 (密井桁)

切詰めピッチ=86.85mm
両端部=98.6mm
この位置で切断



ME1738-412

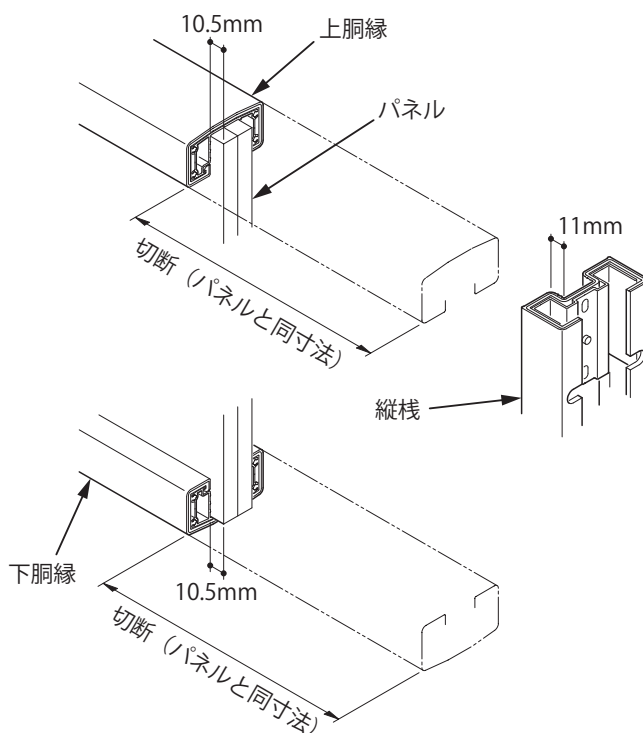
4-5-2 胴縁の切詰めとパネルの組立て

①上下胴縁をパネルと同じ寸法で切詰めてくださ
い。



パネルと同じ寸法で切詰めると、上下胴
縁はパネルよりも 10.5mm (片側) 短く
なります。

②分解の逆手順でパネルを組立ててください。



ME1738-413

5

デッキフェンス 通し笠木タイプの取付け

- 通し笠木タイプの場合に参照してください。
- 間柱タイプの場合は、「6章:間柱タイプの取付け」へ進んでください。

5-1 ベースプレートの取付け



間柱および90° コーナー柱にベースプレートを取付けてください。
※角度自在コーナー柱は不要です。

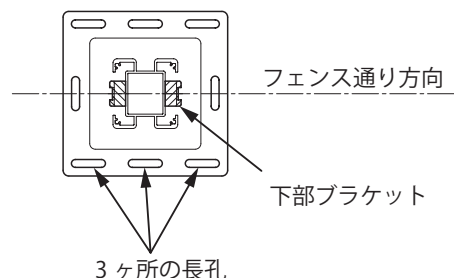
- ① 10 ページの「納まり図」を参照して、柱の位置・向きを確認し、ベースプレートの取付方向を確認してください。



柱の下部ブラケットとベースプレートの3ヶ所の長孔をフェンス通り方向になるよう取付けてください。

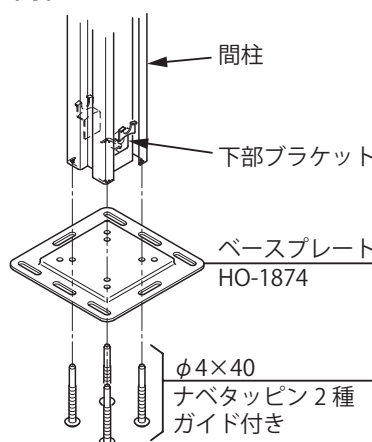
- ② ベースプレートを柱に取付けてください。

●取付方向

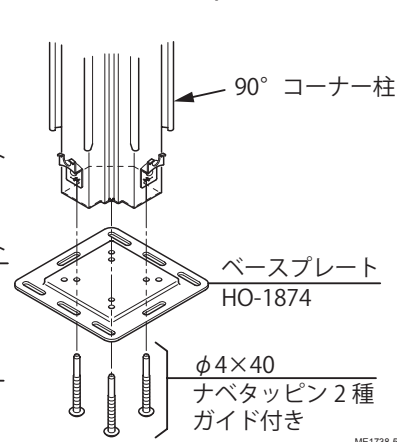


ME1738-501

●間柱



●90° コーナー柱



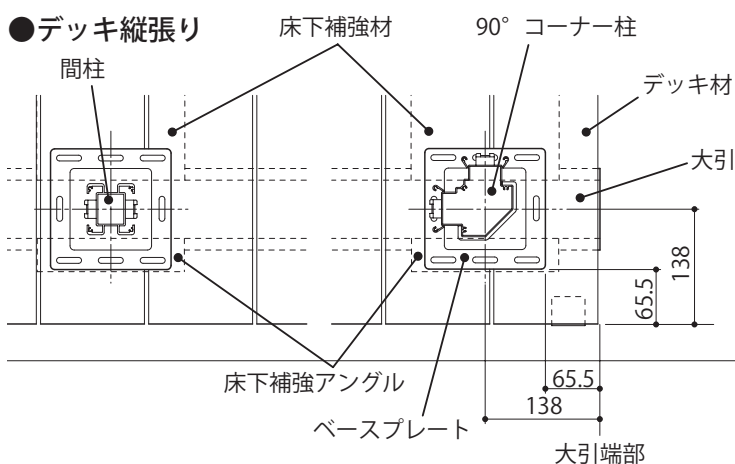
ME1738-504

5-2 柱の設置



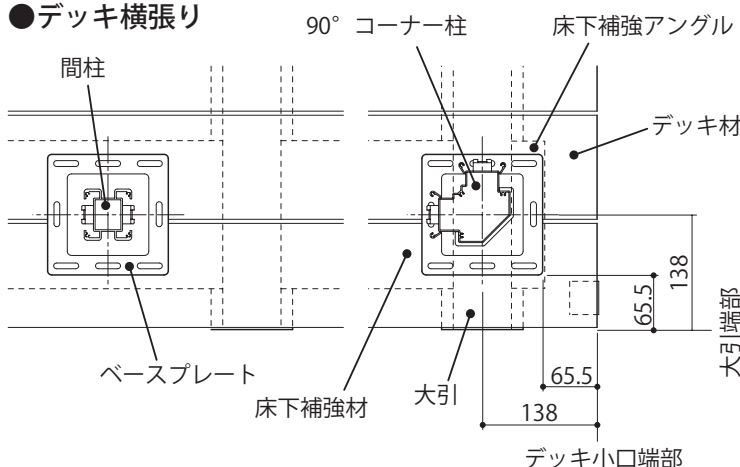
- ベースプレートをデッキ端部より65.5mm 内側に取付けてください。
- ベースプレートを、大引、床下補強材または床下補強アングルの上に取付けてください。

●デッキ縦張り



ME1738-502

●デッキ横張り



ME1738-503

デッキフェンス通し笠木タイプの取付け

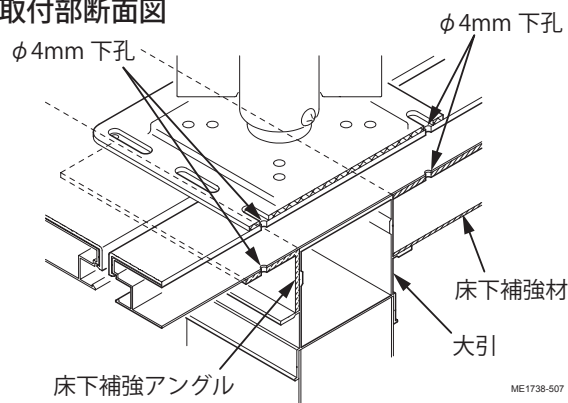
①柱の種類によって設置寸法が異なります。10ページの「納まり図」および「4-2. 柱芯々の設置寸法」を参照して、柱の位置・向きを確認してください。

②デッキ材にベースプレートをあてがい、 $\phi 4\text{mm}$ の下孔（貫通孔）を4ヶ所あけてください。



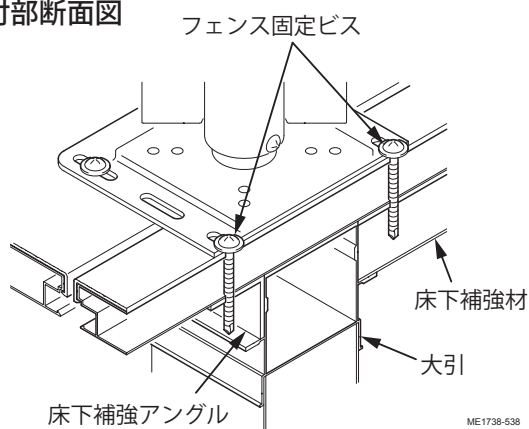
デッキ材のリップを避けて下孔をあけてください。

●取付部断面図



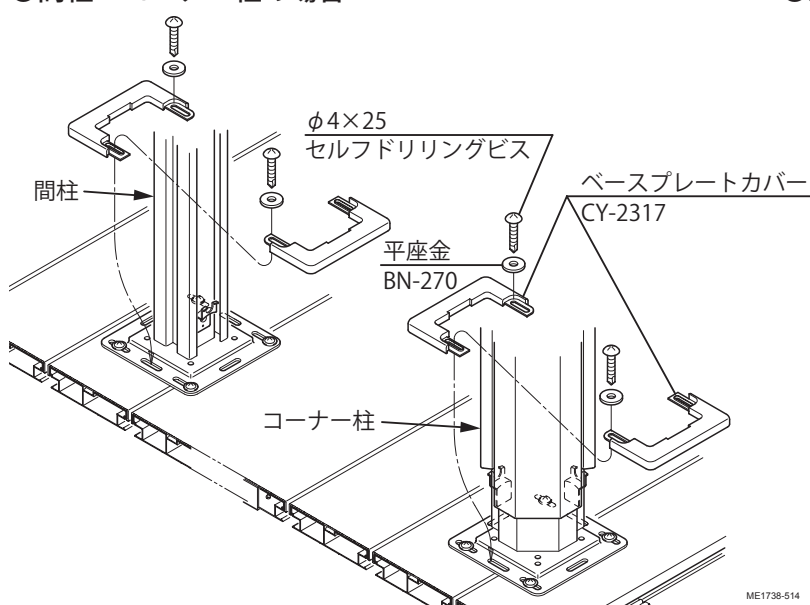
③柱をデッキ材に取付けてください。

●取付部断面図

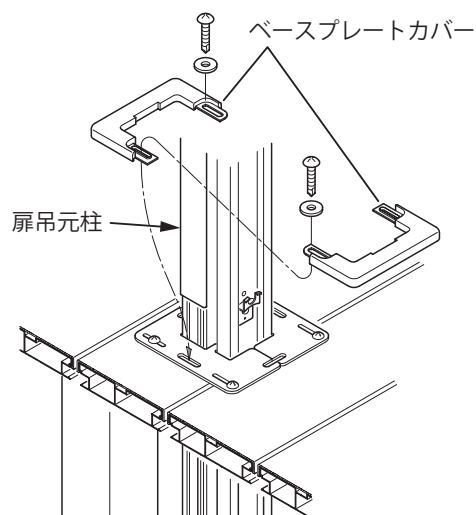


④ベースプレートカバーを取付けてください。

●間柱・コーナー柱の場合



●扉吊元柱の場合（デッキフェンス扉納まり）



5-3 パネルの取付け

施工前に、ベースプレートカバーの取付けが完了しているか確認してください。



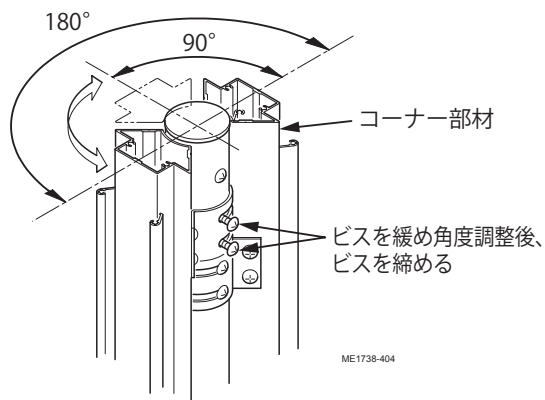
※ 90° コーナー柱・角度自在コーナー柱の場合は、パネル取付後にベースプレートカバーを取付けることができません。

①角度自在コーナー柱の場合、角度を調整してください。

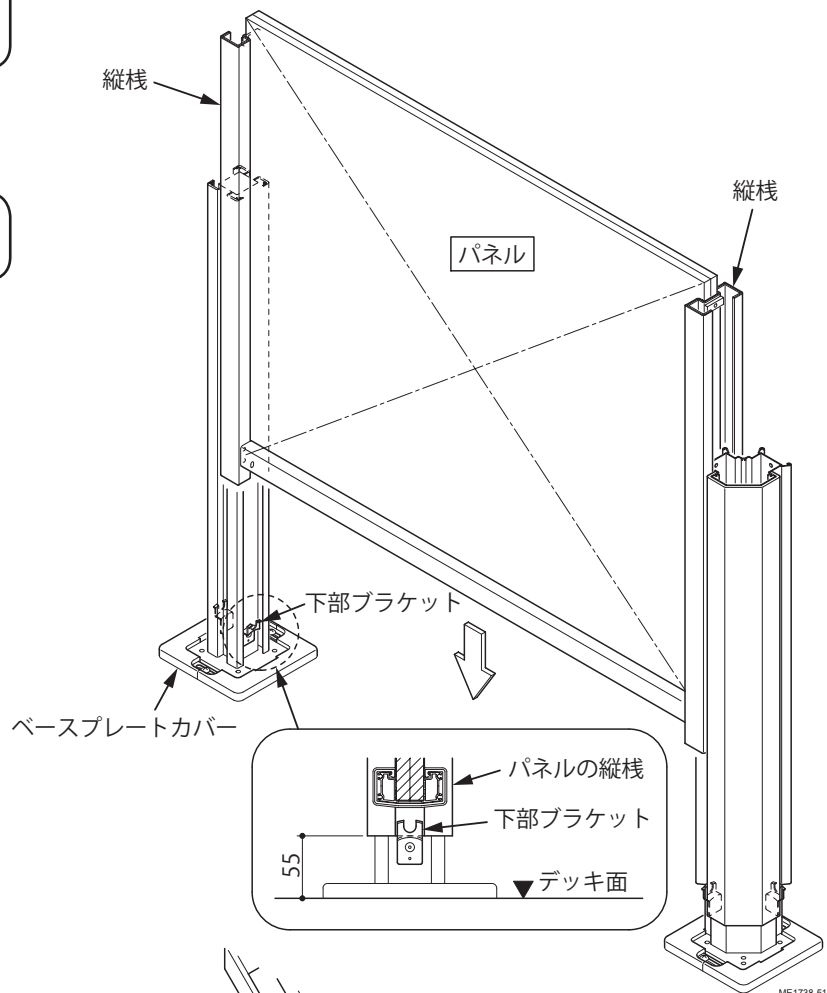


- 出荷時 : 180°
- 対応角度 : 90° ~ 180°

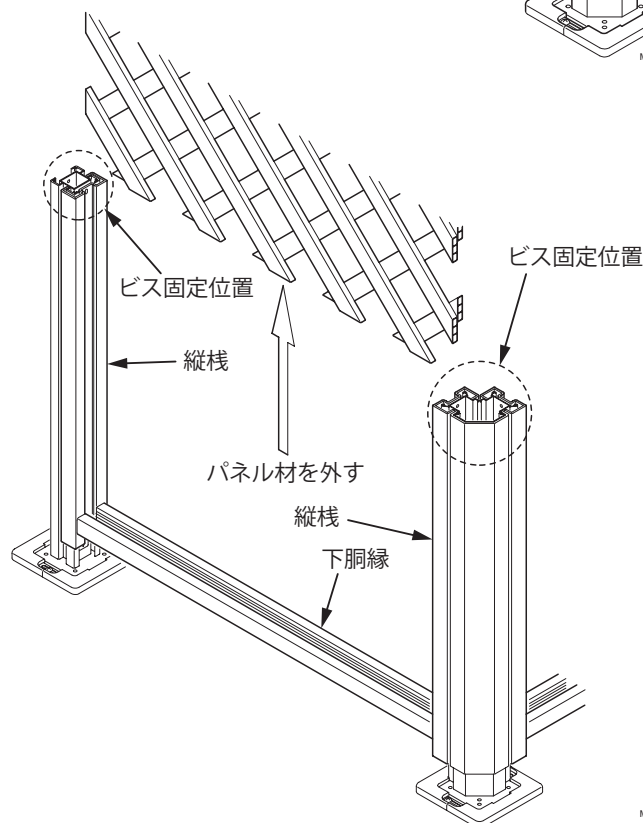
●調整イメージ図



②パネルの縦線を柱にスライドさせて挿入し、下部ブラケットに引っ掛けてください。



③パネル材をいったん縦線から取外してください。



デッキフェンス通し笠木タイプの取付け

③パネル（上部）をビスで固定してください。

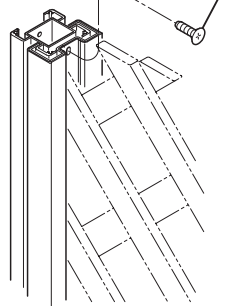


ビスを締付け過ぎないようにしてください。

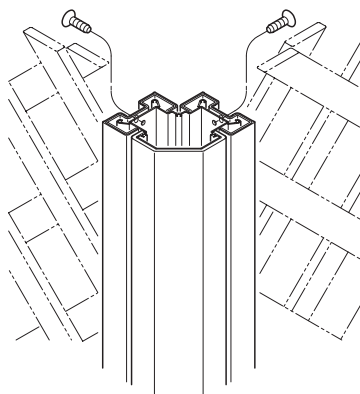
※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。

●間柱

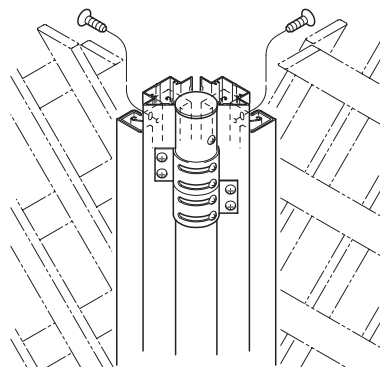
φ4×16
皿トラスタッピン 3種



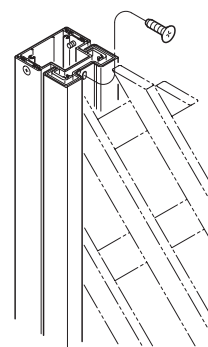
●90° コーナー柱



●角度自在コーナー柱



●扉吊元柱



ME1738-516

④再度、パネル材を縦棧に挿入しパネルを組立ててください。

5-4 柱端部材の取付け

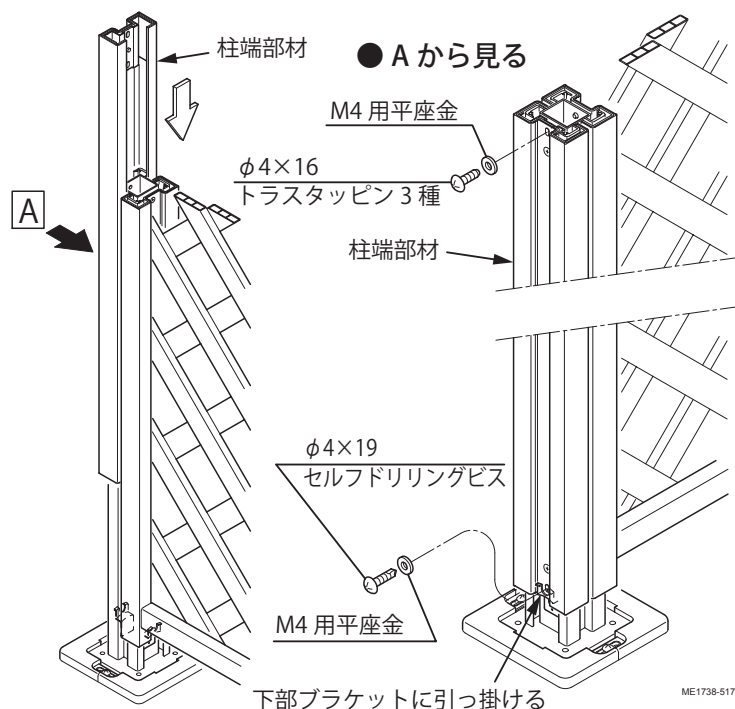
①端部となる柱に、柱端部材をスライドさせて挿入し、下部ブラケットに引っ掛けてください。

②柱端部材をビスで固定してください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。

※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。



ME1738-517

5-5 デッキフェンス扉の取付け (※デッキフェンス扉納まりの場合)



デッキフェンス扉を設置する場合に作業を行ってください。



扉吊元柱の設置が完了しているか確認してください。

※扉吊元柱が設置完了していないと、扉を取付けることができません。



扉吊元柱の設置については、33 ページの「1-4. 扉吊元柱の設置」および 46 ページの「3-6. 扉吊元柱部の施工」を参照してください。

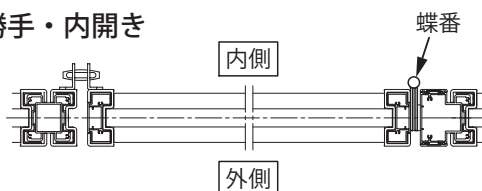
5-5-1 蝶番の取付け

- ① 扉の勝手・開きを確認してください。
- ② デッキフェンス扉には表裏がありません。蝶番の取付け位置・方向により、勝手・開きを変更してください。(通し笠木が上側になります。)



右勝手・内開きが標準仕様となります。

●右勝手・内開き



●右勝手・外開き



●左勝手・内開き



●左勝手・外開き



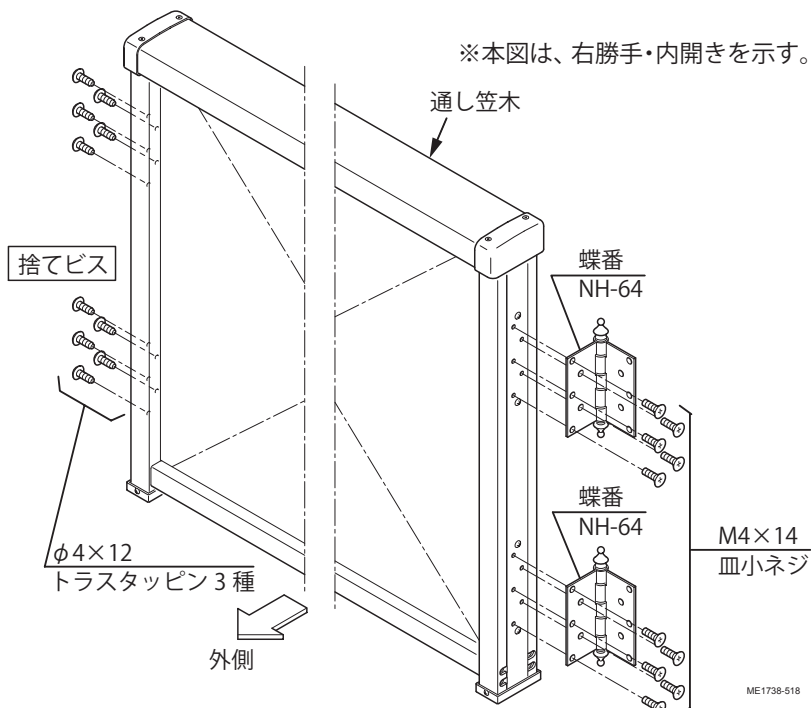
ME1738-542

- ③ 蝶番を扉に取付けてください。



勝手・開きを変更する場合は、蝶番の取付け位置または向きを変更してください。

- ④ 使用しない取付孔に、捨てビスを取付けてください。



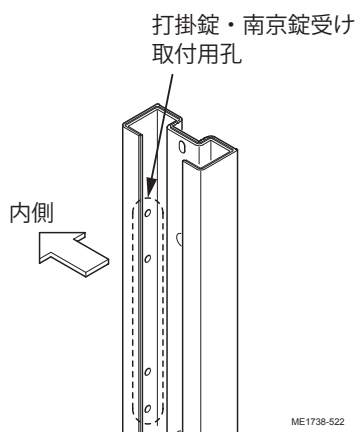
ME1738-518

5-5-2 戸先縦枠の取付け

- ①戸先側となる柱に、戸先縦枠をスライドさせて挿入し、下部ブラケットに引っ掛けてください。



取付用孔を内側に配置してください。

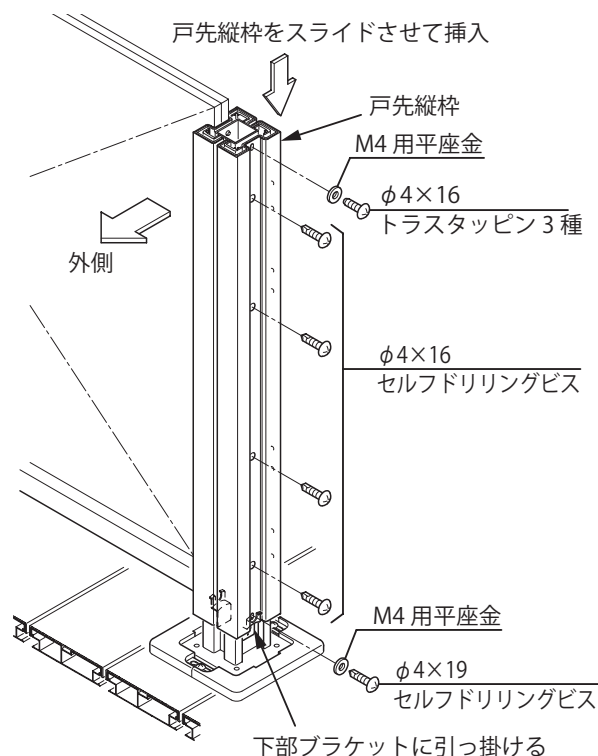


- ②戸先縦枠をビスで固定してください。

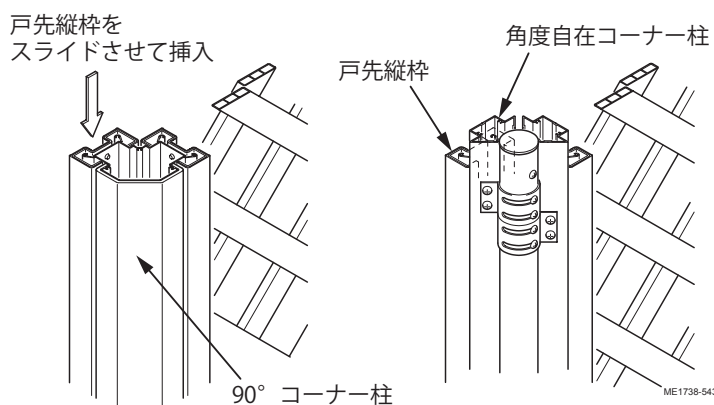


ビスを締付け過ぎないようにしてください。

※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。



●コーナー納まりの場合



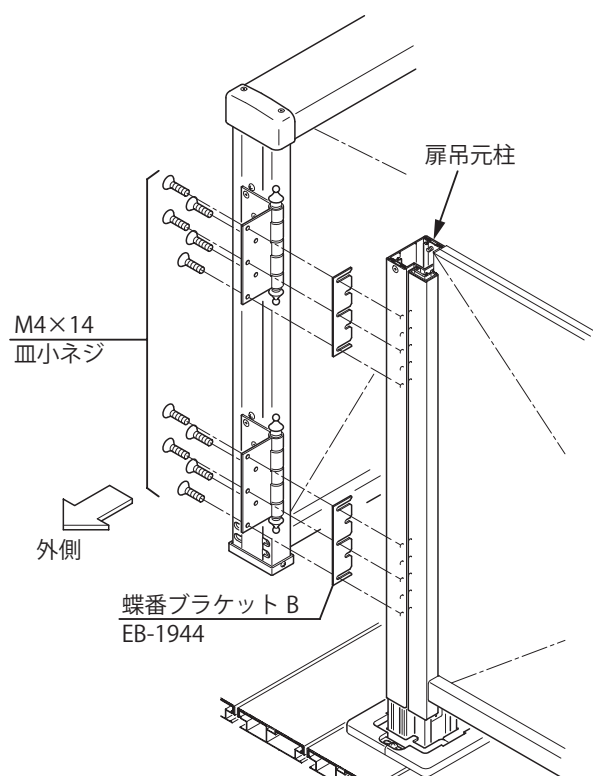
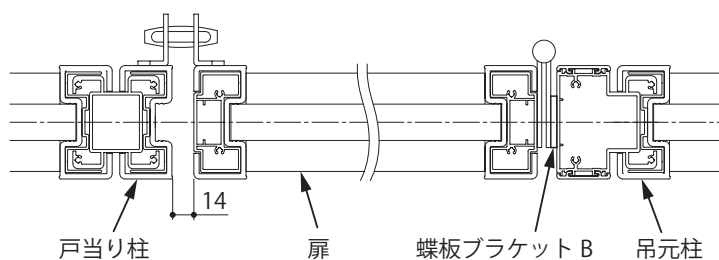
5-5-3 扉の吊込み

- ①扉の蝶番を扉吊元柱に取り付けてください。
- ②蝶番ブラケット B を挿入して、戸当り柱と扉の間隔を調整してください。



蝶番ブラケット B：厚み 2mm
扉と柱の間隔：14mm に調整

●扉と柱の間隔



5-5-4 錠の取付け



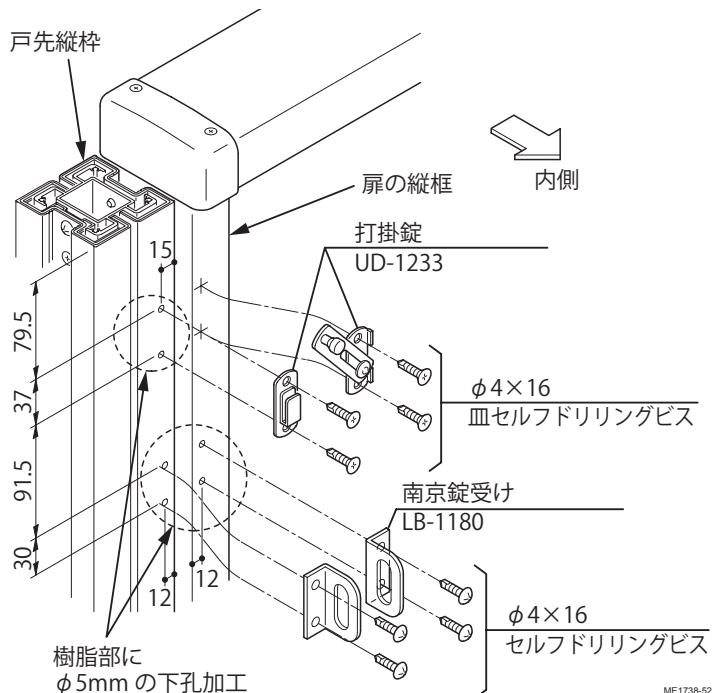
戸先縦枠および扉の縦枠のカバー内側の補強材に取付用下孔があります。

- ① 右図寸法の補強材下孔位置の樹脂部に $\phi 5\text{mm}$ の下孔をあけてください。
- ② 南京錠受けを扉と戸先縦枠の下孔に取付けてください。
- ③ 打掛錠の受け側を戸先縦枠の下孔に取付けてください。
- ④ 受け側の位置に合わせて、かけ側を扉の縦枠に取付けてください。



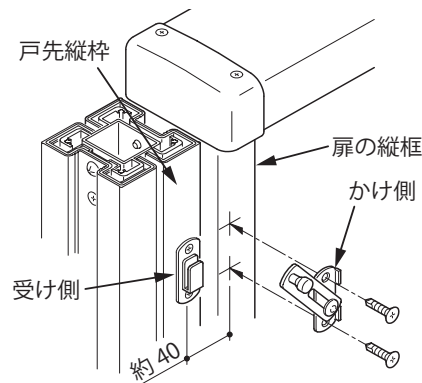
ビスを締付け過ぎないようにしてください。

※ 締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。



ME1738-523

● 打掛錠の取付け



ME1738-544

5-6 通し笠木の取付け

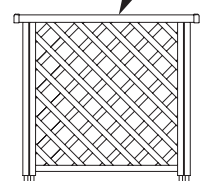
5-6-1 通し笠木の切詰め



- 右図の納まりとなる場合、切詰めの際は必要ありません。
- 次ページを参照し、現物合わせて通し笠木を切詰めてください。

● 910 ピッチ × 1

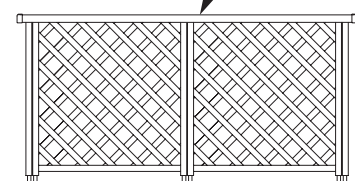
通し笠木 1 スパン用 (L=1073)



ME1738-525

● 910 ピッチ × 2

通し笠木 2 スパン用 (L=1983)



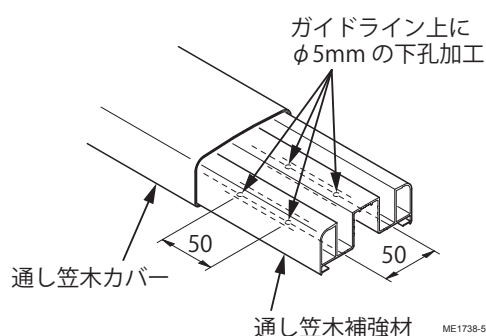
ME1738-537

- ① 通し笠木を必要な長さに切詰めてください。

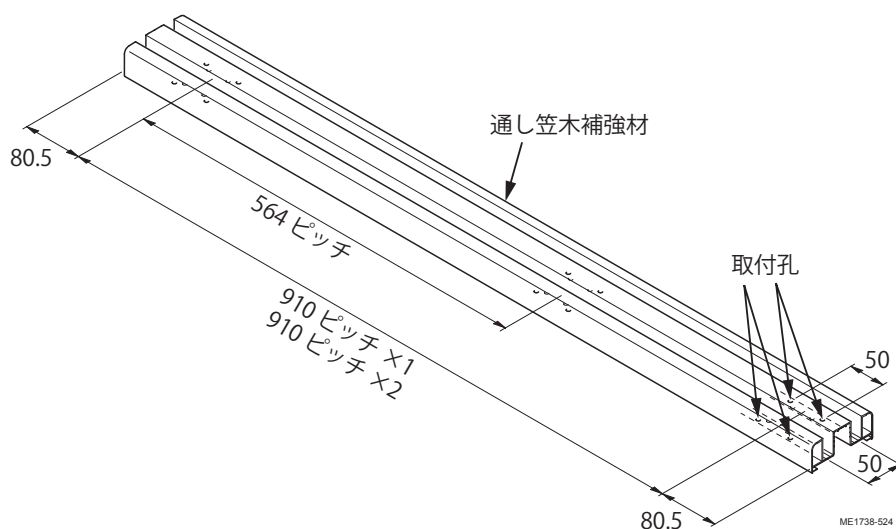


- 次ページを参照し、通し笠木を必要な長さに切詰めてください。
- 切詰め後、取付孔が必要な場合は、下図を参照し、下孔をあけてください。

● 通し笠木参考図



ME1738-539



ME1738-524

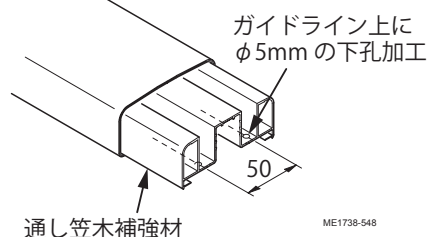
切詰め寸法図

●切詰め前に、柱の上・下で柱間隔を正確に合わせてください。

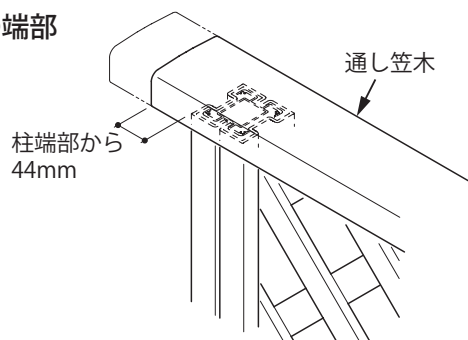
●現物合わせで切詰め寸法を決めてください。

※通し笠木が長いとキャップのリブにあたり、キャップを取付けることができません。(端部の場合は除く)

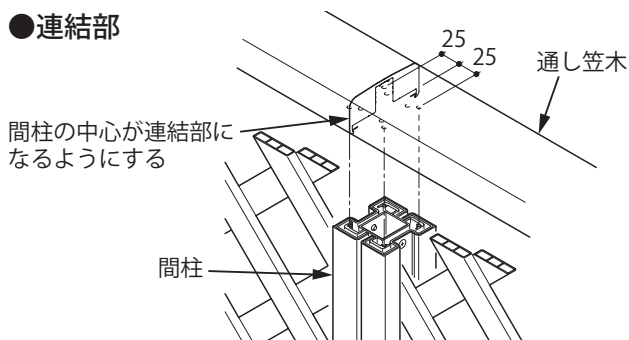
ガイドライン上にφ5mmの下孔加工を行ってください。



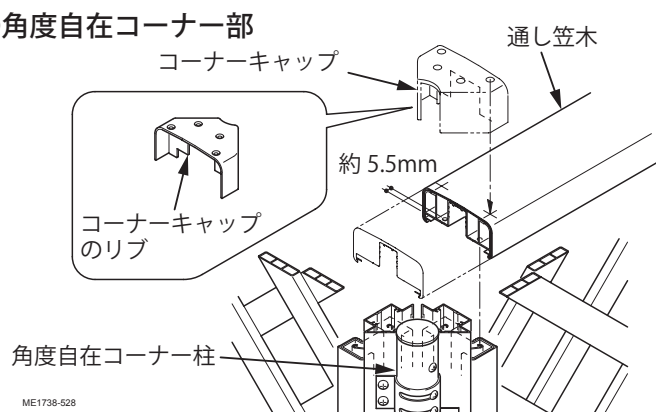
●端部



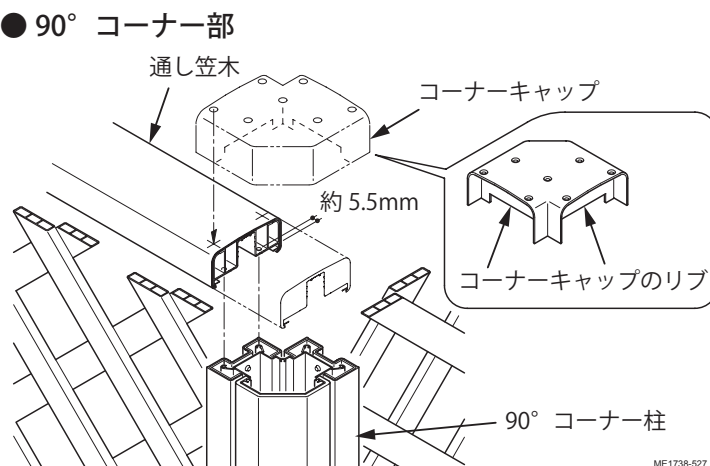
●連結部



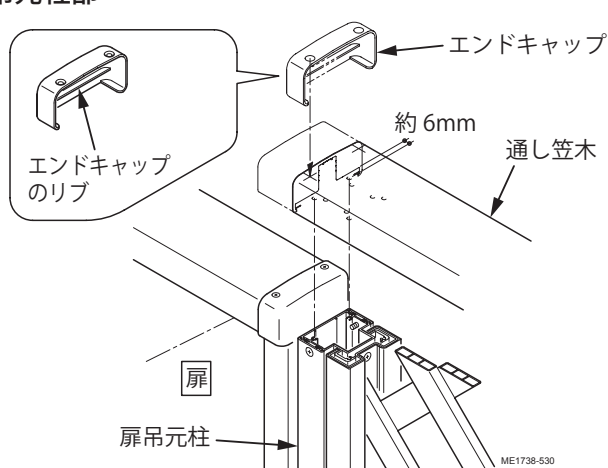
●角度自在コーナー部



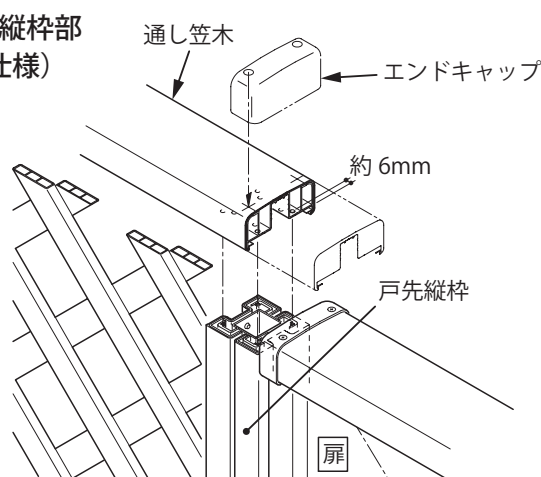
●90° コーナー部



●扉吊元柱部

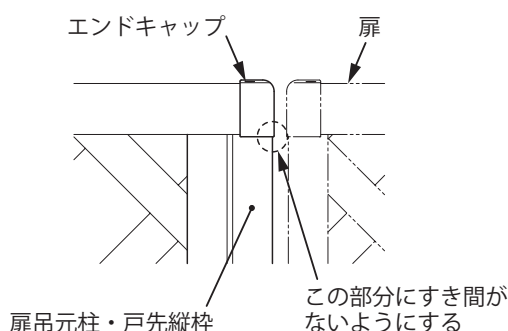


●戸先縦枠部 (扉仕様)



扉吊元柱および戸先縦枠の右図の位置にすき間がないようにしてください。

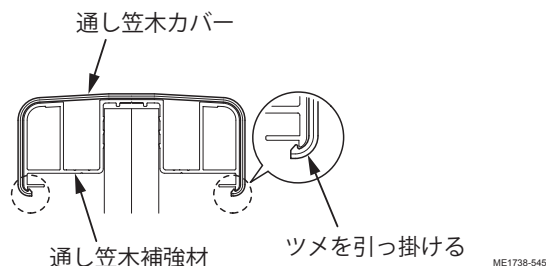
※すき間があると、チリ寸法が小さくなり扉の開閉に不具合が生じる場合があります。



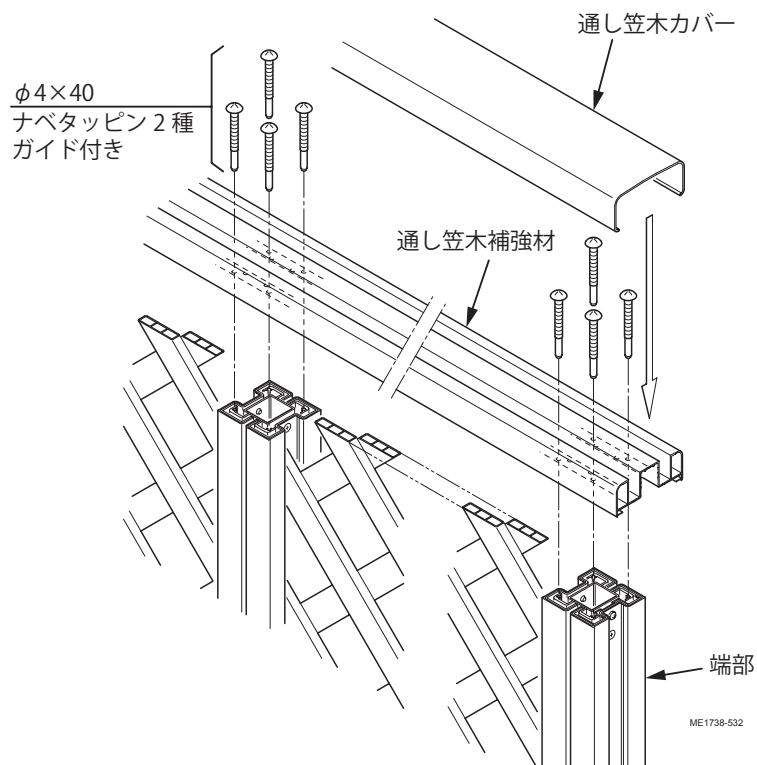
5-6-2 通し笠木の取付け

- ①通し笠木カバーを外してください。
- ②通し笠木補強材を柱に取付けてください。
- ③通し笠木カバーを上からはめ込んでください。

●カバー取付図



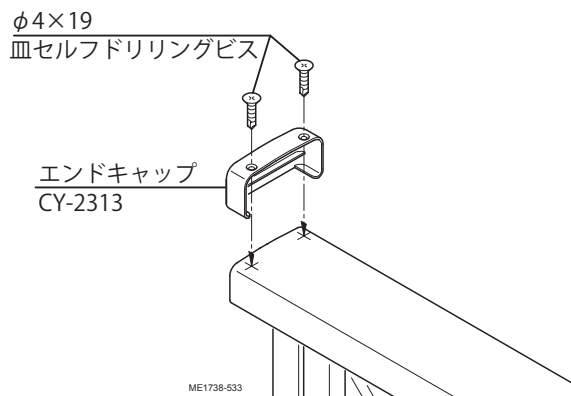
コーナー柱・扉吊元柱・戸先縦枠部も同様の手順でビス止めしてください。
※取付位置は前ページの「切詰め寸法図」を参照してください。



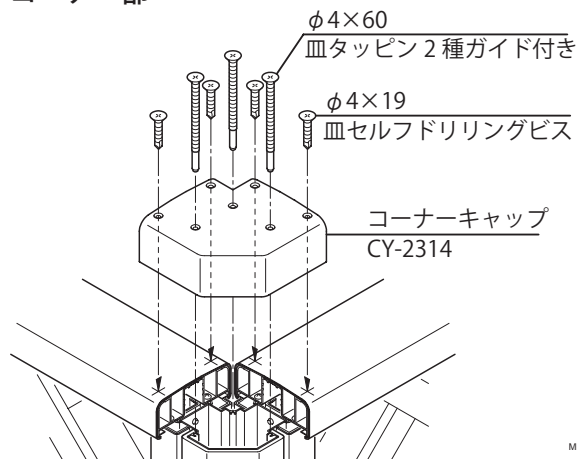
5-7 笠木キャップの取付け

- ①笠木の端部・コーナー部・連結部に笠木キャップを取付けてください。

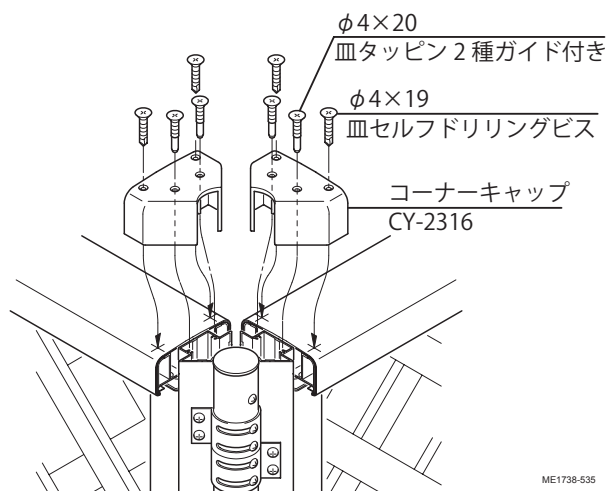
●端部



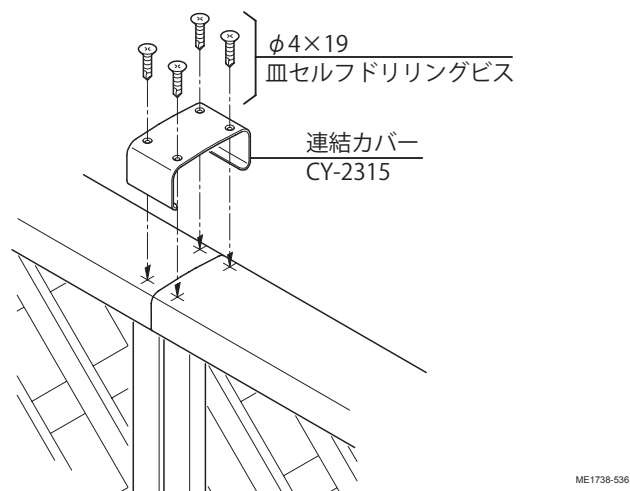
●90° コーナー部



●角度自在コーナー部



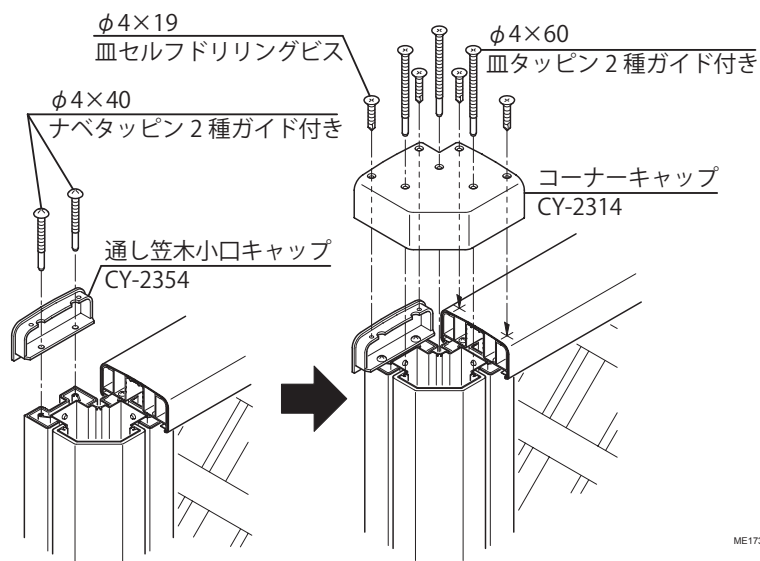
●連結部



5-8 通し笠木小口キャップの取付け (※扉コーナー納まりの場合)

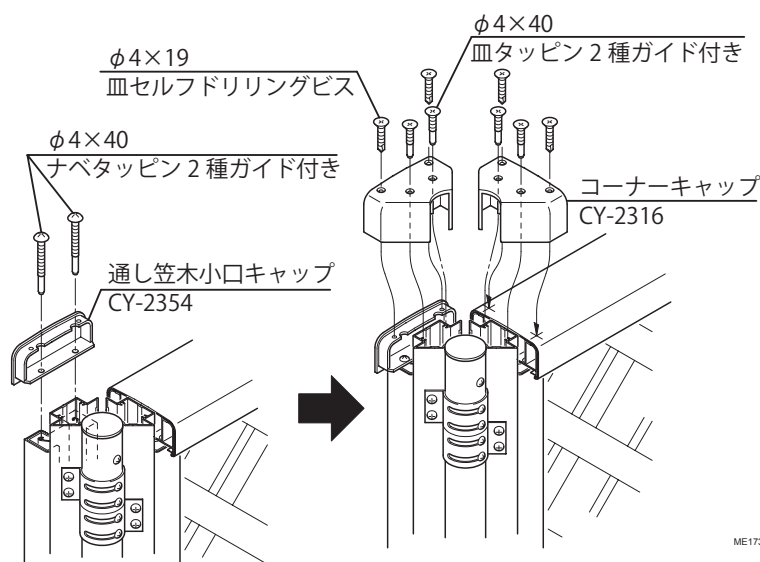
- ①コーナー柱の戸先縦枠に通し笠木小口キャップを取付けてください。
- ②コーナーキャップを取付けてください。

● 90° コーナー部



ME1738-546

● 角度自在コーナー部



ME1738-547

6

デッキフェンス 間柱タイプの取付け

- 間柱タイプの場合に参照してください。
- 通し笠木タイプの場合は、「5章:通し笠木タイプの取付け」を参照してください。

6-1 ベースプレート柱の設置



ベースプレート式の柱を設置する場合に参照してください。

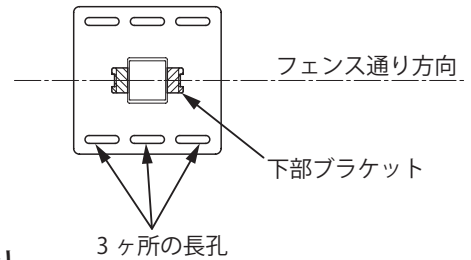


- ベースプレートをデッキ端部より73mm 内側に取付けてください。
- ベースプレートを、大引、床下補強材または床下補強アングルの上に取付けてください。



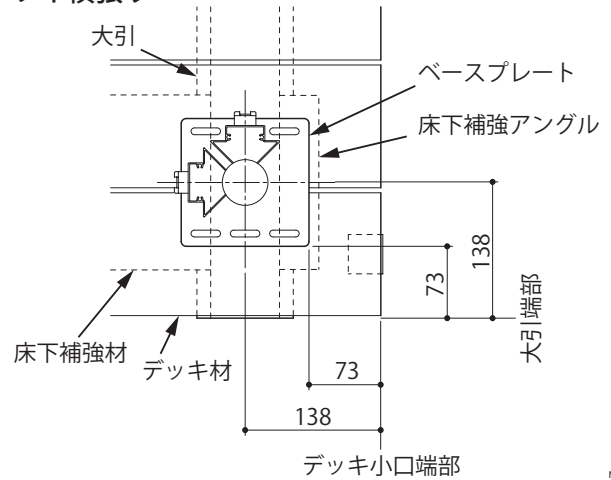
柱の下部ブラケットとベースプレートの3ヶ所の長孔をフェンス通り方向になるよう取付けてください。

●取付方向



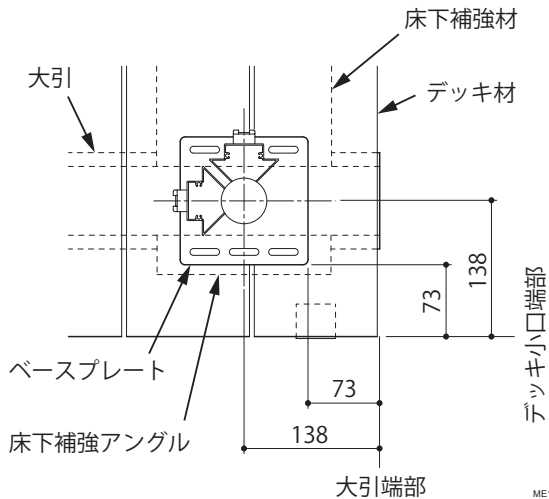
ME1738-601

●デッキ横張り



ME1738-603

●デッキ縦張り



ME1738-602

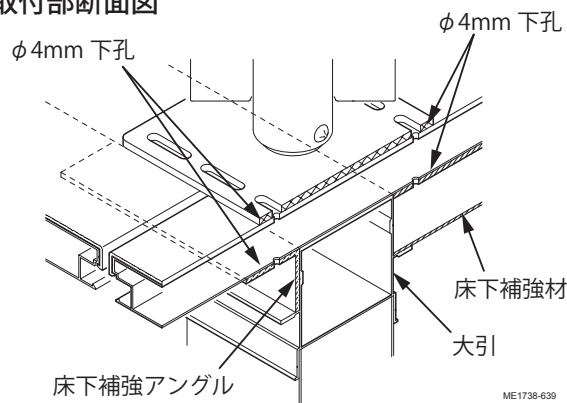
①角度自在コーナー柱と間柱では設置寸法が異なります。11ページの「納まり図」および「4-2. 柱芯々の設置寸法」を参照して、柱の位置・向きを確認し、ベースプレートの取付方向を確認してください。

②デッキ材にベースプレートをあてがい、 $\phi 4\text{mm}$ の下孔（貫通孔）を4ヶ所あけてください。

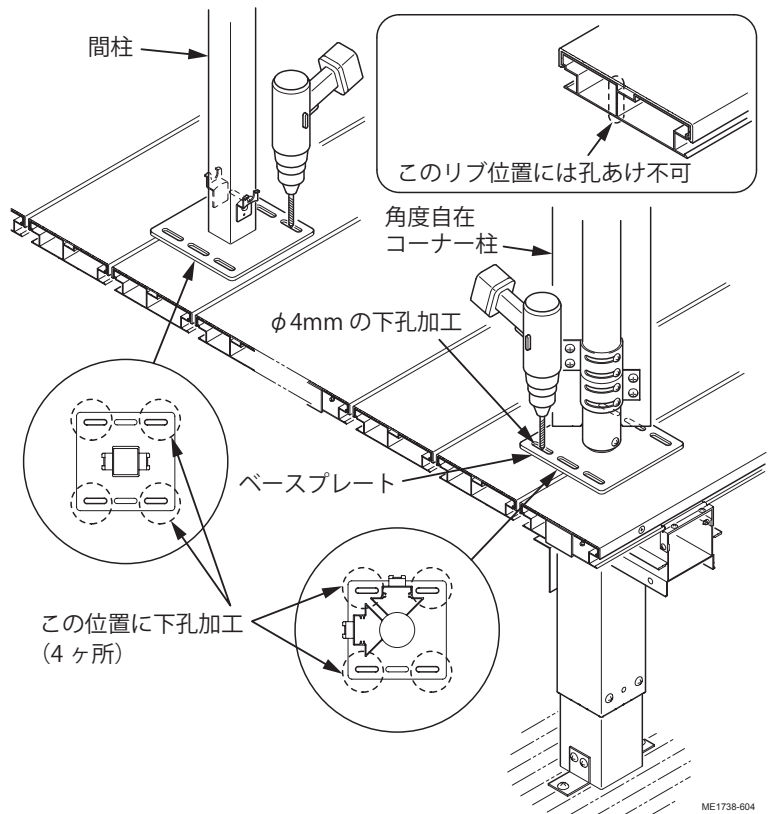


デッキ材のリップを避けて下孔をあけてください。

●取付部断面図



ME1738-639

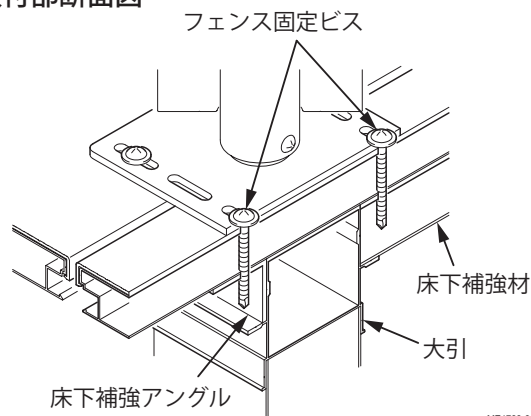


ME1738-604

デッキフェンス間柱タイプの取付け

③柱をデッキ材に取付けてください。

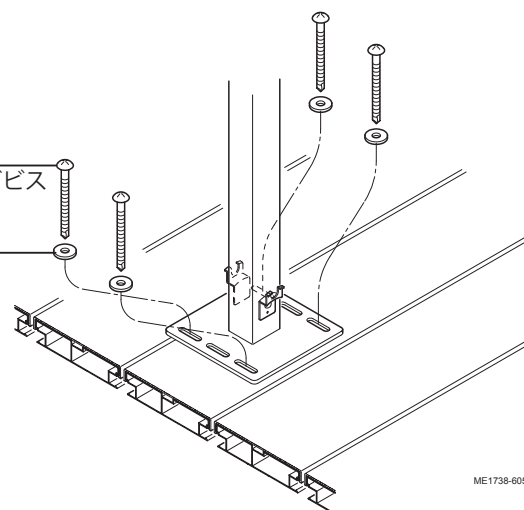
●取付部断面図



ME1738-640

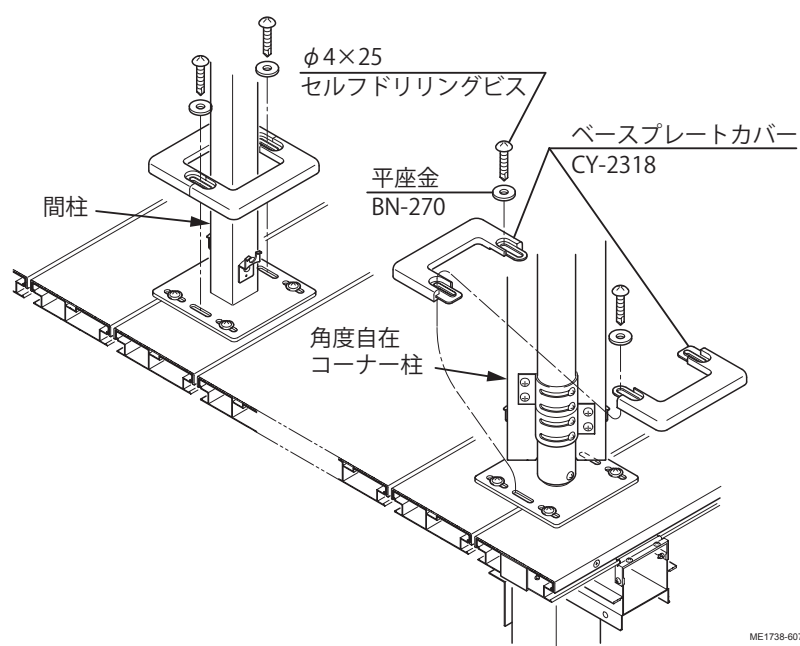
φ5×60
セルフドリリングビス

平座金
BN-270



ME1738-605

④ベースプレートカバーを取付けてください。



ME1738-607

6-2 埋込柱の設置



埋込柱を設置する場合に参照してください。

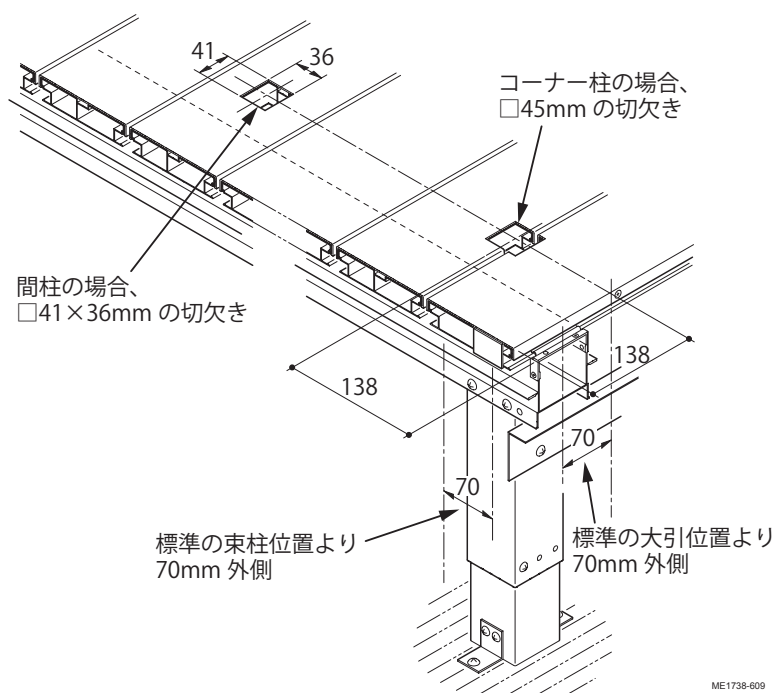


埋込柱と大引が干渉する場合は、束柱と大引が標準位置より 70mm 外側に設置されているか確認してください。
※ 70mm 外側に設置されていないと、埋込柱を設置することができません。

6-2-1 デッキ材の切欠き加工

① 13 ページの「納まり図」を参照して、埋込柱の位置・向きを確認してください。

② 図の寸法でデッキ材を切欠いてください。



ME1738-609

6-2-2 間柱の設置

①間柱の下側（挿入材側）を切詰めてください。



間柱は、デッキ長束柱仕様にも対応できる長さになっています。



埋込み寸法が 250mm 以上となるよう、間柱を切詰めてください。

②切断した間柱に、挿入材を付替えてください。

③間柱を埋込んでください。

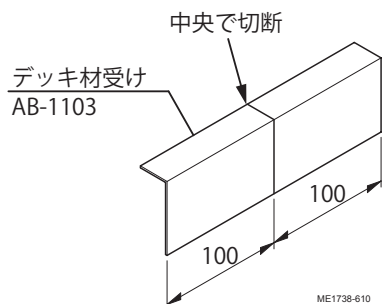


埋込み寸法：250mm 以上



間柱をコンクリートで確実に固定してください。

④デッキ材受けを半分の長さに切断してください。



⑤切断済みのデッキ材受けを間柱の両側に取付けてください。

⑥ビスでデッキ材をデッキ材受けに取り付けてください。

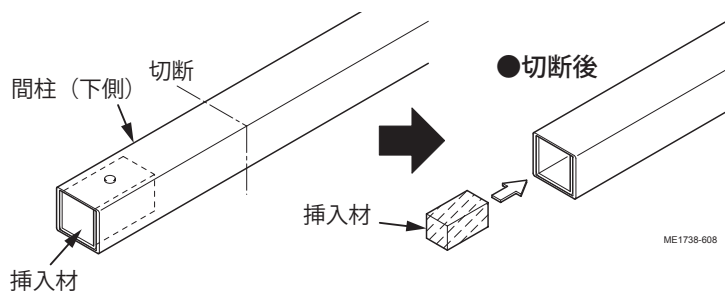


デッキ材のビス止めについては、「3-5. デッキ材のビス止め」を参照してください。

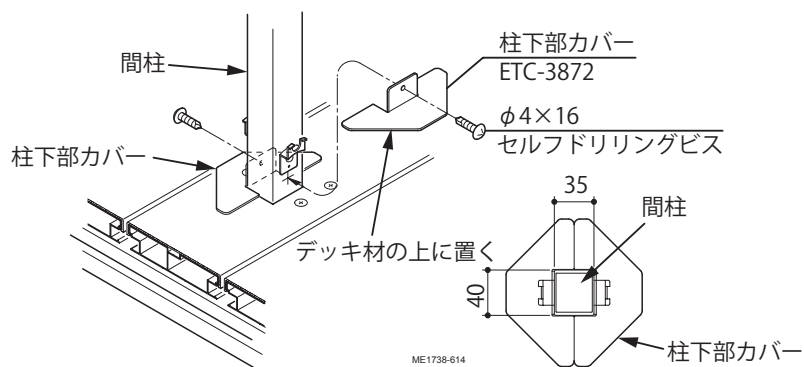
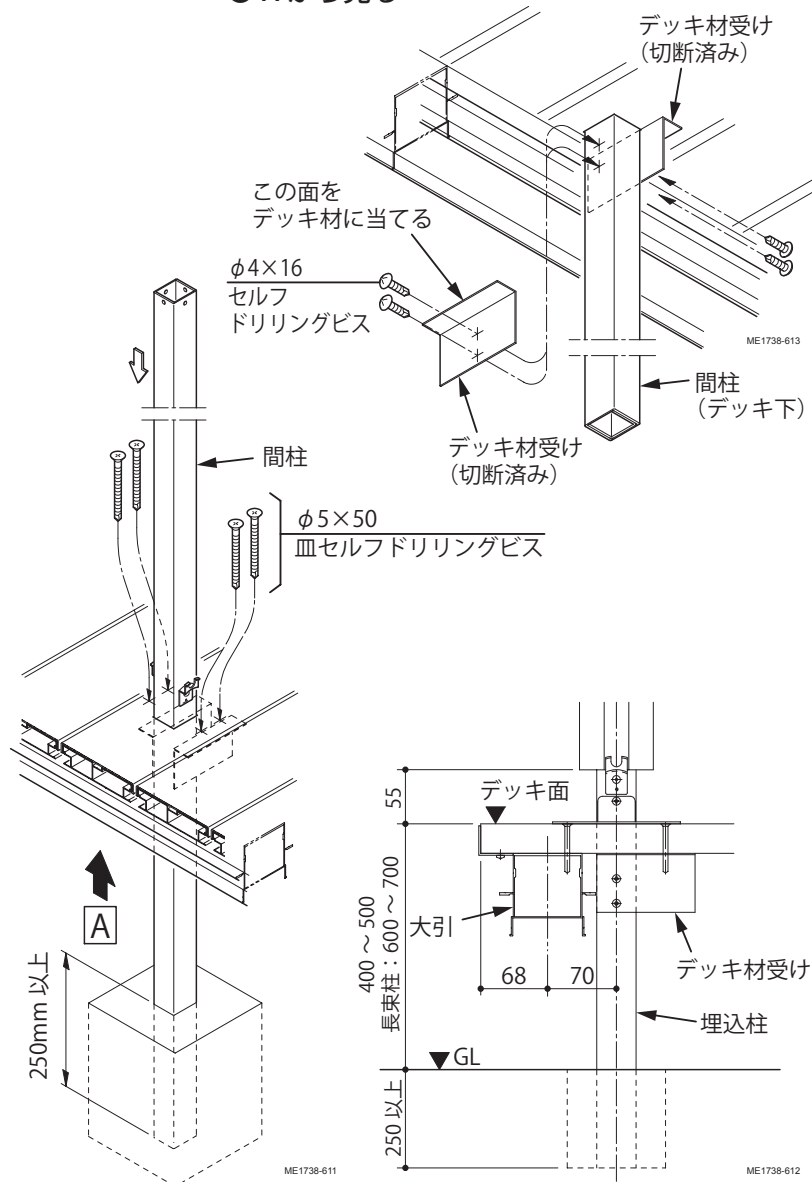


皿ビスの頭が必ずデッキ面より下になるようにしてください。

⑦柱下部カバーをデッキ材の上に置き、間柱に取り付けてください。



● A から見る



6-2-3 角度自在コーナー柱の設置

①角度自在コーナー柱（下側）を切詰めてください。



- 角度自在コーナー柱は、デッキ長束柱仕様にも対応できる長さになっています。
- 挿入材はありません。



埋込み寸法が 250mm 以上となるよう、角度自在コーナー柱を切詰めてください。

②角度自在コーナー柱を埋込んでください。

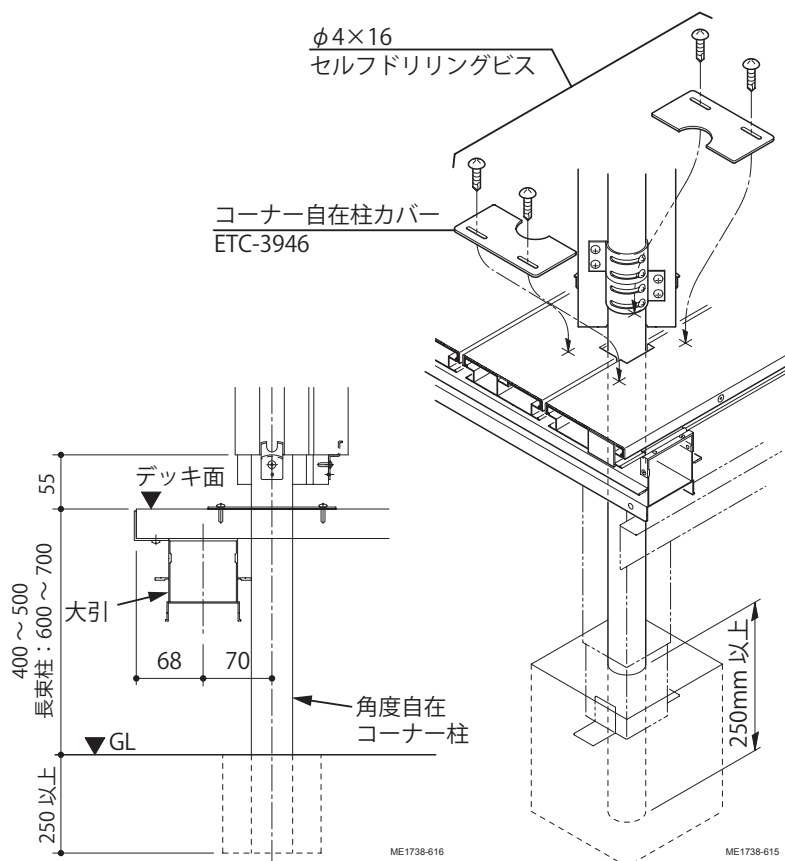


埋込み寸法：250mm 以上



角度自在コーナー柱をコンクリートで確実に固定してください。

③コーナー自在柱カバーをデッキ材に取付けてください。



6-3 パネルの取付け



施工前に、ベースプレートカバーまたは埋込柱用カバーの取付けが完了しているか確認してください。

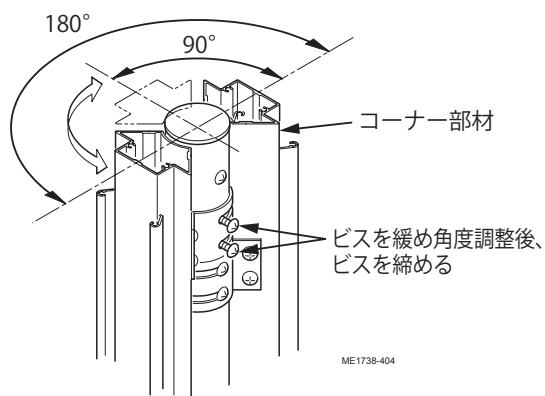
※角度自在コーナー柱の場合は、パネル取付後にベースプレートカバーまたは埋込柱用カバーを取付けることができません。

①角度自在コーナー柱の場合、角度を調整してください。

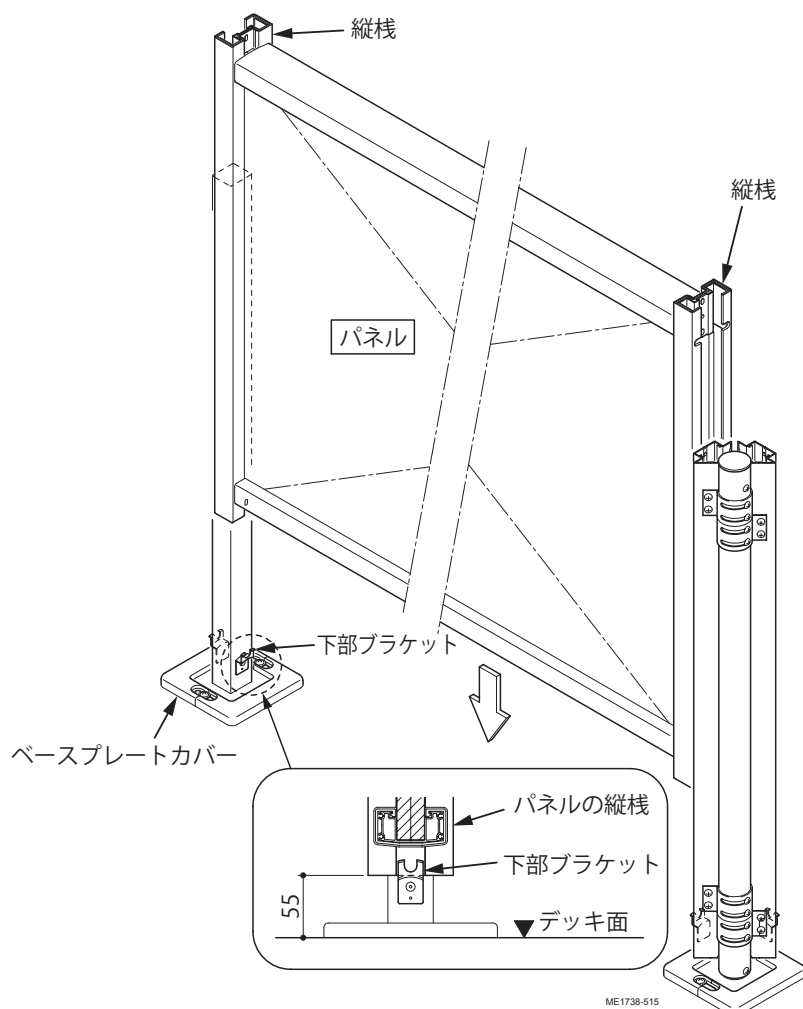


- 出荷時：90°
- 対応角度：90° ~ 180°

●調整イメージ図



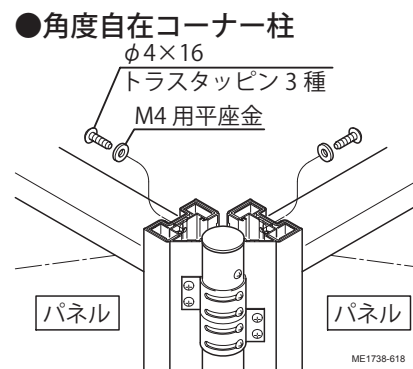
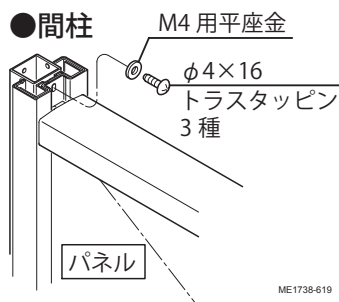
②パネルの縦桟を柱にスライドさせて挿入し、下部ブラケットに引っ掛けてください。



③パネル（上部）をビスで固定してください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。



6-4 柱端部材の取付け



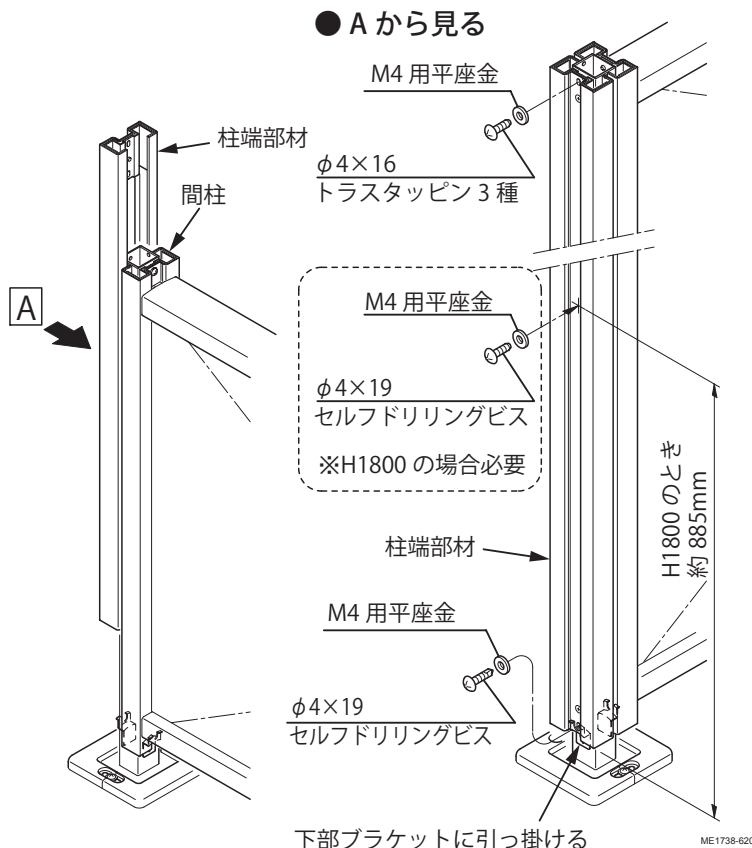
段差納まりの場合は、作業を行わないでください。
※後工程「6-7. 段差納まりの施工」で柱端部材を取付けます。

①柱端部材を端部となる間柱の下部ブラケットに引っ掛けてください。

②柱端部材をビスで固定してください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。



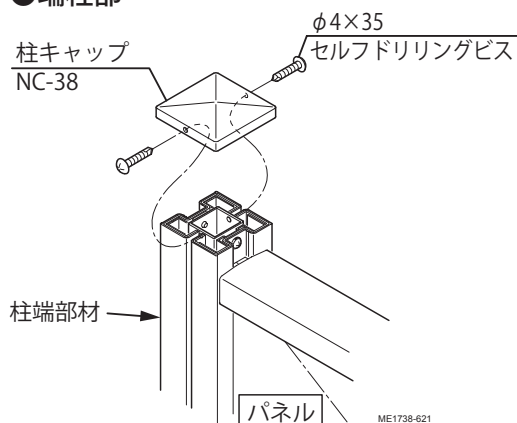
6-5 柱キャップの取付け



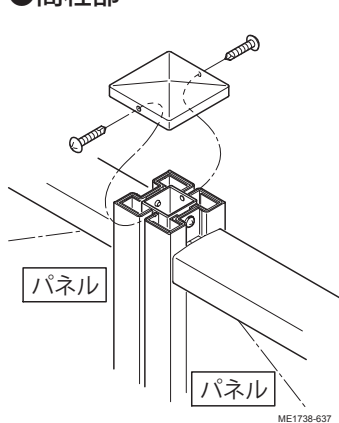
段差納まりになる柱には、柱キャップを取付けしないでください。
※後工程「6-7. 段差納まりの施工」で柱キャップを取付けます。

①柱キャップを柱に取付けてください。

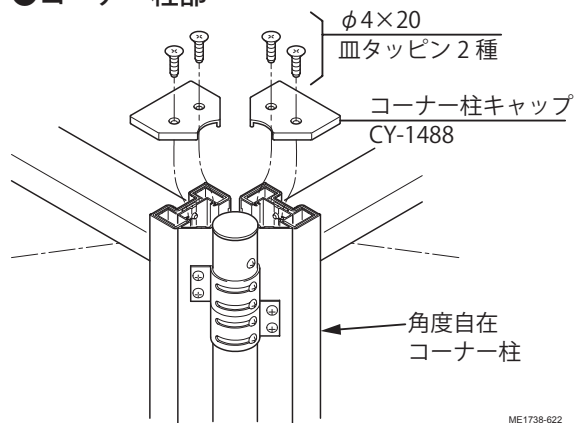
●端柱部



●間柱部



●コーナー柱部



6-6 控え柱の設置



H1800 ベースプレート式にのみ控え柱が必要になります。
※埋込柱の場合は不要です。

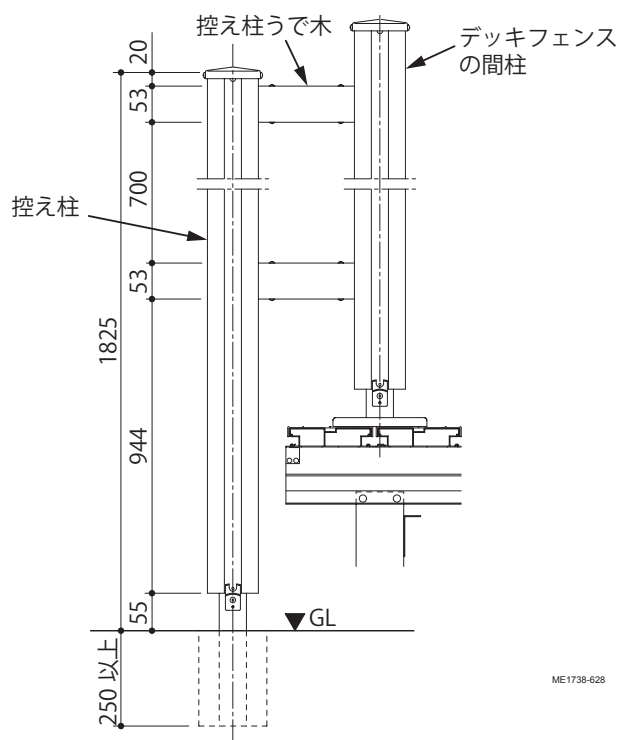


- 控え柱は、間柱 2 スパン毎に設置してください。
- コーナー部に控え柱は不要です。



控え柱位置のデッキ材には、鼻隠し取付金具を取付けないでください。
※鼻隠し取付ビスを打てなくなります。

●控え柱取付図



ME1738-628

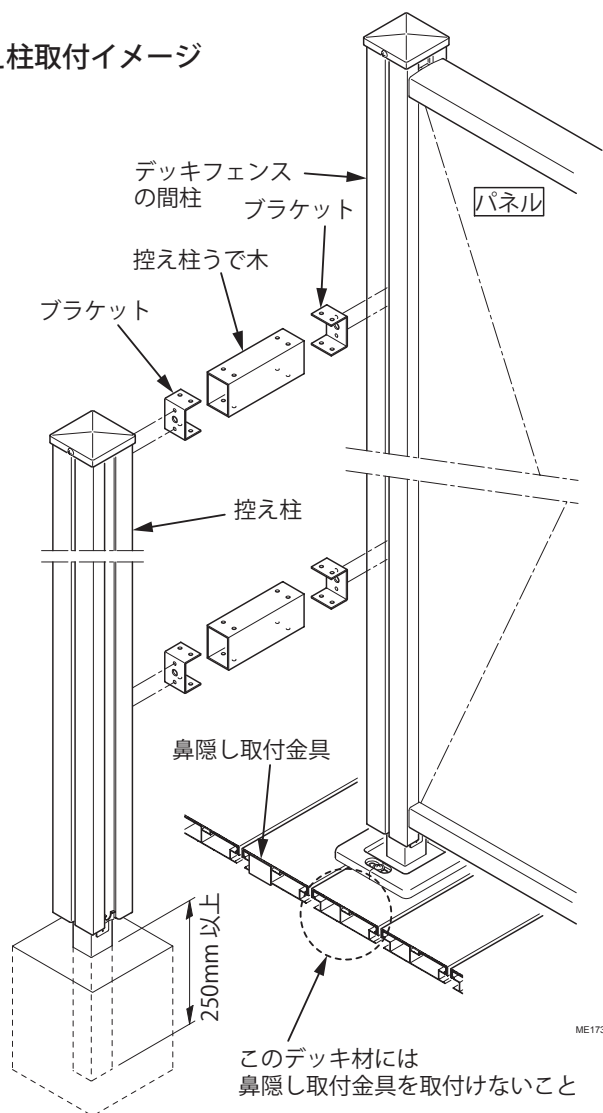
6-6-1 控え柱の組立て



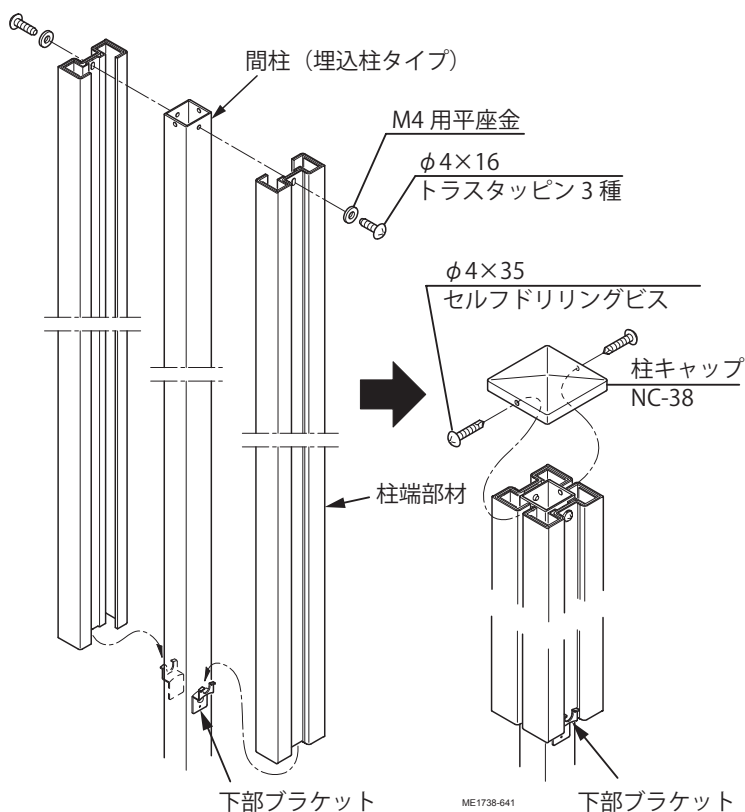
間柱（埋込柱）に柱端部材を取付けて、控え柱として使用します。

- ①柱端部材を間柱の下部ブラケットに引っ掛けてください。
- ②柱端部材をビスで固定してください。
- ③柱キャップを間柱に取付けてください。

●控え柱取付イメージ



ME1738-627



ME1738-641

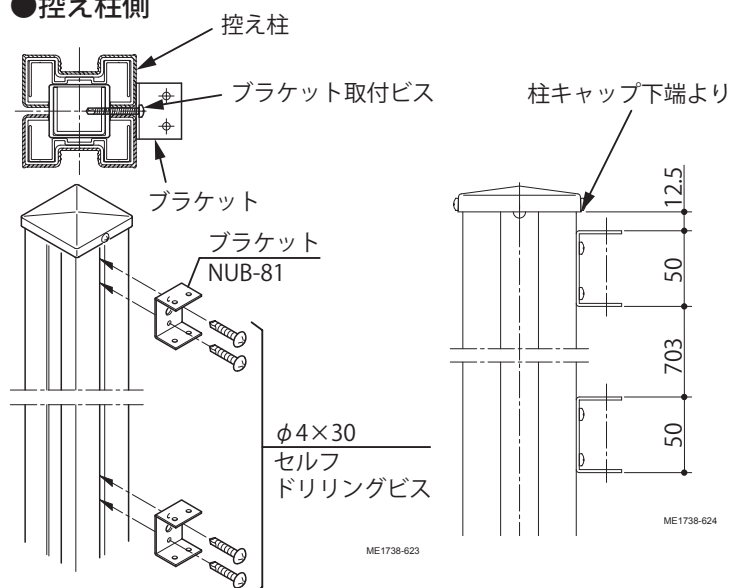
6-6-2 控え柱の設置

- ① 12 ページの「納まり図」を参照して、控え柱設置位置を確認してください。
- ② 控え柱とパネル本体の間柱にブラケットを取付けてください。

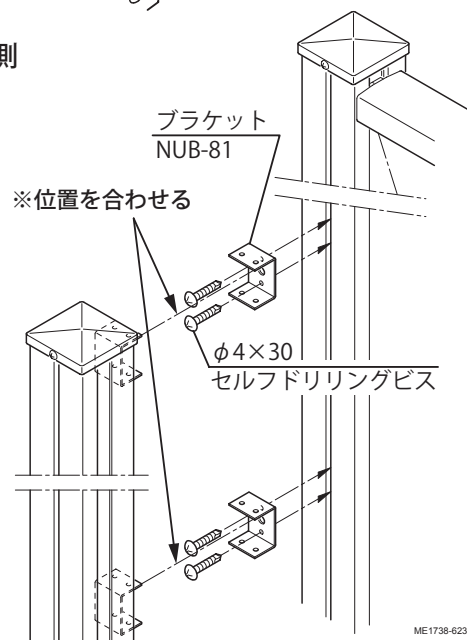


間柱に確実にビスを打込んでください。

●控え柱側



●間柱側



- ③ 控え柱と間柱のブラケットの位置レベルを合わせて、埋込柱を GL 面に仮置きしてください。

- ④ 控え柱うで木を取付けてください。

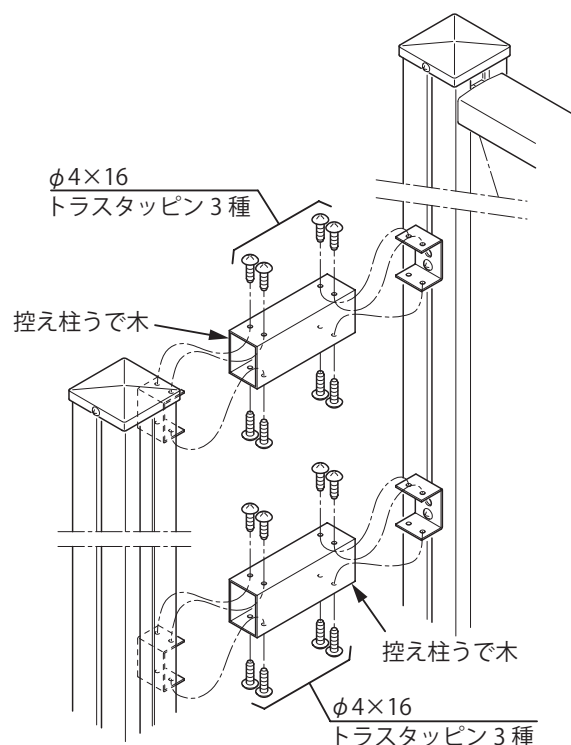
- ⑤ 控え柱を埋込んでください。



控え柱埋込み寸法：250mm 以上



控え柱をコンクリートで確実に固定してください。



6-7 段差納まりの施工



段差納まりの場合に作業を行ってください。

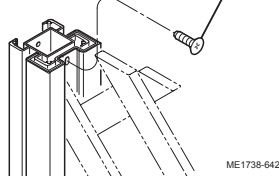


段差納まりとなる位置の、柱の設置が完了していることを確認してください。
※柱の設置が完了していないと、段差納まりの施工ができません。

6-7-1 パネル・柱端部材の取付け

- ① 16 ページの「納まり図」を参照して、設置位置・寸法を確認してください。
- ② 通し笠木用柱端部材を端部となる間柱に取付けてください。（「6-4. 柱端部材の取付け」参照）
- ③ パネルの縦線を柱にスライドさせて挿入し、下部ブラケットに引っ掛けてください。
- ④ パネル材をいったん取外してください。（59 ページの「5-3. パネルの取付け」参照）
- ⑤ パネル（上部）をビスで固定し、再度パネル材を挿入してください。てください。

φ4×16
皿トラスタッピン 3 種



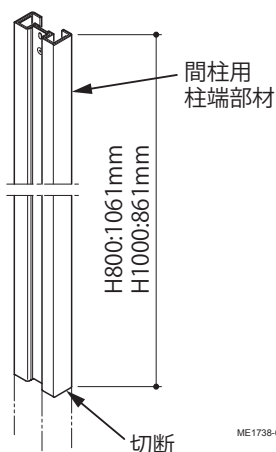
ME1738-642



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、柱（樹脂材）が破損する原因になります。

- ⑥ 間柱用柱端部材を指定の寸法に切断してください。

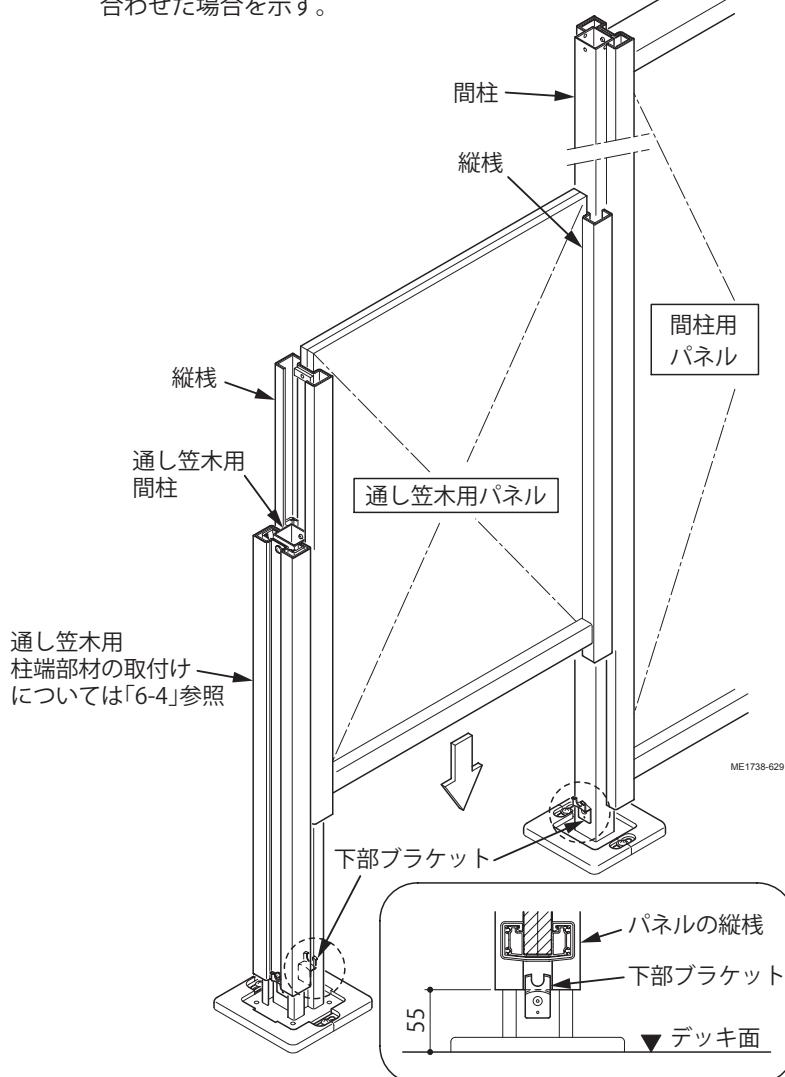
●切断寸法



ME1738-630

- ⑦ 切断済みの間柱用柱端部材を、間柱にビスで固定してください。
- ⑧ 柱キャップを間柱に取付けてください。

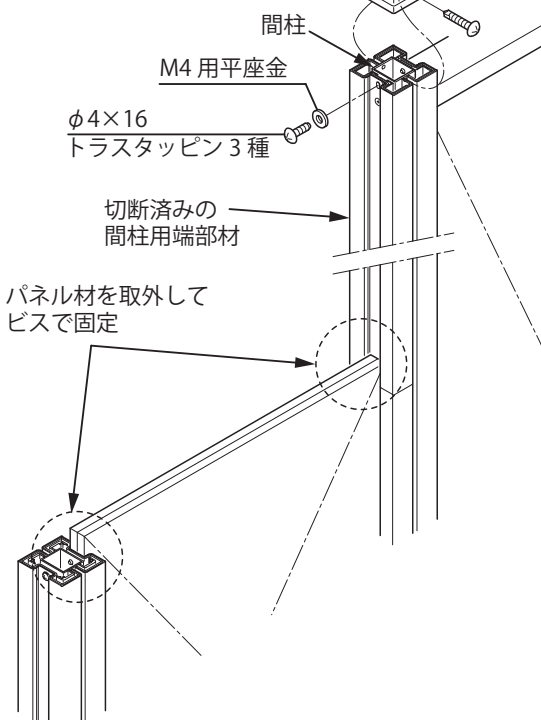
※本図は、通し笠木タイプ（H1000）と間柱タイプ（H1800）を組合わせた場合を示す。



ME1738-629

φ4×35
セルフドリリングビス

柱キャップ
NC-38



ME1738-631

6-7-2 通し笠木の切詰め

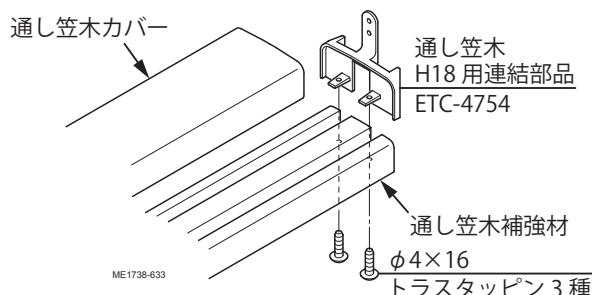


- 切詰め前に、柱の上・下で柱間隔を正確に合わせてください。
- 現物合わせで切詰め寸法を決めてください。

- ①必要に応じて、通し笠木を切詰めてください。
- ②ガイドライン上にφ5mmの下孔を2ヶ所あけてください。

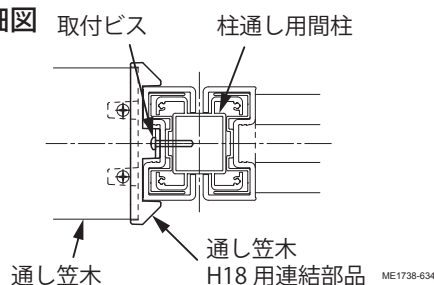
6-7-3 通し笠木の取付け

- ①通し笠木カバーを外してください。
- ②通し笠木 H18 用連結部品を通し笠木補強材に取り付けてください。



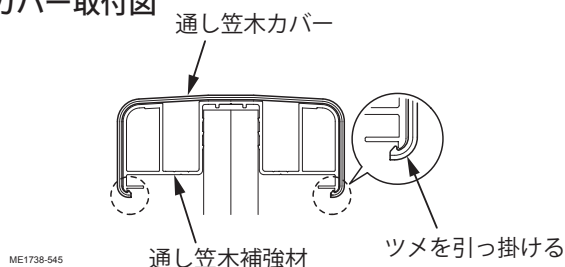
- ③通し笠木補強材と通し笠木 H18 用連結部品を柱に取り付けてください。

●連結部詳細図



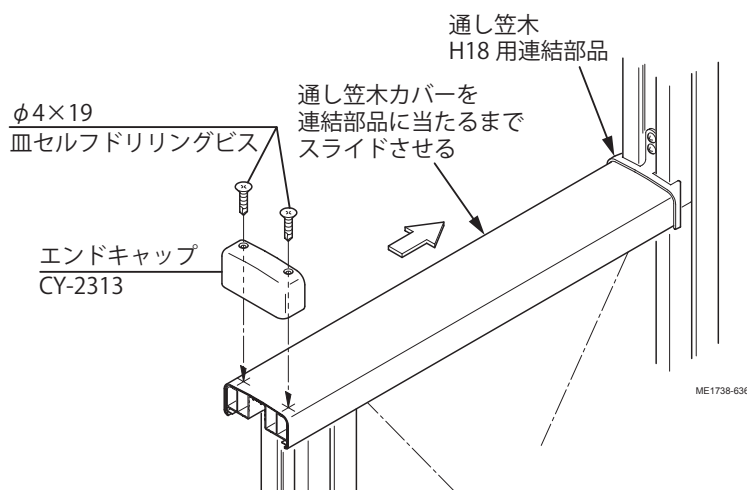
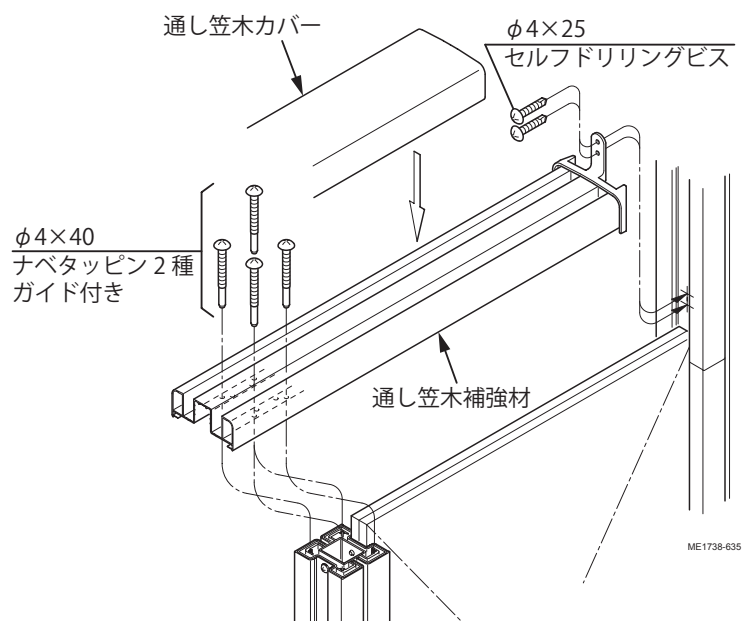
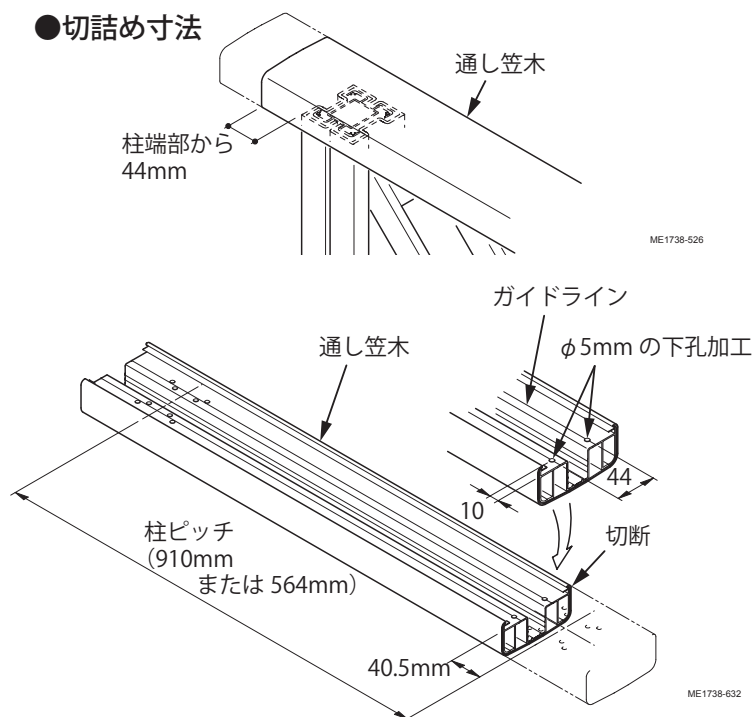
- ④通し笠木カバーを上からはめ込み、通し笠木 H18 用連結部品にあたるまでスライドさせてください。

●カバー取付図



- ⑤エンドキャップを通し笠木端部に取り付けてください。

●切詰め寸法



7

鼻隠しの取付け

●「鼻隠し多段納まり」の場合は、79 ページの「7-4. 鼻隠し多段納まりの施工」を合わせて参照してください。

7-1 鼻隠しの切詰め

- ①必要に応じて、鼻隠しを切詰めてください。
- ②ガイドライン上に、 $\phi 5\text{mm}$ の下孔加工および皿加工を行ってください。



7-2 鼻隠しの取付け

- ①鼻隠しをデッキ材に取付けてください。



- デッキ材小口面は、鼻隠し取付金具にビス止めしてください。
- デッキ材側面は、直接デッキ材にビス止めしてください。

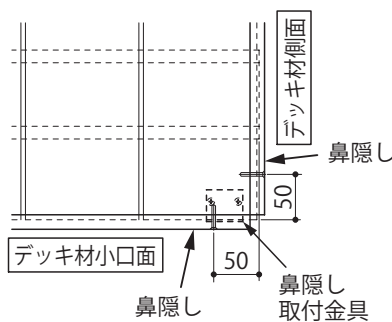


鼻隠しの連結部は、5 mm のすき間をあけてください。

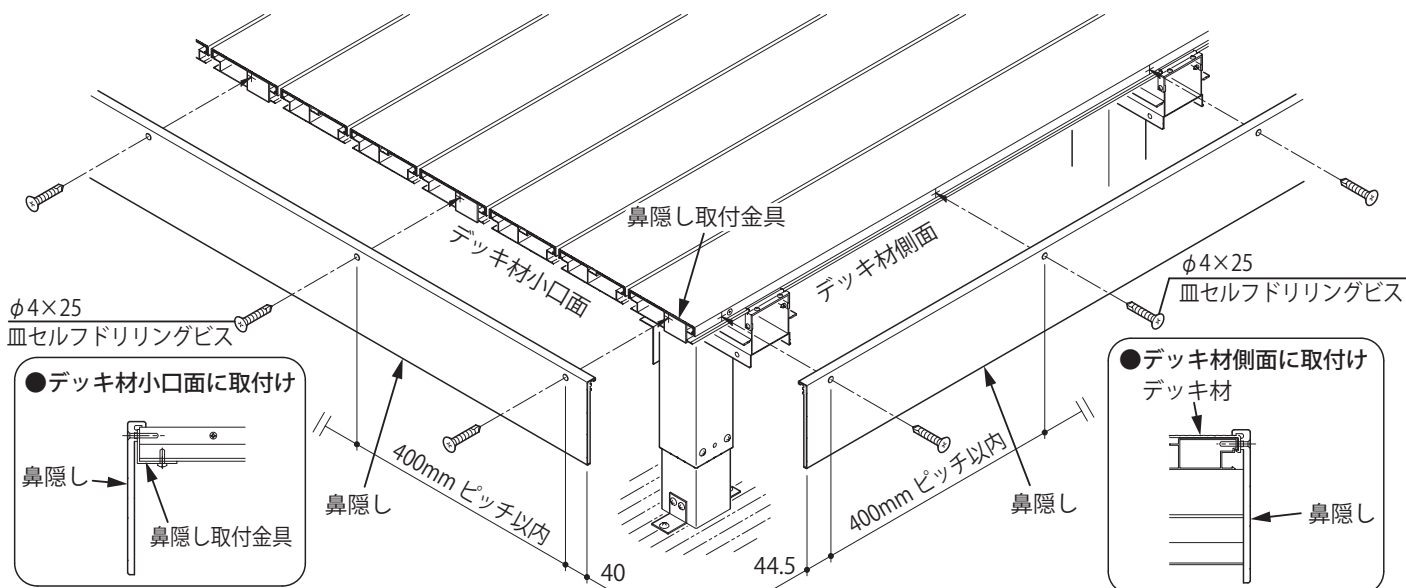
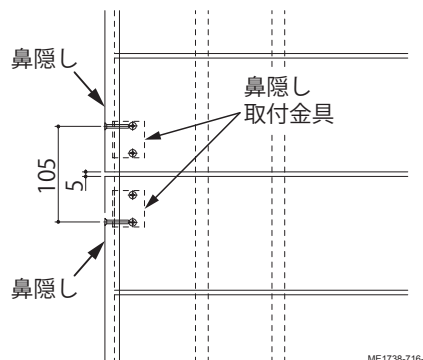


ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。

●コーナー部詳細図

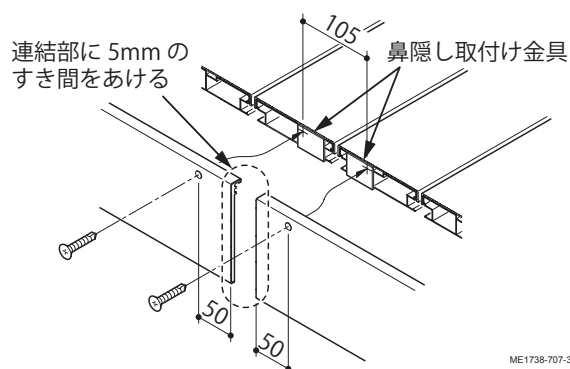


●連結部詳細図



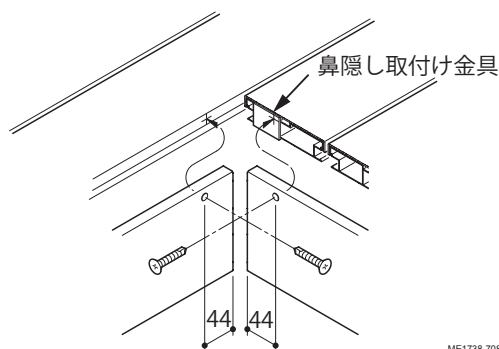
●連結部（デッキ材小口面の場合）

※鼻隠し取付金具の位置を確認してください。



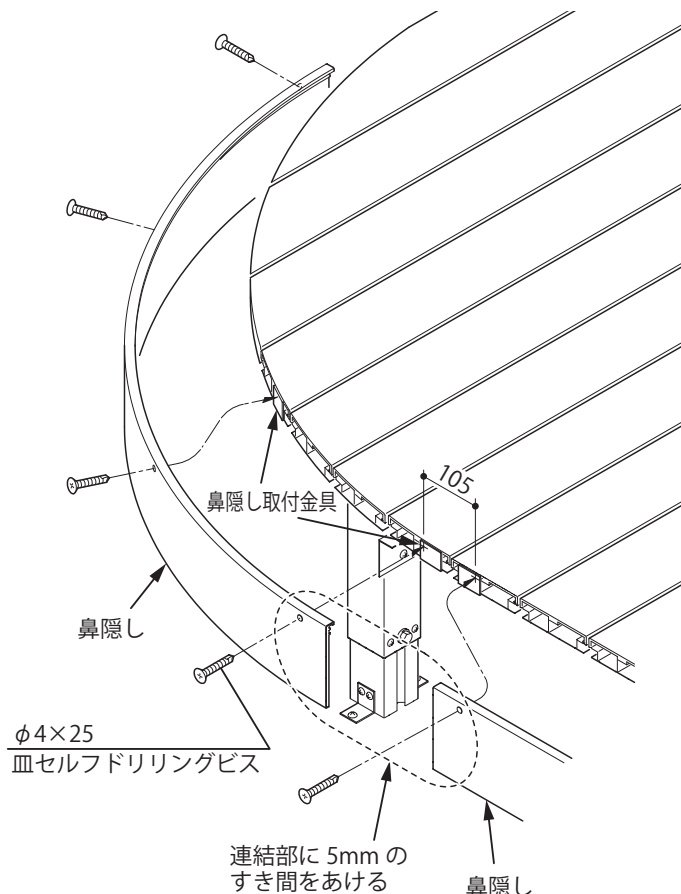
●入隅部

※鼻隠し取付金具の位置を確認してください。



●デッキ R 鼻隠し部

※鼻隠し取付金具の位置を確認してください。



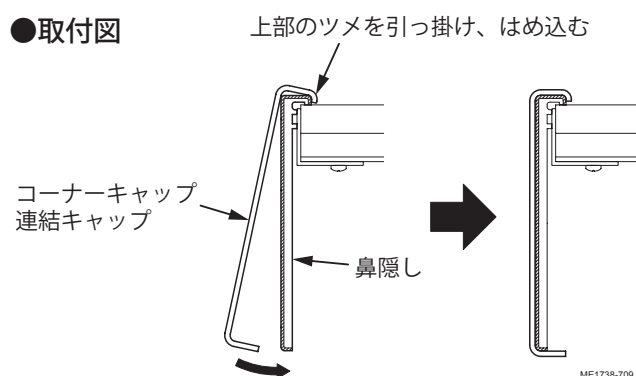
ME1738-715-3

7-3 鼻隠しキャップの取付け

90° コーナーキャップ・連結キャップの場合

①キャップ上部のツメを鼻隠しに引っ掛け、はめ込んでください。

●取付図



ME1738-709

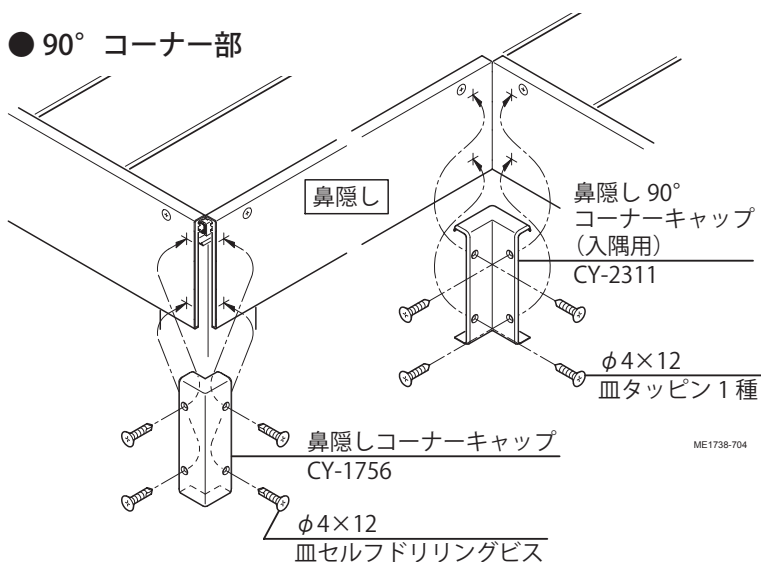
②鼻隠しにビスで固定してください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。

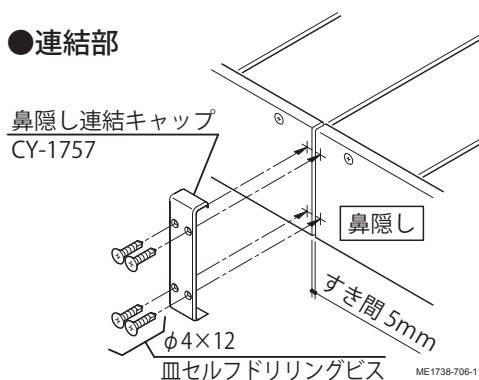
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。

●90° コーナー部



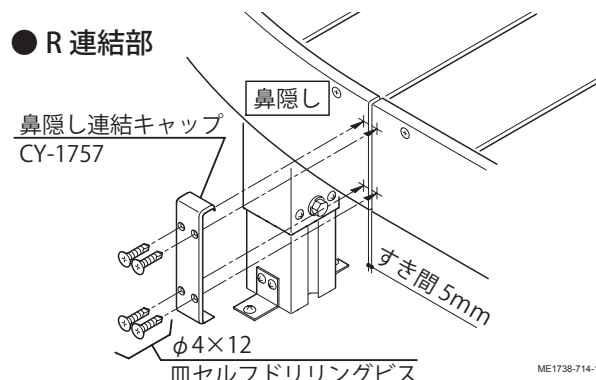
ME1738-704

●連結部



ME1738-706-1

●R 連結部



ME1738-714-1

鼻隠しの取付け

自在コーナーキャップの場合



自在コーナーキャップは 90° ～ 180°
まで対応できます。
※ 19 ページの「納まり図」参照

①キャップ上部を鼻隠しに引っ掛け、はめ込んで
ください。

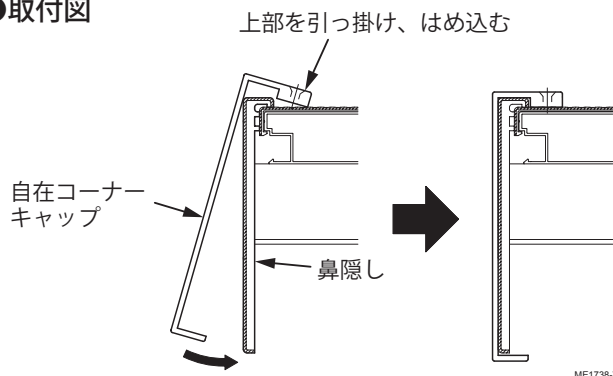
②鼻隠しとデッキ材にビスで固定してください。



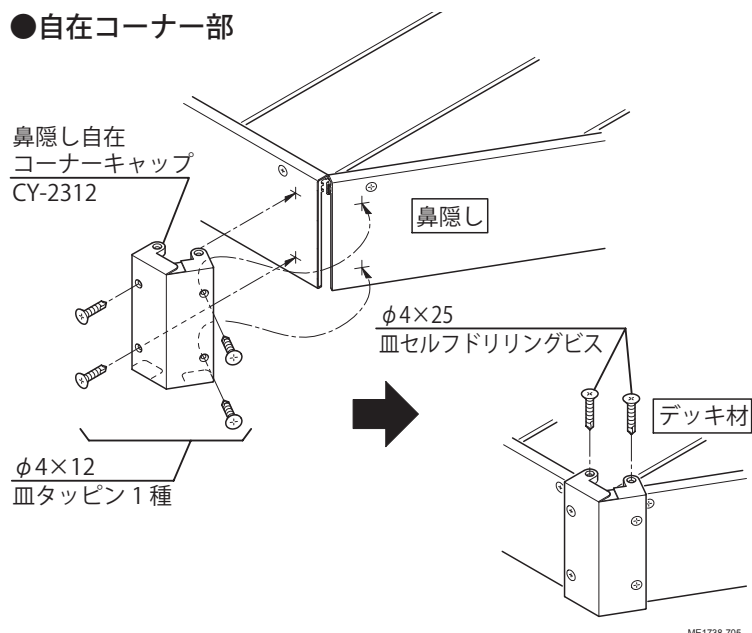
ビスを締付け過ぎないようにしてくだ
さい。

※締付け過ぎると、取付孔の破損および
緩みの原因になります。

●取付図



●自在コーナー部

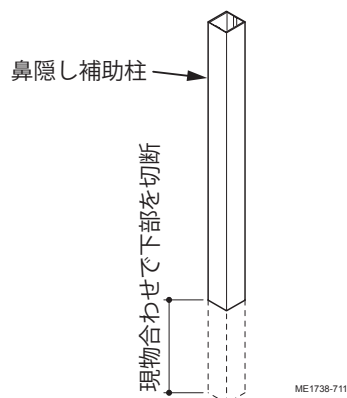


7-4 鼻隠し多段納まりの施工 (※オプション)

- ① 19 ページの「納まり図」で多段鼻隠しの取付位置・寸法を確認してください。
- ② 鼻隠し補助柱（下部）を、必要な長さに切詰めてください。



- 鼻隠し補助柱は、デッキ高さ 700mm に合わせた H 寸法になっています。
- 必要に応じて、現物合わせで切詰め長さを決めてください。（埋込み寸法 = 100mm 以上としてください。）



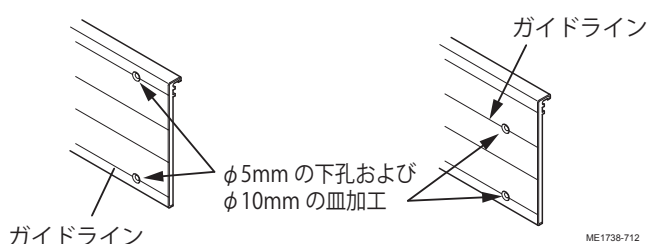
- ③ 鼻隠しに、下孔加工を行ってください。



上段・下段で、下孔加工位置が異なります。間違えないようにしてください。

●上段鼻隠しの場合

●下段鼻隠しの場合



- ④ 鼻隠し補助柱を埋込んでください。



埋込み寸法：100mm 以上

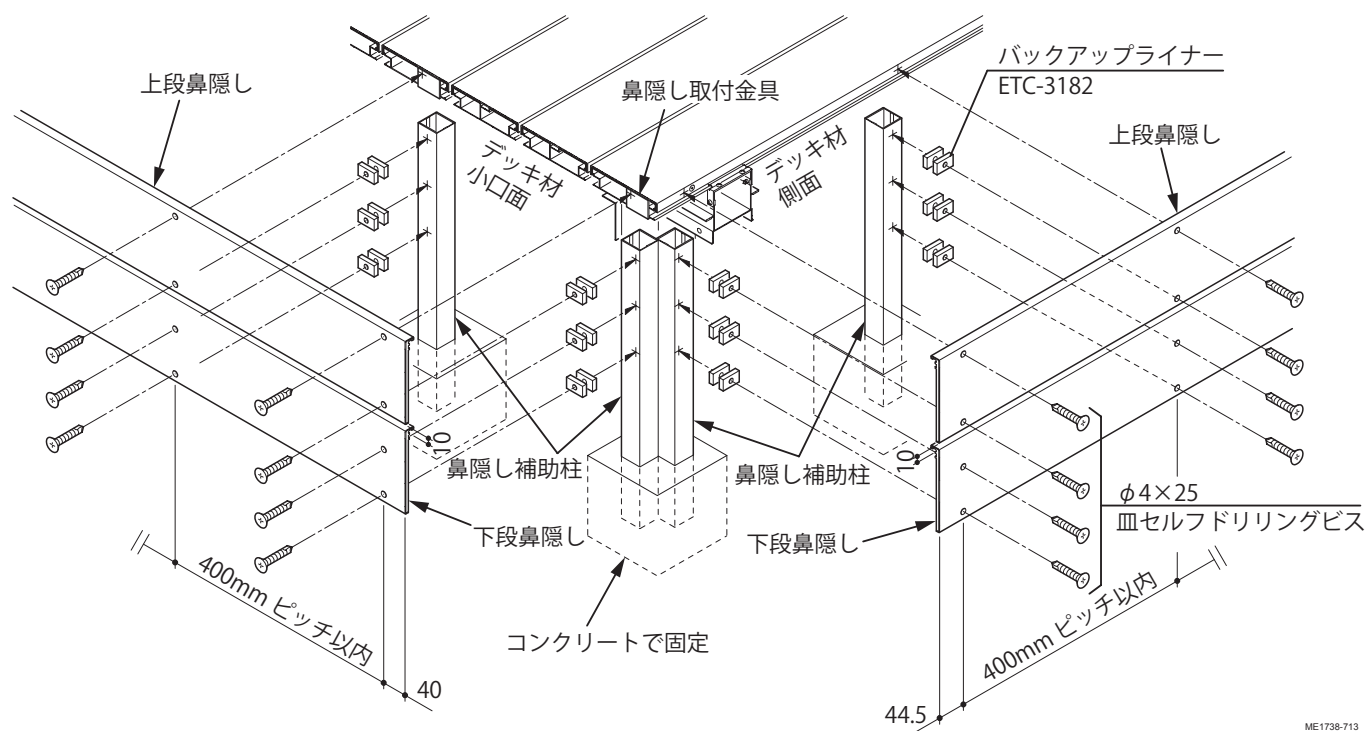


鼻隠し補助柱をコンクリートで確実に固定してください。

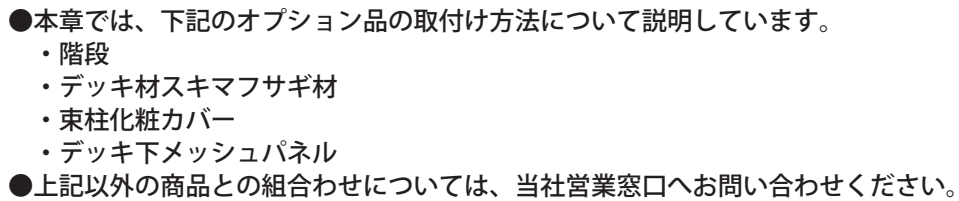
- ⑤ 下図を参照して、上段・下段鼻隠しを取付けてください。
- ⑥ 前ページの要領で鼻隠しキャップを取付けてください。



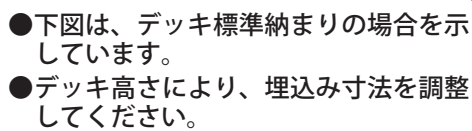
- 上側 1 ヶ所のビスについて
 - ・デッキ材小口面は、鼻隠し取付金具にビス止めしてください。
 - ・デッキ材側面は、直接デッキ材にビス止めしてください。
- 下側 3 ヶ所のビスは、鼻隠し補助柱に取付けてください。
- 連結部・入隅部の取付けは、「7-2. 鼻隠しの取付け」の要領で行ってください。



●オプション品をを取付ける場合に参照してください。



納まり図



Technical drawing of a concrete structure cross-section. The drawing includes the following dimensions and labels:

- Dimensions:**
 - Overall width: 450
 - Overall height: 206.2
 - Top horizontal segment: 178
 - Vertical segment from top to reinforcement: 178
 - Reinforcement diameter: 15
 - Reinforcement spacing: 30
 - Vertical segment from reinforcement to base: 225
 - Base thickness: 20
 - Vertical segment from base to ground level: 320
 - Ground level (GL) elevation: 225
 - Overall height from base to top: 450
 - Horizontal segment from left edge to reinforcement: 750
 - Horizontal segment from reinforcement to right edge: 70
 - Horizontal segment from left edge to base: 178
 - Vertical segment from base to top: 80.3
 - Horizontal segment from base to right edge: 4
 - Horizontal segment from right edge to reinforcement: 70
 - Horizontal segment from reinforcement to right edge: 100以上
- Labels:**
 - 階段 (Staircase)
 - 補助柱 (Auxiliary Column)
 - GL (Ground Level)

施工手順

- ①前ページの「納まり図」を参照して、階段の取付位置を決めてください。
- ②階段および補助柱の埋込み位置に基礎穴を掘ってください。



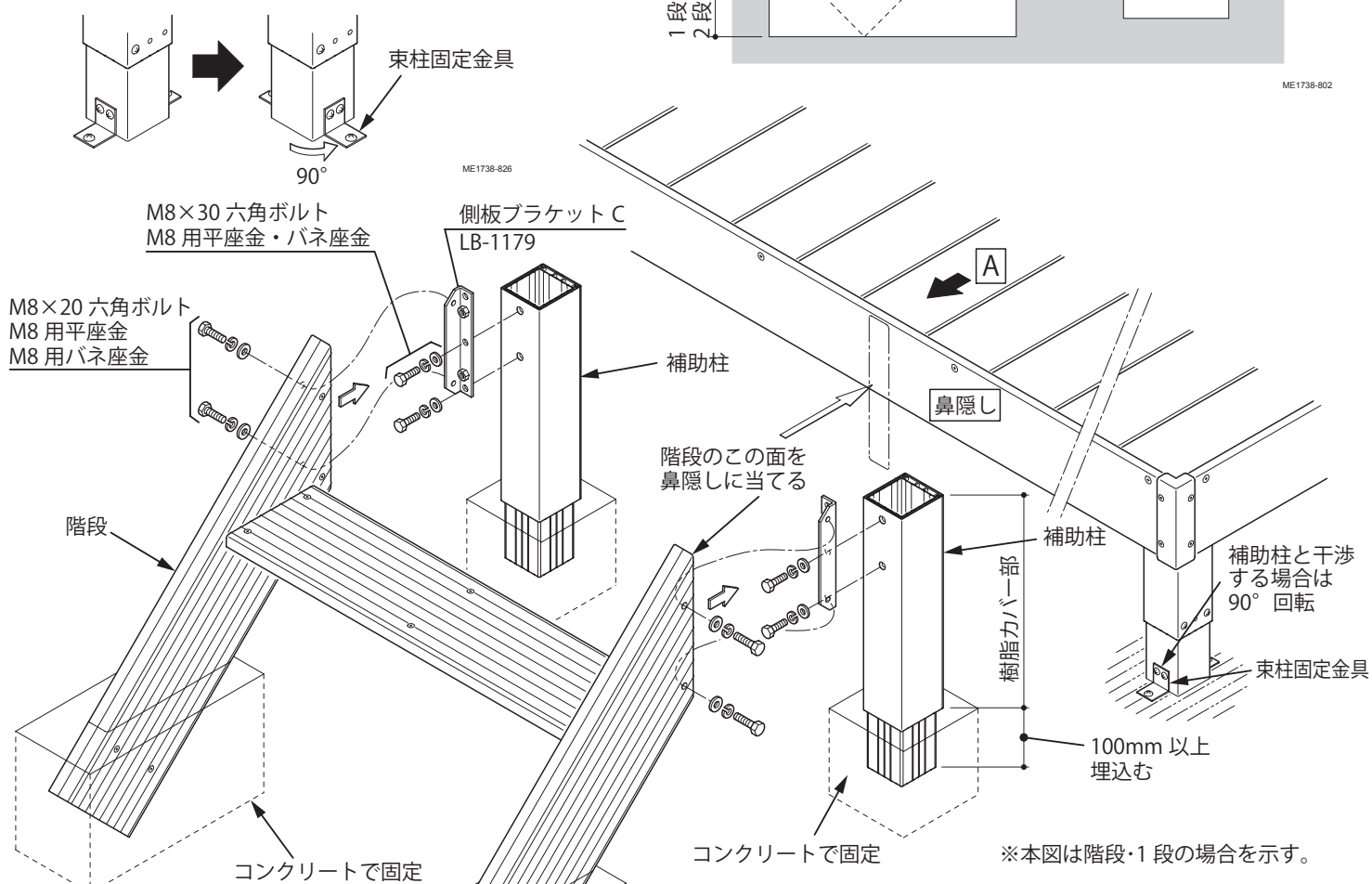
デッキ高さにより、基礎穴の深さを調整してください。

- ③下図を参照し、階段を取付けてください。



補助柱と束柱固定金具が干渉する場合は、束柱固定金具を 90° 回転し付け替えてください。

●補助柱と干渉する場合



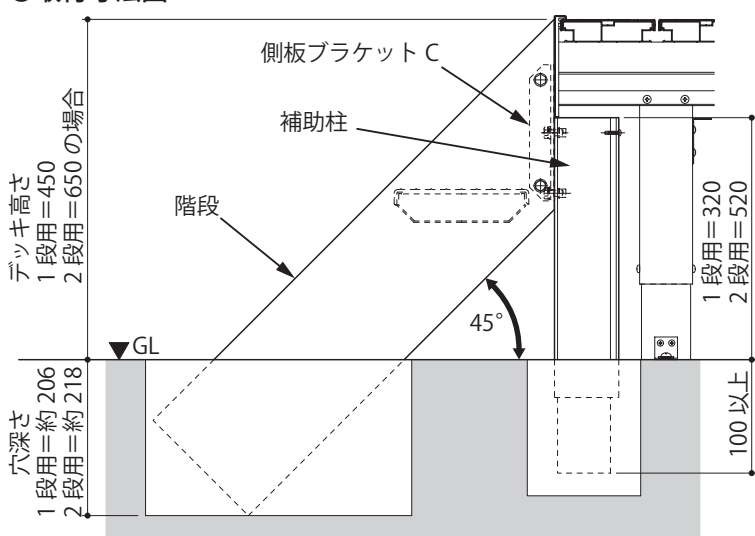
- 階段をコンクリートで確実に固定してください。
- 施工完了後、前後・左右・上端より荷重をかけ、ぐらつきがないことを確認してください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。

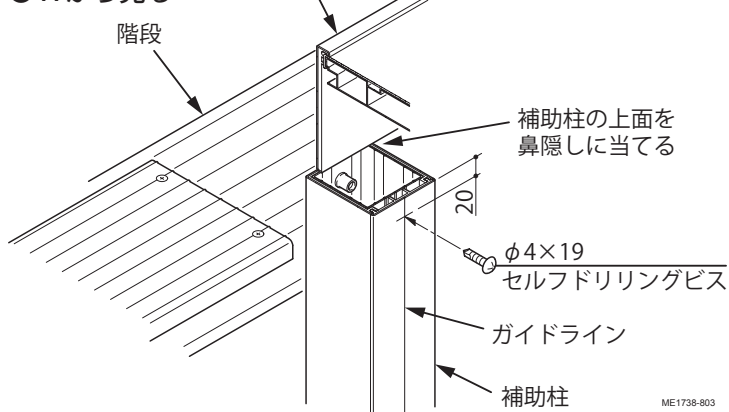


●取付寸法図



ME1738-802

●Aから見る



ME1738-803

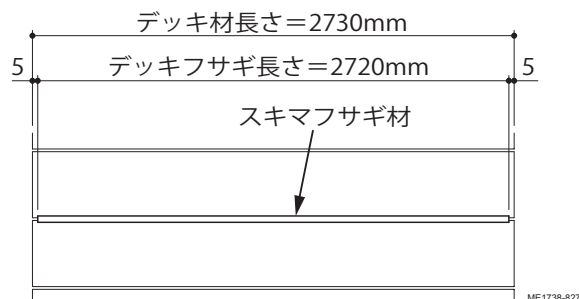
8-2 デッキ材スキマフサギ材の取付け

スキマフサギ材について

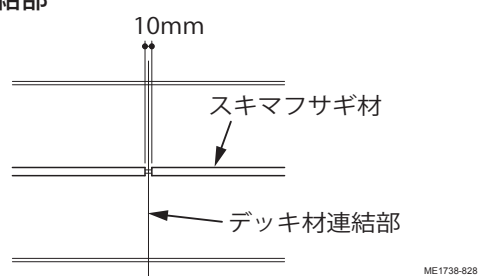


- スキマフサギ材は、両側に 5mm ずつすき間をあけて取付けます。
 - デッキ材を連結する場合は、連結部に 10mm のすき間をあけて取付けます。
- ※すき間をあけることにより、水抜き、および熱伸縮を吸収する働きがあります。

●デッキ単体の場合



●デッキ連結部



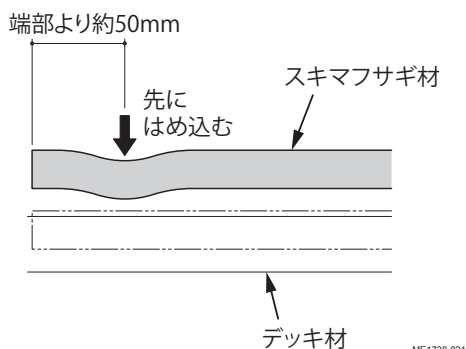
施工手順

- ①スキマフサギ材の寸法を確認し、必要に応じて、現物合わせでスキマフサギ材を切詰めてください。



両側 5mm ずつのすき間を計算して切詰めてください。

- ②スキマフサギ材端部より約 50mm の部分を、デッキ材にはめ込んでください。



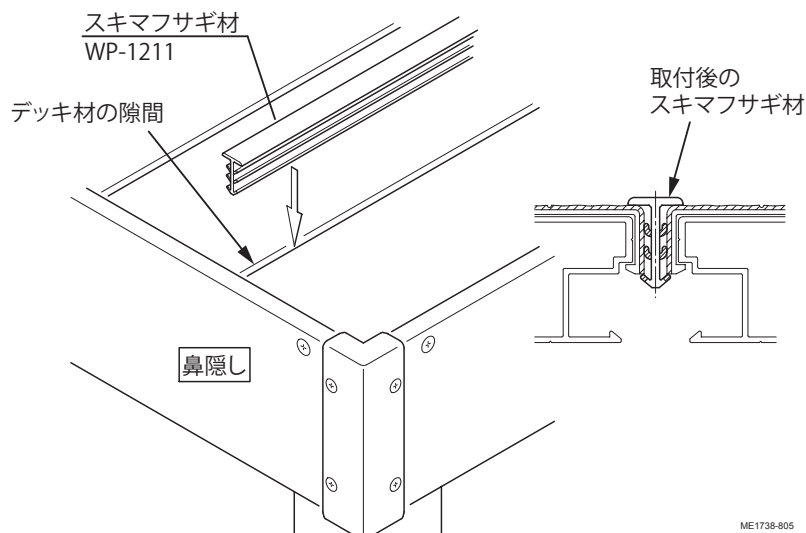
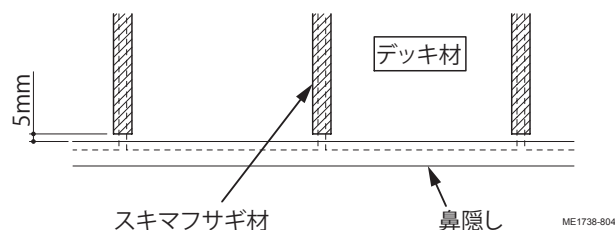
- ③スキマフサギ材全体をはめ込んでください。



必ず手ではめ込んでください。

※ハンマー等でたたき込むと、割れる原因となります。

●取付位置



8-3 束柱化粧カバーの取付け

納まり図

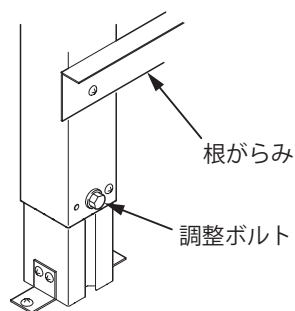


- 束柱カバーは、デッキ高さ 700mm に合わせた H 寸法になっています。
- 必要に応じて、現物合わせで切詰め長さを決めてください。(GL より 3mm の取付位置を計算してください。)

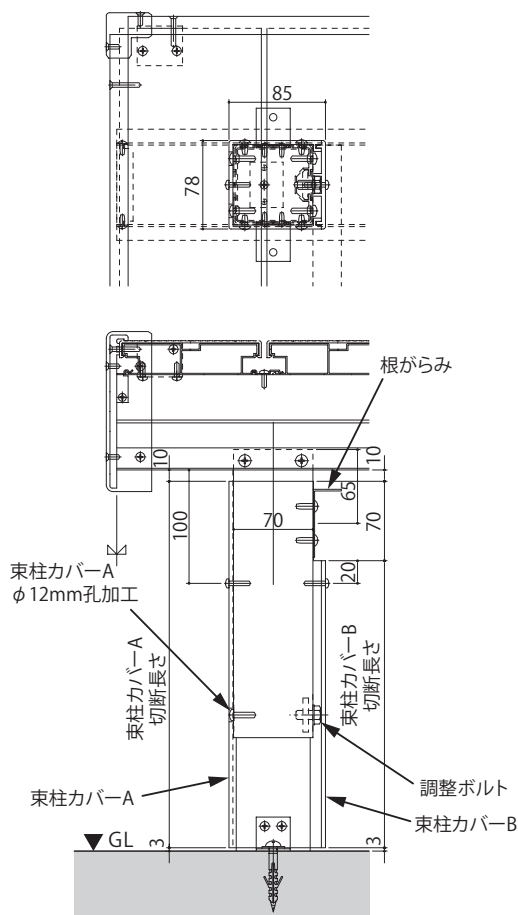


施工前に、根がらみと調整ボルトが同じ面上にあるか確認してください。
※同じ面上でないと、束柱化粧カバーを取付けることができません。

●根がらみと調整ボルトの位置



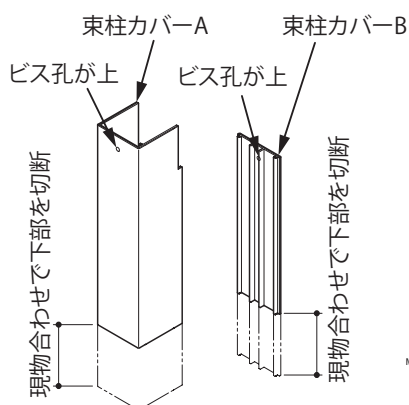
ME1738-829



ME1738-819

施工手順

- ①「納まり図」で取付位置・寸法を確認してください。
- ②束柱カバー（下部）を、必要な長さに切詰めてください。

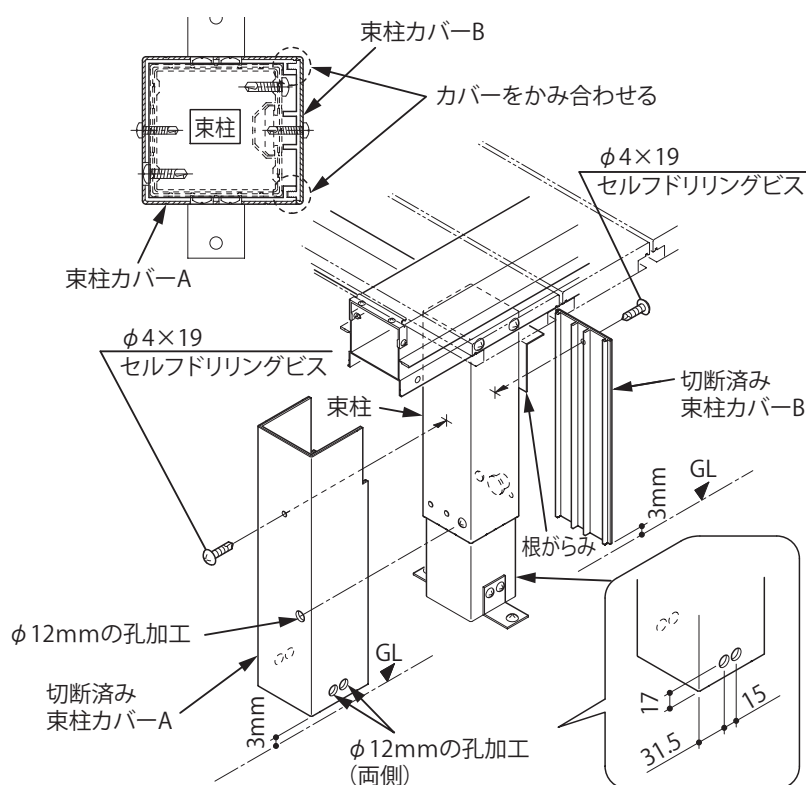


ME1738-806

- ③束柱のビス位置に合わせて、束柱カバー A に $\phi 12\text{mm}$ の下孔をあけてください。
- ④束柱カバー A・B を取付けてください。



ビスを締付け過ぎないようにしてください。
※締付け過ぎると、取付孔の破損および緩みの原因になります。



ME1738-807

■施工工事店様、販売店様へのお願い

- 「取扱説明書」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
- この施工説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年 月 日
施工工事店	TEL () -
販売店	TEL () -

株式会社LIXIL この商品についてのご質問やご相談は右記の窓口にお問い合わせください。 お客様相談室  0120-126-001

LIXIL インターネットホームページ <http://www.lixil.co.jp>